

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
【年度計画】 ・ I-1-(4)-(4館共通)ア			
担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長 救仁郷秀明 部長 尾野善裕 部長 吉澤悟 部長 河野一隆
【実績・成果】 外部資金を活用した調査研究を下記件数実施した。 (東京国立博物館) ・科学研究費補助金：14件 ・学術研究助成基金：31件 (京都国立博物館) ・科学研究費補助金：3件 ・学術研究助成基金：5件 (奈良国立博物館) ・科学研究費補助金：1件 ・学術研究助成基金：4件 (九州国立博物館) ・科学研究費補助金：5件 ・学術研究助成基金：6件			
【補足事項】 本項詳細は統計表c-⑦参照			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部資金を活用した文化財に関する調査研究を行った。調査研究の実施においては、各博物館での文化財の収集・保管・展示、教育普及活動等事業と一体的に取り組み、2年度同様順調に成果を挙げている。		
【中期計画記載事項】 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財に関する調査研究実施に際し、外部資金を獲得し活用することで、文化財の保存と活用の推進の一助とした。4年度以降も外部資金活用による調査研究の活性化を図る。		

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア a.特別調査「法隆寺献納宝物」(第42次)((4)-①-1)		
【事業概要】当館では、昭和54年より、法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長 松嶋雅人 博物館教育課長 伊藤信二
【主な成果】 (1)調査概要 ・法隆寺献納宝物の国宝「竜首水瓶」について調査を実施した(12月6日、12月20日)。 (2)調査の成果 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実物調査は2日のみとなったが、館内・館外の研究者を交えた調査メンバーを結成し、蛍光X線解析、CT画像解析、目視や内視鏡による観察を行い、材質・構造・技法・表現等に関する新たな知見を得ることができた。また追加調査として作品の蛍光X線解析、近赤外線撮影、内視鏡調査を行い、基礎情報の充実化を図ることができた。			
			
<p>国宝「竜首水瓶」の調査風景(蛍光X線解析)</p> <p>【備考】 (1)「竜首水瓶」調査日数 2日(うち、1日は外部調査員参加のうえで蛍光X線解析、CT画像解析、目視と内視鏡による観察を行い、もう1日は追加調査として蛍光X線解析、近赤外線撮影、内視鏡調査を行った。)</p>			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆寺献納宝物の国宝「竜首水瓶」の調査については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により再三延期を余儀なくされたものの、無事に行うことができ、これまでの研究蓄積に加え新しい知見を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画の初年度として、最新の機器を用いた調査を行い、国宝「竜首水瓶」の基礎情報を充実させることができた。また、4年4月に『法隆寺献納宝物特別調査概報43 竜首水瓶』を刊行し、調査研究の成果を広く一般に公開する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、調査日程に再三の変更があり、また調査回数もかなり限られたものとなったが、基礎情報の充実や新しい知見を得られたことなど、中期計画の初年度として、一定の成果をあげられたと評価した。</p> <p>今後は、外部有識者についてはこれまでのメンバーに加え、より若い世代の参加も積極的に進めたい。また、法隆寺献納宝物にはまだ特別調査の対象となっていない作品も多く、これからも継続してその全容が明らかになるよう計画的に調査を進める予定である。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア e.特別調査「絵画」第6回((4)-①-1))		
【事業概要】 当館は仏教絵画を多数所蔵し、寄託も受けている。しかし、展示や調査研究の中心は古代・中世の作例であり、総合文化展の展示体系と異なる近世の仏画については、積極的な調査研究の機会がなかった。4年度の当館創立150周年に向けて、仏教絵画コレクションの幅広い活用を検討するため、当館所蔵の近世仏画の基礎的な調査を、機構内外の専門家とともに実施し、4年度以降の特集展示、研究に活かす。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	平常展調整室研究員 古川攝一
【主な成果】 (1)調査の概要 ・プロジェクトメンバーである沖松、土屋、古川で「当麻曼荼羅図(神田宗庭隆信筆)」(天保7年[1836]) (A-12440)をはじめとした作品調査を行った(7月30日及び12月27日)。調査では図像及び表現技法を熟覧し、古代・中世の仏画作例との比較検討を行った。 ・特別展「最澄と天台宗のすべて」会期中に、沖松、土屋、古川で出陳作品である輪王寺所蔵「熾盛光曼荼羅図」(寛永9年[1632])、「摩多羅神二童子像」(元和3年[1617])の調査及び撮影を行った(11月8日)。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部の専門家を招聘することは見送り、調査の日程及び時間についても限定して実施した。			
			
(2)調査の成果 ・近世仏画は多くが制作当初の状態をとどめており、表現技法や表装について、古代・中世の仏画では失われてしまった情報を補う知見を得ることができた。 ・調査対象とした作例は、制作年代が判明する基準作であり、近世仏画の様式観を構築するうえで参考となった。 ・特別展に出陳された近世仏画を調査・撮影することで、上述の成果を所蔵者と共有し、さらにはデジタルによる撮影データは、ポジフィルムに代わる作品画像として所蔵者に活用されることが期待される。			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品のみならず特別展出陳作例について、基準作例を中心に基礎的な調査を行えたことは、当館の近世仏画の美術史上の位置づけを行う上で有意義であった。今後の展示、研究への展開が期待できる。 古代・中世の仏画と比較すると、図像や表現技法には共通する点も見られるものの、特に図像については注文者や鑑賞者の意向を反映した改編も認められた。今後は、この違いに注目して調査研究を進めることで、近世仏画の特色を見出すことができるものと思われる。また、4年度以降は基準作以外の作例の調査を進めることで、近世仏画の様式観をより精度の高いものにしていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館の近世仏画の基礎的な調査・研究を実施することができ、中期計画の初年度の計画を着実に実施できた。本特別調査においては、外部の専門家を招いての調査を行うことができなかったが、より多角的な視野で調査研究を進めるためにも、機構内外の専門家を交えての調査は不可欠と考える。新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、今後の課題としたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ 収蔵品等の有形文化財に関する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 館蔵の中国遼東地方由来の考古遺物について、当館客員研究員とともに調査と研究を行い、出土遺構の同定や個々の遺物の年代・製作地等を明らかにし、修理・展示等に向けた基礎データを整備する。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	東洋室長 市元晁
【主な成果】 館蔵の現中国遼寧省営口市蘆家屯出土の遺物群は、東洋考古列品の中でも数少ない出土地が明らかな一括資料でありながら、帰属年代や製作地について明らかでない点も多かった。そこで本業務においてこれらを明らかにすべく、2年度からの継続業務として石川岳彦客員研究員とともに①蘆家屯出土資料の調査を行ってきた。また、3年度からは②旅順考古学会関連資料の調査も開始した。			
① 昭和6年に東京帝室博物館鑑査官の後藤守一らが調査した蘆家屯3号貝墓の出土品について悉皆調査を実施し、写真撮影を行った。また、当時の発掘現場の記録写真との照合作業を行い、出土遺構を特定し、副葬品の配列状況を明らかにした。これらを総合して、同墓の年代が1世紀代であると結論した。これにより修理や展示等へ向けたデータが整備され、また日中韓の考古学界に寄与し得る基礎データを作成することができた。4月には2年度に調査した蘆家屯3号磚墓に関する論文を『MUSEUM』691号にて公開した。3年度調査分については4年度に同じく『MUSEUM』誌上にて成果を公開する予定である。			
② 戦前に旅順考古学会及び同会関係者から寄贈を受けた考古遺物について、出土地の検証を行うべく調査に着手した。これに関連して12月15日には國學院大學博物館所蔵資料の調査を実施し、蘆家屯一帯の漢代における器種構成について知見を深めることができた。			
			
蘆家屯3号貝墓出土土器及び鉄刀 (左から TJ-3013, 3014, 3015, 3017)			
【備考】 調査完了列品件数：14件 276点 (TJ-3012～3024, 2952) 撮影列品件数：14件 276点 論文：石川岳彦・市元晁「蘆家屯3号磚墓一館蔵遼東出土資料の研究(1)―」『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』第691号、東京国立博物館、4月			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館が所蔵する東洋考古の列品に対し、出土遺構を同定し、遺物の帰属年代や製作地について、最新の学術成果を踏まえて明らかにした。また、その成果を研究論文により公開した。漢代における当該地域は、古代東アジア交流の結節点のひとつであることから、日中韓の考古学界がかねて注視をしてきた。今回、当該地域の一括出土資料である館蔵の蘆家屯3号磚墓についてその位相を明らかにしえたことで、日中韓の考古学界の発展に寄与することができた。また、本研究が対象とした蘆家屯の古墓群はこれまでまとまった報告事例が少なかったことから、本業務の成果は研究上の空白域を埋めるものとして意義がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	現在、調査進行中である蘆家屯3号貝墓については、3年度中に基礎調査を終えて、4年度には論文として成果を公開する予定であるなど、中期計画を遂行できている。また、4年度からは調査成果の公開の一環として、蘆家屯3号磚墓出土品を東洋館で展示する計画である。さらに3年度から新たに旅順地域由来の考古資料について調査を開始したが、これにより漢代遼東半島の文化について多面的な理解が得られると期待される。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ 仏教美術等の光学的手法による共同研究((4)-①-1))		
【事業概要】 非常に高度な技術と優れた美的感覚によって製作された平安時代を中心とした仏教絵画の美しさの構造をより深く理解するため、光の当て方も工夫した高精細撮影と、近赤外線、蛍光撮影などによる各種光学調査を実施した。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	列品管理課長 沖松健次郎
【主な成果】 年度前半には元年度より実施してきた「重要文化財 准胝観音像」、「同 准胝仏母像」の各種光源による調査結果を『東京国立博物館所蔵 平安仏画 一光学調査報告書一』にまとめ、刊行した。(9月) 年度後半は、「重要文化財 一字金輪像」及び「重要文化財 玄奘三蔵像」について、カラー、近赤外線、蛍光写真の撮影を実施した。			
			
調査風景			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで詳細な調査が行われていなかった「重要文化財 准胝観音像」、「同 准胝仏母像」について、以前に行った当館所蔵の国宝平安仏画4作品の調査と同じ手法で、各種光学的調査を行った。その際に得られた調査結果を報告書にまとめ、刊行することで、同条件のもとで平安仏画6作品を客観的に比較検討する環境が整い、今後の仏画研究において重要な情報を提供することができた。 また、平安仏画と鎌倉仏画の両方の特徴をもつ一字金輪像にも同様の手法で調査を行うことで、今後の鎌倉時代の仏画調査への足掛かりとすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、平安時代と鎌倉時代の両方の特徴を持つ作品の調査に着手したことで、これまでの平安仏画調査の成果を踏まえながら、4年度以降に鎌倉時代仏画の調査を実施する準備を整えることができ、順調に計画を遂行できている。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ 美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究((4)-①-1))		
【事業概要】 制作年代がわかる基準作となる作例が比較的多い絵画作品に用いられた絹製品である画絹を中心に、経・緯の糸の太さや本数の比率、断面形状などを計測し、時代や国、地域による傾向の有無、特徴を抽出する。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	列品管理課長 沖松健次郎
【主な成果】 3年度は、TA-138 洞山渡水図軸 伝馬遠筆 南宋時代・13世紀、TA-140 寒江独釣図軸 伝馬遠筆 南宋時代・13世紀、TA-141 雪景山水図軸 梁楷筆 南宋時代・13世紀、TA-617 出山釈迦図軸 梁楷筆 南宋時代・13世紀、TA-642 雪景山水図軸 梁楷筆 南宋～元時代・13～14世紀の5作品について調査を実施。宋代絵画の重要作例について集中的にデータを取得した。			
			
調査風景			
【備考】			

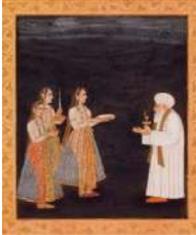
年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国絵画史を考えるうえで一つの基準となる宋代絵画の重要作例について集中的にデータを取得できたことで、今後の中国絵画の調査における基礎資料を整備することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、2年度までの日本絵画、唐代絵画とは対象を変え、宋代絵画の重要作品を調査した。これにより、中国絵画史研究において一つの基準となる宋代絵画について、重要作例のデータをまず取得したことで4年度以降の調査の基礎を作ることができた。 したがって、中期計画に沿って順調に進んでいると評価できる。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ 東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 当館の所蔵する東洋民族列品及び東洋考古列品を対象として調査研究を行い、展示を充実させる。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹
【主な成果】 (1) 調査概要 3年度は、台湾において台湾先住民族資料の調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のための渡航制限を受けて同調査を見送り、当館で開催された特別企画に関連した調査に努めた。 (2) 調査の結果得られた知見 当館が所蔵する東洋民族・東洋考古列品のうち、特にイスラーム関係資料の分類・展示活用に資する知見を得た。 (3) 調査研究の成果 これまで館蔵資料については、イスラーム関係資料という観点での分類を積極的に行ってこなかった。3年度は東洋館の東洋民族コーナーにおいて特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」を開催したため、同企画の出陳資料を調査しながら、館蔵のイスラーム関係資料の確認を行った。その成果として、当館の収蔵品には少なからずイスラーム文化の文脈のなかで捉えうる資料があることが確認できた。これらを体系的に分類することで、将来的には、当館で紹介するアジア文化の内容の幅を広げ、質を高めることが期待できる。			
    <p>細密画 インド製</p> <p>ラッカー彩筆入 イラン製</p> <p>ラスター彩水差 イラン製</p> <p>ワヤン・ゴレ インドネシア製</p> <p>※いずれも東京国立博物館の東洋関係資料</p>			
【備考】 マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」 7月6日(火)～4年2月20日(日) 東洋館 12・13室			

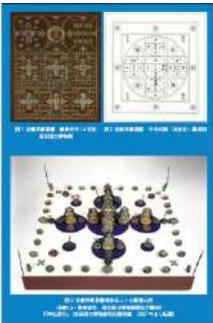
年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<ul style="list-style-type: none"> 3年度は、予定していた海外調査を中止したが、特別企画の機会を活かして、東洋民族・東洋考古資料をはじめとする東洋関係の収蔵品についてイスラーム関係資料という観点での調査を行った。 イスラーム文化はアジア文化の多様性を示すうえで不可欠の分野である。収蔵資料について、従来はイスラーム関係資料という観点による体系的な分類を行っていなかったが、これを分類して展示活用することは社会的かつ学術的な意義がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<ul style="list-style-type: none"> 従来、ほとんど展示活用されていなかった東洋民族・東洋考古資料については、平成25年の東洋館リニューアル以降、東洋館の平常展示「アジアの民族文化」や特集陳列などで展示活用されており、展示内容が着実に充実してきている。 当館が所蔵する東洋民族列品については、中国資料・韓国資料・東南アジア資料・南アジア資料・南洋資料・台湾先住民族資料などから構成されている。これらの資料は、東洋館の平常展示及び特集陳列などにおいて展示活用が期待されるため、中期計画の初年度としてその分類整理を進めることができた。 4年度以降は平常展示「アジアの民族文化」における中国少数民族資料、韓国民族資料、台湾先住民族資料などの調査に取り組みたい。 平成28年度以降、当館の東洋民族資料にちなんだアジア各地の調査を継続しており、着実に資料の分類整理と展示活用が進んでいるので、引き続き、この調査を行っていく。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する調査研究 キ 特集「那智の遺宝—出土品にみる霊地の威容—」に関する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 3年度に行った特集「那智の遺宝—出土品にみる霊地の威容—」の展示を行うに際し調査を実施した。那智を含む紀伊山地は仏教伝来以降、真言密教や山岳信仰、修験道の霊場として栄えた。大正7(1918)年以降、数多くの仏教関連遺物が出土し、当館には主として大正7(1918)年の出土品である仏教関連遺物が約250件収蔵されている。これらの遺物についてはすでに調査が実施され詳細な報告書が出ているが、その中から代表的な65点を選び、個々の品質形状様式時代伝来などを調査し、特集展示として展示した。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館教育課長 伊藤信二
【主な成果】 (1)実施概要 ・4月～5月の間に代表的な65点を選び、品質形状・様式・時代・伝来などを調査した。 ・開催期間及び開催場所：6月8日～7月18日 本館14室 ・担当者：伊藤信二(同上)、井出浩正(学芸企画部博物館教育課教育講座室長)、皿井舞(学芸研究部列品管理課平常展調整室長) (2)主な内容 ・彫刻・工芸・考古の各分野を専門とする計3名のワーキンググループを編成し、調査研究に基づいた作品選定を行い、調査を実施し、展示構成や陳列順序等について協議した。 ・熊野那智における古代の仏教信仰、平安時代以降の密教と習合した信仰、末法思想に伴う経塚造形、熊野三所権現や修験道信仰の様態を特徴的に示す作品65件を選定し、展示ケースごとに小テーマを設定し展示した。 ・各ケースのテーマをわかりやすく示すために、画像や解説を加えたパネルを作成し、各ケースに設置した。 ・同時期に開催された特別展「国宝 聖林寺十一面観音 一三輪山信仰のみほとけ」(6月22日～9月12日 本館特別5室)とは、古代以来の霊地信仰という点で共通することから、相互の回遊を促す目的で、日本の霊地信仰に関する動画を作成し会場で上映した。			
 展示風景		 解説パネル	
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	熊野三山における信仰形態は、大きく古代の仏教信仰、平安時代以降の密教と習合した信仰や末法思想に伴う経塚造形、熊野三所権現や修験道信仰に分かれるが、那智山出土の仏教遺物はおよその範疇にジャンル分けできるものであり、各信仰の特徴的な作品を選定し展示することができた。解説パネルや映像も併用することで、より分かりやすい展示を心掛けた。 またその成果について、ツイッターなどで情報発信を行うことにより、国内外に広く周知・公開し、作品の理解を深めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	彫刻・工芸・考古の各専門分野を基軸とした調査研究の成果により、熊野那智信仰の特徴を豊かに示す多数の作品をピックアップし展示するなど、研究の中期計画に沿った取組みを遂行できている。またツイッター等SNSを活用するなど、新たな情報発信の取組みを実施し、有形文化財に関する受容層の拡張と作品への理解を促進できた。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」に関連する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】3年度に行った特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」を充実した内容にするための調査研究。刀鍛冶の守護神として信仰を集めた岐阜県関市の春日神社に伝来する能狂言面と古楽面計61面(重要文化財)は、その多くが室町から安土桃山時代の作と見られる貴重な作品群であるが、科学的調査は行われていなかった。美術史的手法に加え、X線CT撮影、蛍光X線による顔料成分調査、デジタルマイクロスコープ等による非破壊の樹種調査等を実施した。その成果を広く、わかりやすく発信するため、展示手法・展示構成の検討を行った。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長 浅見龍介
【主な成果】			
(1)実施概要			
・開催期間及び開催場所：7月20日～9月26日 本館14室			
・担当者：浅見龍介(学芸企画部長)、川岸瀬里(学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員)			
(2)主な内容			
・61面を展示するために会期を3期に分けた。3期とも多様な造形を楽しめるよう展示を計画した。			
・61面全ての撮影、X線CT撮影、蛍光X線の調査及び樹種の調査を実施し構造、顔料、材に関する客観的なデータの蓄積と分析を行った。			
・会場内では、展示作品の特徴をまとめたスライドショーを流し、無料のリーフレットも配布した。			
・オンラインギャラリートークとして動画を作成し、YouTubeの当館公式チャンネル上で公開した。			
			
調査の様子		リーフレット	
(右)デジタルマイクロスコープによる樹種調査		展示室内での配布の他、ウェブサイトでもPDFを公開。8頁	
(左)蛍光X線による顔料等の成分調査			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>近世以降、型を写すようになった能狂言面の、定型化前の様相を示す作品群としてその重要性が認知されていた春日神社の能狂言面、古楽面であったが、X線CT撮影などを用いた調査は行われていなかった。</p> <p>本研究では、美術史的な調査方法に加え、科学的調査を実施するというこれまでにない手法で行い、能楽及び彫刻の歴史を紐解くうえで有用なデータを収集することができた。こうしたデータの蓄積を今後とも重ねていくことで、日本の代表的な芸能とそれにまつわる造形を総合的に考えることにつながる。今後も館蔵品を中心に調査を重ね、得られたデータを多角的に分析検討していきたい。</p> <p>また、特集展示においては、オンライン配信動画やリーフレット、会場で上映したスライドショーなど、広く一般にわかりやすく伝える工夫も行った。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>能狂言面という、研究の進んでいない分野を継続的に調査し、展示という形でその成果を広く発信することができ、中期計画を遂行できている。今後も継続していく予定である。</p> <p>動画配信など時代に合わせた方法で、わかりやすく、親しみやすい展示を心掛け、観覧者の興味関心の喚起、理解の促進を行うことができた。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「平安時代の名筆—高木聖鶴氏旧蔵品より—」に関連する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 3年度に行った特集「平安時代の名筆—高木聖鶴氏旧蔵品より—」(本館特別1室、7月20日～9月26日)を充実した展示にするための調査研究。平安時代に生み出された数々の名筆を、何回かに分けて2年度までにご寄贈いただいた高木聖鶴氏旧蔵コレクションから紹介する。その見方・美しさをできるだけわかりやすく適切に展示・解説することを目標として、展示作品や関連資料の調査によって、展示手法、展示構成の検討を行う。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長・ 恵美千鶴子
【主な成果】 (1) 作品調査 (5月13日ほか) 出品作品の調査を実施し、展示においてどのように提示するのかを検討した。 (2) 関連資料の収集 (5月6日ほか) 出品作品や関連作品の画像や関連する資料のデータを収集した。 (3) 成果とその公開 展示の際には、見どころをわかりやすく提示するために拡大画像を題箋横に設置した。また、雑誌『新美術新聞』(7月刊行)、『書21』(8月刊行)等で本展示について解説を行った。			
			
展示室に設置した拡大画像の例			
【備考】 (1) 作品、関連資料調査 調査件数：23件、画像撮影点数：55点 (2) 関連資料の収集 収集資料の件数：15件 (3) 成果とその公開 雑誌広報件数：3件			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	書跡については、その鑑賞方法が難しいと敬遠されることが多いため、展示においてなるべく多方面から魅力を紹介することは重要である。そのための準備となる調査研究は、着実に進めることができた。出品作品のみならず、関連する作品や資料まで幅広く調査できたといえる。また、本特集を紹介する雑誌において解説をすることで広く内容を知らしめることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本特集のための調査により、以前より継続してきた調査研究についても大いに進展することができ、中期計画を遂行できている。着実に調査を行うことで、関連資料の発掘もでき、研究をより深化させられた。その成果により拡大画像を設置したことでわかりやすい展示であったとの感想も寄せられた。今後もこの同じ問題関心により研究活動を続けていきたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「瓦が語る東大寺の歴史」に関連する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 当館が所蔵する東大寺に関わる瓦の調査並びに整理を行い、その成果と併せて宮内庁正倉院事務所より寄託されている瓦を紹介する特集展示として「瓦が語る東大寺の歴史」を企画、開催した。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	考古室研究員 山本亮
【主な成果】 当館所蔵の東大寺に関わる奈良時代以降の各時代の瓦について整理を行い、最新の研究に基づいて適切な名称、評価を行い、データベース上に登録した。その結果、東大寺の創建や度重なる再建に伴う各時代の典型例となる瓦を所蔵していることを改めて確認した。 加えて宮内庁正倉院事務所より寄託されている瓦を併せて紹介することで、東大寺の歴史を不足なく紹介できることがわかった。そのため、特集展示として「瓦が語る東大寺の歴史」を企画、開催した。展示に伴い、解説リーフレットを2,000部作成し配布した。			
			
展示風景			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	戦前期など研究の初期段階にあつて、当館のコレクションは基準となる位置づけを与えられることも多くあった。しかし、新しい発掘資料や研究成果が蓄積されるなかで、情報を更新すべき作品が多く存在するようになっている。この度の特集展示では、これまでに実際の作品調査に基づく地道な調査研究から改めて所蔵作品について情報を整理し、広く公開する機会を得ることができた。 この度の研究、特集展示で取り扱ったのは膨大な所蔵瓦のうち東大寺という単体の寺院を網羅したものに過ぎないが、当事業で蓄積した内容は東大寺に限らず、今後他の遺跡や寺院の瓦についても同様に研究・公開するうえでのモデルケースを構築することができたと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度である3年度に、瓦という特定の分野についてはあるが、今後の調査研究から展示企画までを見据えたモデルケースを構築できた点が評価できる。ただし4年度以降も継続して成果を公開するためには更なる調査研究と情報の蓄積が不可欠である。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「浅草寺のみほとけ」に関連する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 3年度に行った特集「浅草寺のみほとけ」を充実した展示にするための調査研究。近年実施された総合的な文化財調査の報告書を精査し、展示案を構想したうえで、各作品の新規撮影の実施、展示手法を考える必要がある。これまで公開の機会が少なかった浅草寺の仏像を広く紹介するため、出品作品の検討及び実地調査を行う。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課研究員 西木政統
【主な成果】 (1) 実施概要 ・事前調査及び撮影：4月7日、23日、5月11日、18日、19日、25日、31日、6月10日、23日、30日、7月5日 ・開催期間及び開催場所：9月28日～12月19日 本館1室 ・担当者：西木政統（同上）、浅見龍介（学芸企画部長）、皿井舞（学芸研究部列品管理課平常展調整室長）、増田政史（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員） (2) 主な内容 ・平成24～29年にかけて実施された寺内の総合調査時の調書及び報告書（『浅草寺什宝目録』1、彫刻編、平成30年）を参照し、出品作品を検討した。実地調査の上で、浅草寺の歴史を表わす作品、並びに近代の寄進においては美術史上重要な作品を中心に13件17体を選定した。 ・全作品を新規撮影したうえで、あらためて調査に及び、図像学的背景や製作年代等、美術史上に位置づけを行った。 ・全作品が掲載されたリーフレット（8頁）を発行し、無料配布するとともに、ウェブサイト上でPDFを公開した。 ・オンラインギャラリートーク（【オンラインギャラリートーク】11月「浅草寺のみほとけの魅力」）を製作し、YouTubeの公式チャンネル上で公開した。 ・浅草寺は天台宗の古刹でもあることから、伝教大師最澄の1200年遠忌を記念する特別展「最澄と天台宗のすべて」（会期10月12日～11月21日、於平成館）と会期をあわせて開催した。また、特別展に出品された縁起絵巻を用いて、浅草寺の歴史をわかりやすく伝える動画を作成し、展示への導入として上映した。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>展示風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>リーフレット</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>オンラインギャラリートーク</p> </div> </div>			
【備考】 ・西木政統（執筆）東京国立博物館編集『特集 浅草寺のみほとけ』東京国立博物館、9月28日			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内有数の観光地でありながら、通常仏像を公開していないこともあり、浅草寺と仏像のイメージはあまり結びついていない。ところが、平安時代から江戸時代に至るまで、あるいは近代以降に蒐集された仏像には注目すべきものが多く含まれる。そうした優品を調査研究の結果を踏まえて選定し、展示できた。また、展示パネルはもとより、リーフレットの配布、ギャラリートークの配信など、多角的な情報発信を心がけ、浅草寺及び伝来する文化財への理解を深めることもできた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映できたことにより、中期計画を遂行できている。寄託品の調査研究を継続しつつ、今後も多角的な情報発信を心掛けたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「江戸時代にもたらされた中国書画」に関連する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】	3年度に行なった特集「江戸時代にもたらされた中国書画」を充実した展示にするための調査研究。当館の所蔵品・寄託品から、江戸時代の日中交流史を考える上で重要な作品(黄檗禅林で鑑賞・制作された書画、沈銓及びその弟子の花鳥画、日中文人の合作、市河米庵の書及びコレクション)を選んで調査し研究した。		
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課出版企画室研究員 植松瑞希
【主な成果】	<p>(1)実施概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査実施期間：2年9月～3年5月 特集展示開催期間及び開催場所：9月7日～10月17日 東洋館8室 担当者：植松瑞希(同上)、六人部克典(学芸研究部調査研究科東洋室研究員)、猪熊兼樹(学芸企画部企画課特別展室長) <p>(2)主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本書跡担当・丸山猶計(前学芸研究部列品管理課登録室長)、日本絵画担当・鷺頭桂(前学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員)と、本展担当者で、分野を越え、本事業に関わる作品の調査を実施した。 日本絵画、日本書跡、歴史資料、東洋書跡、東洋絵画から66件を選定し、来館者にわかりやすい解説等をつけ、展示した。 主要作品について研究を進め、その成果を掲載した小冊子(24頁)を発行した。 1089ブログにて本展の概要・意義を紹介した。 		
			
	展示風景	小冊子	1089ブログ
【備考】	・植松瑞希、六人部克典、高橋真作、鷺頭桂執筆『特集 江戸時代にもたらされた中国書画』東京国立博物館、9月7日		

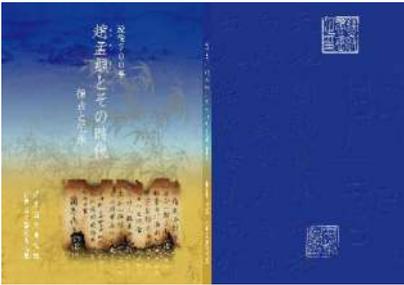
年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	事前の調査研究によって、通常は中国絵画・書跡分野の作品のみ展示している東洋館8室に、展示テーマに沿った管理分野の異なる作品を、多角的に展示することができた。小冊子、ブログ等により、一般の来館者に、わかりやすく調査研究成果を提供することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、文化財に関する多角的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映することができた。所蔵品・寄託品の管理分野を越えた調査研究を継続し、今後も魅力的な展示活動を展開したい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「没後 700 年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—」に関連する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 4年に没後700年を迎える元時代屈指の文人、趙孟頫(1254～1322)に焦点をあて、当館の所蔵品・寄託品から、趙孟頫と元時代の書画及び後世の関連作品を調査研究し、特集展示を開催して、趙孟頫の中国書画史における功績を紹介する。本事業における特集展示は、当館と台東区立書道博物館の連携事業の一環として実施する連携企画展示とする。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課東洋室研究員 六人部克典
【主な成果】 (1)実施概要 ・開催期間及び開催場所：4年1月2日～2月27日 東洋館8室 ・担当者：六人部克典(同上)、植松瑞希(学芸企画部企画課出版企画室研究員)、富田淳(副館長)、猪熊兼樹(学芸企画部企画課特別展室長) (2)主な内容 ・当館担当者と台東区立書道博物館担当者(鍋島稲子氏、中村信宏氏、西勝子氏)が連携を図り、本事業の関係作品について調査研究を実施して、画像及び資料情報を収集、整理した。 ・当館では、関連する東洋書跡、東洋絵画等102件を選定し、「趙孟頫前夜」「趙孟頫と元時代の書」「元時代の絵画」「明清時代における受容」の4章構成により展示した。 ・両館の展示作品のうち、主要作品94件を掲載した関連図録(128頁)において、当館担当者が執筆、編集協力を行った。 ・月例講演会／連携講演会(2月5日、平成館大講堂)及び1089ブログにおいて本事業の成果を発信した。			
			
展示風景		関連図録	
			
		1089 ブログ	
【備考】 ・台東区立書道博物館編集・東京国立博物館編集協力『没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—』公益財団法人台東区芸術文化財団、4年1月2日			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	趙孟頫をはじめとする元時代の書画は、日本国内における中国書画の研究及び展示では、従来、テーマとして設定されることが僅少であった。本事業における調査研究により、当館の所蔵品及び寄託品における関連作品について情報を整理することができた。また、特集展示を通して主要な作品を公開し、関連図録、講演会、ブログ等により、調査研究の成果を広く発信することができた。台東区立書道博物館との連携事業という点では、両館が同時期に同一テーマで開催する連携企画展示の第19回として継続的に実施し、中国書画に関する研究成果を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国書画分野の文化財に関する基礎的な調査研究の成果を蓄積し、展覧事業・教育普及活動等を通して広く発信し、中期計画を遂行できている。今後も所蔵品・寄託品を主として調査研究を継続し、その成果を一般にわかりやすい形で発信したい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」に関連する調査研究		
【事業概要】 3年度に行った特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」(本館特別1室・2室、4年2月8日～3月21日)を充実した展示にするための調査研究。27年から2年にかけて行われた本格修理で得られた知見も交え、国宝「医心方」の全巻及び附属文書、関連資料を紹介した。わかりやすく適切に展示・解説することを目標として、展示作品や関連資料の内容や形態を詳細に調査することによって、展示手法、展示構成の検討を行った。また、特集にあわせて図録を発行するため、その調査研究も同時に進めた。なお、本事業は、文化財保存活用基金の配分を得て実施された「医心方」修理事業の完成を記念して行われたものである。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	書跡・歴史室長 冨坂 賢
【主な成果】 (1)作品調査 <ul style="list-style-type: none"> ・本格修理期間中、文化庁、修理技術者と協議をしたうえで、作品を安全に取り扱うことを最優先事項とし、個々の出品作品の調査及び保存方法について検討、調査を重ねた。 ・取り扱いと保存に影響のないことを検証したうえで、裏打紙をすべて外すことにより、制作された当初の姿を再現した。これにより紙背文書を含む背記が容易に確認できることとなった。 (2)特集展示 <ul style="list-style-type: none"> ・かつて実現したことのなかった「医心方」30巻1冊を一堂で紹介する展示を行った。 ・作品に負荷をかけず、かつ表紙と本文を展示できる手法を保存修復室と協議し、展示具を作成した。 ・平易な作品解説を作成すると共に、年表や卷子装構造図などを掲出し、平安時代の医学書である「医心方」を分かりやすく伝える工夫を行った。 ・主要な修理工程をカラーパネルで掲出し、装こう分野の修理について紹介した。 (3)図録の制作 <ul style="list-style-type: none"> ・「医心方」30巻1冊の巻頭部分、巻第25の1及び巻第29の紙背文書を含む背記の全場面、江戸時代及び明治時代の「医心方」の動向がわかる附属文書すべてを図版で紹介した。 ・従来、「医心方」の紙背文書は、裏打紙を透かして微かに見える程度だった。本格修理により裏打紙を除去したことで、文字を明確に判読できるようになり、そのすべてを図録に掲載した。 ・本格修理にあたった修理技術者(半田九清堂)による論稿を収録し、文化財修理及び保存の側面から、「医心方」を多角的に考証した。 			
			
【備考】 ・特集展示に先立ち、当館が所蔵している医心方版本(QB-98473 安政版30冊、QA-3584 多紀家本20冊、QA-3583 坂家本20冊)全点をデジタルライブラリーで公開した。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業の実施により、公開が待ち望まれていた「医心方」の全容を紹介することができた。年度計画に沿って文化財の保存と活用を両立させながら、調査研究を実施し、展示や図録においてその成果を広く一般に公開した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業の実施により、前期中期計画において実施された修理事業(文化財保存活用基金による)の成果を、今期中期計画の初年度に公開することができた。このことにより、展示、研究、借用など、当館所蔵品の将来的な活用に大いに益することが期待されると同時に、中期計画に沿った事業として順調に推進することができた。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ク 館蔵の埴輪等資料に関する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】	神奈川県との協力のもと、当館が昭和 18(1943)年及び昭和 25 年に発掘調査を行った神奈川県横浜市瀬戸ヶ谷古墳発掘調査資料の調査研究。		
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	考古室長 品川欣也
【主な成果】	<p>(1) 調査概要</p> <p>3 年度は 4 か年にわたる調査研究の初年度ということで調査記録などの収集・整理及び出土資料の水洗や接合などの基礎作業を進める予定であったが、コロナ禍もあって中断をはさみつつ作業規模を縮小して行った。</p> <p>(2) 調査の結果得られた知見</p> <p>作業は水洗作業が完了し、過去の調査記録と合わせて出土資料の全体像が把握できるようになった。数量はコンテナ約 100 箱。</p> <p>(3) 調査研究の成果</p> <p>これまで瀬戸ヶ谷古墳出土資料は神奈川県を通じて地権者より購入した人物埴輪に加え、家、大刀・盾・鞍など器材埴輪などの館蔵品(J-36619)6 件のみが知られていた。未報告の発掘調査資料には大量の円筒埴輪とともに、既知の資料にはない馬や鹿など動物埴輪なども確認され、その内容は神奈川県下では質量ともに最大規模を誇るものであることが判明した。あわせて戦中・戦後間もない時期の調査ではあるが、調査記録から埴輪の配列の復元が可能であることが判明した。これまで埴輪は群馬県下の資料を中心として展示してきたが、本調査研究が進展することで南関東における埴輪の生産と流通が明らかになり、また復元と修復作業が進むことによって展示内容の充実を貸出などの活用を図ることができる。</p>		
			
	瀬戸ヶ谷古墳出土埴輪(J-36619のうち)	瀬戸ヶ谷古墳発掘調査資料(未報告)	
【備考】	予算は賛助会寄附金による。		

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	戦中・戦後間もない発掘調査資料ではあるが、出土埴輪は神奈川県下では質量ともに最大規模を誇ることが判明し、調査研究を進めて報告書を刊行することは学術的に極めて意義があることが判明した。また、当館の収蔵品には神奈川県下出土埴輪は少なく、整理を進めることで収蔵品の充実を図るとともに展示及び貸出などでも十分に活用できる見通しが得られた。以上の実績により、年度計画を遂行できたと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	コロナ禍もあって中断をはさみつつ作業規模を縮小して進めざるをえなかったが、中期計画の初年度として出土資料の水洗作業が無事に完了し、現在接合作業を進めている。引き続き接合作業や個体同定を行うことで4年度の計画を進める。また、国宝武人埴輪を代表に当館の所蔵品の埴輪は群馬県内出土品を中心に研究や展示が進められてきたが、瀬戸ヶ谷古墳発掘調査埴輪は新たな収蔵品の核となるめどが立った。今後は機構内の研究員や客員研究員、また神奈川県や横浜市教育委員会など地元の協力を得ながら、調査研究の内容の充実を図る。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア 近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】 京都国立博物館では長年に渡って京都を中心とした近畿地区の社寺に伝存する文化財の悉皆調査を行ってきている。3年度は、2年度に引き続き、大徳寺塔頭の龍光院（京都市北区）に伝来する文化財調査を行った。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室長 尾野善裕 調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男
【主な成果】 (1) 龍光院の調査は所蔵文化財の悉皆調査として計画されており、8月と4年1～2月に合計2回実施した。 ・8月2日～6日（絵画・書跡）：調査点数105件 ・4年1月31日～2月4日（絵画・書跡）：調査点数100件 (2) 過去に実施した社寺調査の整理を継続して行い、調書データの電子化を進めた。			
【備考】 (1) 龍光院の社寺調査 ・龍光院は大徳寺第一五六世の江月宗玩（1574-1643）が実質的な開祖となり、近世以降の日本の禅宗史の展開においても重要な役割を果たしてきた寺院である。所蔵文化財には江月ゆかりのものが多く、同院での調査は禅宗史や大徳寺の歴史研究のみならず、茶道史や美術工芸史研究の観点からも意義深いものといえる。 ・龍光院の調査では、2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、従来の全研究員参加型ではなく、分野ごとの調査として少人数で実施した。 ・龍光院での調査成果の一部は、アメリカのサンフランシスコ・アジア美術館が主催し、当館が特別協力を行う展覧会「Heart of Zen」（5年11～12月）にて紹介される予定である。 (2) 過去の社寺調査におけるデータの整理 ・新型コロナウイルス感染拡大により作業が滞るなかで、『科学研究費補助金報告書 観心寺編』（2年3月刊行）の内容を加筆修正に注力した。整理作業等の関係で未掲載であった考古資料や歴史資料の調査報告を加え、『社寺調査報告 31』（観心寺編）刊行に向けた編集作業を行った。 ・過去に実施した社寺調査の未刊行分の調書や写真資料等について整理を行った。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	龍光院の社寺調査は、2年度同様に新型コロナウイルスの感染拡大により調査を実施すること自体も危ぶまれたが、龍光院の全面的な協力もあり、流行状況が比較的落ち着いた時期に2回にわけて5日間ずつ、計10日間の日程で進めることができた。調書は順次、データ入力を行い、悉皆調査終了後には速やかに報告書を刊行できるように整理を進めた。 報告書については、2年度、新型コロナウイルスの流行拡大により刊行を延期していた『社寺調査報告 30』（金剛寺編）を7月に刊行した。また、『社寺調査報告 31』（観心寺編）については順調に準備を進め、4年3月に刊行した。 新型コロナウイルスの流行により、例年に比べると社寺調査の実施は大きく制約を受けることとなったが、分野ごとの調査をコンスタントに進め、一定の成果を得ることができた。また、2年度の新型コロナウイルスの流行は印刷物の刊行にも影響を及ぼすものであったが、3年度は入念に準備を進め、2年度分とともに2冊の社寺調査報告を刊行することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画にある有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究の一環として、3年度は龍光院の社寺調査を実施した。こうした継続的な調査研究が礎となり、当館が立地する京都市内の寺院をはじめ、近畿地方の社寺に関する知識や調査技術などが着実に蓄積できている。4年度以降も同様に調査を進め、調査データ等の確実な蓄積となるよう継続していきたい。 また、4年度はこれまでにを行った社寺の調査研究をもとにした展覧会の実施を計画している。これは調査成果を広く公開する機会であると同時に、中期計画にある、文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進するものであり、次世代への継承及び我が国の文化の向上への寄与となった。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ 訓点資料としての典籍に関する調査研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】 漢文を訓読するために施された、「訓点」と呼ばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があり、その大半は経典・漢籍・和書などの典籍にみられる。これらに付された訓点により、とくに古代・中世の日本人がどのように本文を読み下していたか、という日本語の有り様が判明する。当館では、「守屋コレクション」に代表される、国内外の良質な古典籍を数多く収蔵することから、それらを中心とする調査研究を通して得られた成果を展示や講演、及び刊行など、博物館における関連事業へと還元する。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員 上杉智英
【主な成果】 (1) 訓点の研究には、その特質に応じた専門の学識者が不可欠であるため、調査スタッフに大阪大谷大学教授の宇都宮啓吾氏（日本語学）を客員研究員として迎え、新型コロナウイルス対策に十分配慮したうえで、計2回の調査を実施した。 (2) 調査作品は重要文化財「南海寄帰内法伝巻第四残巻」や重要文化財「梵網経巻下」（以上、館蔵品）など12件に及び、今後の研究にも資するよう撮影を行った。 (3) 成果の公開としては館蔵の『起信論義記』巻下を韓国の東国大学校と共同研究し『刊経都監本 法蔵《大乘起信論疏》校勘研究』（京北大学校出版部）として刊行した。			
 <p>『刊経都監本 法蔵《大乘起信論疏》校勘研究』</p>			
【備考】 ・調査回数及び件数2回・12件 ・撮影コマ数 約80カット ・成果の公開（展示）平成知新館特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3年3月27日～5月16日） ・成果の公開（特別展記念講演会）「律とは何か」（3年4月3日） ・成果の公開（刊行論文）上杉智英「写経所文書にみる奈良時代の律蔵」（特別展図録『鑑真和上と戒律のあゆみ』、3年3月刊行）（2年度実績） ・成果の公開（刊行）上杉智英「写経所文書にみる奈良時代の律蔵」（特別展図録『鑑真和上と戒律のあゆみ』、3年3月刊行）（2年度実績） ・成果の公開（刊行）上杉智英「日本における法蔵『起信論疏』の流伝」（『刊経都監本 法蔵《大乘起信論疏》校勘研究』、5月刊行）			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、調査の実施を必要最小限に留めたため、調査回数・撮影件数等は減じているが、一点一点堅実に成果を蓄積している。併せて、調査成果の公開も着実に展示・講演・図録の刊行へと反映でき、所期の目標は達成していると判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。初年度である3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大をうけ調査回数自体は減じたが、従来の蓄積により新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究の成果を海外へも発信することができた（前掲主な成果(3)）。文献学的調査により着実に成果は積み上がって来ており、4年度以降も継続して成果を蓄積し、収蔵品の収集活動、保存修理、展覧事業の企画等に反映させていきたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ 旧家伝来の工芸品に関する調査研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】	関西圏を中心に、旧家伝来工芸品の調査を実施することにより、地域の暮らしの在り様を物質的に探るとともに、調査を通して作品の管理・保存への助言を行うのみならず、寄贈・寄託・貸与に結び付け、博物館の収蔵と展示の充実を図る。		
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長兼工芸室長 山川 暁
【主な成果】	<p>1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、京都の旧家の工芸品の調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。 4月2回、5月1回、7月1回、8月4回、4年1月2回、京都市内の旧家にて漆器の作品調査、写真撮影を行い、保存管理についての助言を行った。 4年3月 京都市内の旧家二ヶ所にて人形の作品調査を行い、保存管理についての助言を行った。 <p>(2) 成果内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧家伝来品の調査を行い暮らしの中での工芸品受容について知見を深めるとともに、今後の保存管理についての助言を行った。 		
【備考】	<p>漆工調査 回数10回(調書108件、画像撮影1417カット)。 人形調査 回数2回(調書30件、画像撮影109カット)。</p>		



漆器の調査風景



人形の調査風景

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>関西圏とりわけ京都には、四季の暮らしの中で用いた高級工芸品を持ち伝える旧家が多いが、近年の生活様式や社会環境の急激な変化により、多くの邸宅や蔵が建て替えを余儀なくされ、博物館に調査依頼が寄せられている。本プロジェクトの目的は、この要請に応え、旧家の暮らしの物質的な基礎データを蓄積し、失われゆく生活文化を記録し研究につなげることである。あわせて、旧家のかつての生業の聞き取り調査等を行い、歴史学・民俗学的な観点からも、美術品をめぐる文化の全体像の把握に努めている。</p> <p>3年度は、新型コロナウイルス感染防止への配慮しながら、可能な限り調査の要望に応じ作品調書や画像を蓄積することができた。4年度以降も、引き続き要請に応え基礎データを蓄積していきたい。</p>

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>京都文化を中心とした文化財を対象とする当館において、基礎的な研究の一翼を担う事業であり、新型コロナウイルスの状況に留意しながら、調査を継続し、写真や調書等の基礎データの拡充に努めることができた。以上より、中期計画の初年度として、順調に計画を遂行できている。4年度以降も調査を継続し、借用及び寄託や寄贈へと結びつけ、展示や収蔵の充実をはかっていく。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ 京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】			
1. 「平常展示(名品ギャラリー)」: [平成知新館・1F-2]で、当館考古分野列品を中心に通史展示を展示・公開した。 2. 「列品整備(修理・保存環境等)」: 修理品の修理後撮影で列品の資料化を進め、修理成果を展示・刊行物に活用した。 3. 「兵庫県たつの市西宮山古墳出土遺物の調査・研究」: 遺物調査報告書(昭和57年刊行)で有名な当館考古分野列品の代表的一括資料について、未報告資料の整理・調査(実測作成と撮影等)の資料化と主要資料の科学的分析を進めた。 4. 「延暦寺所蔵考古遺物の調査・研究」: 5年度開催予定の天台展にかかる特別展の準備を進めた。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員 宮川禎一 研究員 古谷 毅
【主な成果】			
1) 列品等の公開として、当館列品と寄託品を中心に旧石器時代～平安・鎌倉時代の考古資料約80件を夏期・冬期2回展示した。また、近年保存処理・安定台作製を進めてきた鉄製帯金式甲冑と文化庁所蔵品・新規寄託品などを展示した。 2) 列品等の活用準備として、修理後撮影(個別・集合)の成果は「平常展示」及び4年度「特別公開刊行物(リーフレット)」に活用し公開した。一方、列品整理・修理の成果を安全に維持・管理し、また収蔵庫内における列品等の収納スペースの確保を図るために文化財用保存用木箱の作製と燻蒸を行い、列品等収納の安全性とスペースの改善を図った。 3) 列品等の調査・研究として、西宮山墳出土品について、未報告資料(金属器・埴輪)の整理と実測図作成を行った。また、その成果を踏まえ個別及び一括品集合写真等の撮影を行い、資料化を進めた。成果の一部は、4年度「特集展示」に反映。金・銀製品等の重要資料について、科学的分析を加えることで、列品の調査・研究を推進した。 4) 「天台展」(4年4月～5月)の追加調査を実施し、延暦寺(比叡山山内)出土資料の調査と撮影等の資料化を行った。			
			
平常展示(展示風景)	修理成果公開(鉄製甲冑)	調査研究成果(集合写真)	特別展準備 (延暦寺出土資料)
【備考】			
1-1) [展示公開(名品ギャラリー)]: 考古展示(夏期6月5日～7月4日[25日間]、冬期1月2日～3月13日[65日間]) 1-2) [関連事業(研究成果公開)]: 日本文化研修「博物館見学」講座(京都大学国際高等教育院日本語・日本文化研修プログラム)「日本の原始古代の考古学 -日本列島における先史・原史・古代文化の展開-」4年1月19日 2-1) [列品整備(修理後撮影)]: 4件(2年度: 弥生土器(6件・7点): 大阪府柏原市船橋遺跡出土) [26カット]、1件(平成30～2年度継続: 鉄製甲冑(衝角付冑・頸甲): 京都府和東町原山古墳出土) [6カット] 2-2) [列品整備] 保管関係: 文化財保存用木箱製作: 25ケース 2-3) [展示公開] 特別公開「四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産 -辰砂と鉄-」(4年1月2日～3月13日[65日間]) 3-1) [調査研究] 実測調査: 列品(6件・約80点)/借用品(5件・8点)、分析調査: 列品(金・銀・金銅製品[6件])、資料撮影: 列品(須恵器[50件一括: 8カット]/埴輪・安定台[5カット]/金属製品 [一括11カット]/銅剣(5件一括[集合1カット]) 3-2) [展示公開] 特集展示「後期古墳の実像 -播磨の首長墓-」(4年1月2日～2月13日[45日間]) 4) [調査研究]: 比叡山山内出土遺物の調査撮影: (天台展予定品: 5点 [10カット])			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	考古展示室での展示公開(名品ギャラリー)は、7月～9月の特別展『京の国宝』のために短縮展示であったが、修理成果品をはじめ、新出の装飾須恵器や文化庁蔵徳島県出土流水文銅鐸を加え、ほぼ計画どおりに実施できた。調査研究を進めてきた西宮山古墳の出土品については、特集展示で調査成果を展示公開できたことは評価でき、年度計画を達成したと判断した。比叡山延暦寺国宝殿での考古遺物の追加調査は4年4月から特別展「最澄と天台宗のすべて」展示予定で、年度計画を達成できたと評価できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、3年度は館蔵考古遺物の整理調査を進め、4年度以降の展示計画を立てることができた。また考古遺物の交換展示に関する計画準備を着実に進め、4年度以降の平常展示計画を策定し、名品ギャラリーの充実に関する準備を行うこともできた。以上の実績により中期計画を順調に遂行できているといえる。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ 特集展示・特別企画に関する調査研究 ((4)-①-1))
<p>【事業概要】3年度名品ギャラリーの一環として開催した以下の特集展示・特別企画のために調査研究を実施し、その成果を展示及び関連事業を通じて公開した。</p> <p>(1)「特別企画 オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」(会期：6月5日～7月4日) ・東京2020オリンピック競技大会の開催を記念し、古代オリンピックの故事に託して日本や東洋の美術を楽しむ収蔵品による展覧会。</p> <p>(2)「特集展示 新収品展」(会期：4年1月2日～2月6日) ・元年度～2年度に新たに収集した文化財から名品約30件を展示。</p> <p>(3)「新春特集展示 寅づくし—干支を愛で—」(会期：4年1月2日～2月13日) ・4年の干支、寅(虎)をテーマとした収蔵品による展示。</p> <p>(4)「特集展示 後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳」(会期：4年1月2日～2月13日) ・当館とたつの市立龍野歴史文化資料館の共同研究に基づく展示。</p> <p>(5)「特集展示 雛まつりと人形」(会期：4年2月19日～3月21日) ・伝統的な年中行事である雛まつりを、人形を通して紹介する恒例の展示。</p>	
【担当部課】	学芸部
【プロジェクト責任者】	学芸部長 尾野善裕
<p>【主な成果】</p> <p>(1)オリュンピア×ニッポン・ビジュツ：コロナ禍の中にありながら多くの来館者がいつもと違う視点で収蔵品に親しみ古代オリンピックを知る機会を提供できた。</p> <p>(2)新収品展：当館のコレクションの深さと広がり新たな新収品を通じて来館者に理解してもらえよう努めた。</p> <p>(3)寅づくし—干支を愛で—：分かりやすい解説文の設置、低年齢層に向けたビンゴカード式のワークシートの配付等を行い、子供から大人まで幅広い層が楽しめる入門的な展示とした。</p> <p>(4)後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳：これまでも一部の作品の展示に留まっていた西宮山古墳の出土遺物を一堂に展示して兵庫県西部の古墳時代後期の様相を来館者に知ってもらう機会とした。</p> <p>(5)雛まつりと人形：現代では目にすることが少ない大規模な雛飾りを通し、雛まつりの変遷と意味を伝えた。3年度は関西の雛まつりに用いる雛食器をまとめて紹介し、行事食の観点も盛り込む展示をした。</p>	
<p>【備考】</p> <p>(1)オリュンピア×ニッポン・ビジュツ：国宝17件・重文26件・重美1件を含む収蔵品113件を新たな切り口で紹介し、このうち52件を収録する日英2言語による展覧会図録を用意した。</p> <p>(2)新収品展：元年～2年にかけて新たに当館の収蔵品となった作品のうち絵画・書跡・染織・漆工・金工・陶磁・考古の各分野の43件を展示した。</p> <p>(3)寅づくし—干支を愛で—：重文5件、重美1件を含む収蔵品36件を通して、日本と東アジアの人々が、どんな思いを込めて虎を表現してきたのかを紹介した。</p> <p>(4)特集展示 後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳：西宮山古墳出土品のうち鉄器や須恵器、埴輪など67件を展示した。併せて図録『西宮山古墳—播磨の首長墓—』を刊行して展示への理解促進を図った。</p> <p>(5)雛まつりと人形：収蔵品63件を通し、現代にも続く日本文化における人形の愛好を多言語題箋により紹介。</p>	

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	(1)は2年度開催を予定していたが、東京オリンピック2020の開催が新型コロナウイルスの影響で延期されたことにより、3年度に先送りにした企画で、オリンピック発祥のギリシアにおける精神性をアジアの文化財にみるという内容は、企画としてかつてないものだったといえる。その他の特集展示も、新型コロナウイルスの影響により来館者数が伸び悩むなどの事態はあったものの、例年にも増してバラエティーに富む内容の展示を行うことができた。また、図録の作成や関連の講演会等を通じて、来館者の文化財に対する、理解促進を図ることができたと考えられるためBと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特集展示・特別企画は、雛まつりと人形のように恒例の展示と、オリュンピア×ニッポン・ビジュツのように、時宜に適った内容の展示を年度ごとに計画し、実施している。3年度はバラエティーに富む内容の特集展示・特別企画とすることができ、中期計画を順調に遂行しているといえる。 4年度以降も、3年度同様に魅力ある展示を企画するとともに、計画的な調査研究を進め、展示に反映していきたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剥落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長 谷口耕生
【主な成果】 新型コロナウイルス感染防止のため、調査日程の変更や調査人数の制限、マスク着用・手指消毒の徹底を行うなどの対策を講じ、計画どおり下記の成果を挙げる事ができた。			
<p>(1) 愛知県立芸術大学が進める当館蔵十一面観音像及び当館蔵如意輪観音像の模写制作のため、同作品の原本熟覧及び手板色合わせ等の調査を2度実施した(4月7日、9月27日)。</p> <p>(2) 愛知県立芸術大学が進める吉備大臣入唐絵巻復元模写制作の基礎資料を提供するために、同時代作品である信貴山縁起絵巻(山崎長者巻)、当館蔵地獄草紙、当館蔵辟邪絵(神虫)、当館蔵沙門地獄草紙の料紙表面をデジタルマイクロスコープによって詳細に観察・記録する調査を実施し、辟邪絵(神虫)等の料紙表面に雲母を塗布した痕跡を発見した(7月2日)。</p> <p>(3) 東京藝術大学が進める信貴山縁起絵巻模写制作のため、同絵巻(延喜加持巻)の原本熟覧及び手板色合わせ調査を1度実施した(7月26日)。同模写制作にあたっては、東京文化財研究所と当館の共同研究報告書『朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書—光学調査編—』『同報告書—研究・資料編—』の成果に基づき使用する顔料の検討を重ねた。</p> <p>(4) 広島市立大学が進める当館蔵地獄草紙及び当館蔵両頭愛染曼陀羅の模写制作のため、同作品の原本熟覧及び手板色合わせ等の調査を実施した(9月22日)。</p>		 <p>愛知県立芸術大学によるデジタルマイクロスコープを用いた辟邪絵(神虫)の料紙調査(7月2日)</p>	
【備考】 調査回数：5回(4月7日・7月2日・9月27日：愛知県立芸術大学調査、7月26日：東京藝術大学調査、9月22日：広島市立大学調査) 調査作品数：9件(当館蔵十一面観音像1幅、当館蔵如意輪観音像1幅、信貴山縁起絵巻(山崎長者巻)1巻、信貴山縁起絵巻(延喜加持巻)1巻、当館蔵地獄草紙1巻、当館蔵辟邪絵(神虫)1幅、当館蔵沙門地獄草紙1幅、当館蔵両頭愛染曼荼羅1幅)			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査日程が変更になるなどの計画変更はあったものの、愛知県立芸術大学・東京藝術大学・広島市立大学による復元模写制作のため、当館の収蔵品の熟覧・色合わせ等の作品調査を実施するとともに、当館が撮影した高精細カラー画像・近赤外線画像を提供した。その結果、絵巻・仏画の復元模写制作の精度を飛躍的に向上することが可能となり、模写制作を通じて得られた当該文化財の顔料・基底材等の知見を蓄積することができたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、精度の高い光学的調査・熟覧の成果に基づいて彩色・料紙等の復元的考察を加え、芸術系大学が進める復元模写制作に反映するという目標を達成することができた。以上のような成果を蓄積していくことは、絵画作品を中心とする文化財の素材研究にも大きく寄与するものであり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ 古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究((4)-①-1))		
【事業概要】 我が国には、寺院を中心に古代の写経や聖教が数多く伝来している。それは、人文科学全般にとって重要な研究資料であるが、仏教学以外の分野での利活用は低調である。本研究は、当館の主要な蔵品である古代の写経と聖教を基軸に、文化財学的な立場から資料を調査し、多分野での利用に堪える基本情報の蓄積と提示を目指すものである。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長 野尻忠
【主な成果】 (1) 写経等の調査 ・個人蔵の大般若経2巻(16世紀)を調査し、薬師寺伝来の経巻であることを確認した(4月30日)。 ・慈眼寺所蔵の十誦律巻第四十六を調査し、神護寺伝来の平安時代写経であることを確認した(6月23日)。本品はその後、当館に寄託となった。 ・個人蔵の大毘盧遮那成仏神変加持経巻第六を調査し、施された白点(訓点)のうちヲコト点は円堂点であることが判明した(6月25日)。本品はその後、当館に寄託となった。 ・某所蔵の古写経断簡集と中論巻第一を、外部の識者とともに調査した(8月24日)。中論巻第一については、明治期の古美術収集家である田中光顕の著書に記された同名書そのものであることが判明した。 ・薬師寺寄託の大般若経(魚養経)について、外部の歴史学者とともに調査した(11月2日)。 ・老岐市立一支国博物館へ赴き、同館に展示中の高麗版大般若経を調査した(11月5日)。 ・個人寄託の注大般涅槃経巻第十三について、国際仏教学大学院大学所属の仏教学専門の識者3人を迎えて調査した(12月6日)。 (2) 聖教の調査 ・法隆寺伽藍縁起并流記資財帳の伝来に関わる資料を調査した(5月14日、6月3日)。 ・寄託品の六祖恵能伝、慈覚大師伝、円珍関係文書典籍など、天台密教にまつわる聖教類を、外部の仏教学や歴史学の専門家とともに、集中的に調査した(6月11日)。 ・本證寺所蔵の大恵度経宗要を調査し、これが東大寺の滝石丸という人物によって書写されたことを確認した(7月14日)。滝石丸は、館蔵の法華経(宗性願経)巻第七の後半を筆写した人物でもある。大恵度経宗要は後に当館に寄託となった。 ・仁和寺聖教調査(文化庁主宰)に、職員2名を派遣した(8月2日～6日、4年3月21日～26日)。 ・園城寺寄託の智証大師関係文書典籍(約40点)について、保存修理に向けた準備のため、美術史学や中世史学の外部識者を交えて、全点調査した(9月8日、4年2月16日～17日)。 (3) 研究成果の開示 以上の調査に基づく知見は、展覧会図録をはじめとする当館の刊行物や、展示会場のパネル類、職員による講演会などの内容に反映されている。			
【備考】 ・野尻忠「古写経と古代文字史料」(『奈良博三昧』、当館特別展図録、7月)等の論文2件、講演1件で、研究成果を発表。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度も、通常業務の合間に、機会を得て古代及び中世の写経、聖教並びに版経等を調査し、文化財情報を蓄積できた。新型コロナウイルスの流行の影響で難しい環境ながらも、外部の識者を交えた調査を実施できており、当館職員では専門性が弱い分野(仏教学など)の研究者の助言も得られている。館蔵品の別の写経と同一筆者の聖教を検出したことや、明治期の文献に記された文化財の現品が特定できたことも成果として挙げられる。一方で、元年度からの課題である金字写経の研究については、コロナ禍により専門家との協議ができず、3年度もほとんど進展がなかった。4年度は、行動制限が一定程度緩めば、積極的に専門家を招き、金字写経の材料分析を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財の調査と研究は、順調に実施できている。様々な場面で調査し、それによって得られた知見は、出版物や展示会場の解説等に反映できており、中期計画にある調査・研究成果の展覧事業への反映については、順調に実施できている。写経や聖教は、従来、書道史や仏教学の分野以外からの注目度は低かったが、近年は歴史学等の資料としても利用され始めている。こうした傾向を推し進め、資料の保全と保管環境の改善への理解を浸透させるためにも、本研究は継続性が求められるものとする。今後は、さらに調査機会を増やしていく努力が必要である。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ 仏教工芸・上代工芸の総合的調査((4)-①-1))		
【事業概要】 仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品、他の機関、社寺等が所蔵する作品にも及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館のある奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室研究員 三本周作
【主な成果】 (1) 館蔵品の調査 ・7～9月の特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」の開催にあたり、出陳候補となった館蔵品をまとめた件数調査した。(4月28日) ・この成果については、同展の展覧会図録や公開講座(7月31日)に反映した。 (2) 展覧会に際して借用した作品の調査 ・4～6月の特別展『聖徳太子と法隆寺』の開催にあたり、出陳された玉虫厨子(国宝 奈良・法隆寺蔵)の撮影を含めた詳細調査を実施した。(6月9日) (3) 他の機関、社寺が所蔵する作品の調査 ・春日大社が主体となって進める金鶴及び銀樹枝(国宝 奈良・春日大社蔵)の複製制作に関連して、同社と共同で実見調査及びX線CT調査を実施した。(9月17日、10月30日) ・東京国立博物館の法隆寺献納宝物特別調査の一環として、竜首水瓶(国宝 東京国立博物館蔵〔法隆寺献納宝物〕)の蛍光X線調査・X線CT調査を同館などと共同で実施した。(12月6日) (4) 展覧会の出陳候補となる作品の調査 ・4年度開催予定の特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」への出陳候補となっている金銅龍唐草文舍利容器屋蓋(京都国立博物館蔵)の撮影を含めた詳細調査を実施した。(12月17日) (5) 共同研究 ・共同研究「聖衆来迎寺所蔵重要文化財鍔銅三具足の制作技法に関する研究」(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共同研究)に関わる調査において、2年度までの調査を踏まえて試作した複製品と原品を対象とし、制作技法の検証を行った。(5月18日、11月1日)			
【備考】 ・調査員による調査を1回実施した。(11月8日)			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>新型コロナウイルスの影響下で、館外調査や外部調査員を受け入れた調査はほとんど実施できなかったが、館蔵品や寄託品、借用作品等の館内調査は一定の成果をあげることができた。</p> <p>館蔵品については、近年新たに購入したものを含め、これまで基礎情報が十分公表されてこなかった作品を多数調査・展示し、図録掲載や公開講座を通じて広く発信することができた。</p> <p>借用作品の調査では、日本古代の仏教美術を代表する玉虫厨子を詳細に実見調査する機会を得、これまで様々に議論されてきた制作時期などの問題を検証する有用なデータを得ることができ、今後他作例との比較研究を充実させることで一層の進展が期待される。</p> <p>また、複製制作にかかる調査においては、光学機器を併用することで作品の品質構造・技法などの詳しい分析を実施し、データの蓄積を図るとともに、試作による検証を通じて、実制作の観点から作品へのアプローチを促進させることができた。こうした成果は、複製を用いた展示の方向性を考える上でも有意義であると考えている。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画では、収蔵品をはじめとした文化財の基礎的・総合的な調査研究とその発信に重点が据えられている。その初年度である3年度は収蔵品を対象とした調査をまとめた件数実施し、その成果を発信することができた。また、光学機器を使用した分析データや実見調査のデータも着実に積み上げることができた。さらに、複製制作に関わる調査では、複製品を使用した博物館活動のあり方を考える上で有益な知見を得ることができた。向こう5年間の計画遂行に必要な基礎固めに取り組み、初年度の計画を達成し得たものと考えている。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ 墳墓出土品の調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 当館蔵の墳墓出土品の学術調査を通じて展示活用や研究発信に貢献する。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長 吉澤悟
【主な成果】			
(1)盛装男子埴輪の調査 30年度に購入した盛装男子埴輪は、両足立ちの大形全身像として重要文化財クラスの優品であるが、伝群馬県出土という以上の情報がなかった。元年度に実施した群馬県立博物館への「里帰り」に伴い、地元研究者と連携しながら調査を進め、2年度末に有力候補地を絞る成果を発表している。3年度はそれらを踏まえ、さらに赤城山南麓の古墳群の情報を収集し、当埴輪の出土古墳の同定（蓋然性）を高めている。			
(2)五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の調査 元興寺文化財研究所との連携により、五條猫塚古墳出土の帯金具の金属素材分析と、裏面に付着していた毛織物の分析を行い、文化財科学会で発表を行った。古墳時代の毛織物は下池山古墳の鏡袋（ウサギ）の他、韓国・皇吾洞100番地1号墳の織物（ヒツジ）など、ごく少数の事例が知られるのみである。本品の動物種までは同定ができなかったが、日本の毛織物の歴史において貴重な発見報告となった。			
(3)火葬骨蔵器（須恵器短頸壺・灰釉短頸壺）の調査 元年度に新規購入した奈良時代の火葬骨蔵器に関して、胎土や釉調の観察、法量計測、写真撮影などを行い、産地の同定を行うと共に、出土地の伝があるものに関しては現地における類例や関連情報の収集を図った。同品は特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション」に出陳されたため、成果の一部は特別展の図録の解説や公開講座、サンデートーク等において発表した。			
(4)古代・中世の墓誌の調査 館蔵品の行基墓誌断片や寄託品の忍性骨蔵器に関して、30年度～2年度までに行った材質分析や観察などの成果をベースに、過去の研究史との整合性や問題点の検討を行い、新たな知見の口頭発表を行った。			
【備考】			
<ul style="list-style-type: none"> ・飯田浩光・南雲芳昭・吉澤悟「奈良国立博物館所蔵の盛装男子埴輪について」『群馬県立歴史博物館紀要』第42号、3年3月31日（2年度実績） ・山口繁生・小村真理・吉澤悟・鳥越俊行「五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の自然科学分析」文化財科学会・口頭発表、9月18日 ・吉澤悟「行基墓誌断片を考える」奈良芸術短期大学歴史公開講座、於：奈良芸術短期大学、10月16日 ・吉澤悟「ちょっと良いかも、奈良博の考古」特別展「奈良博三昧」公開講座 於：奈良国立博物館 9月4日 ・吉澤悟「奈良博の壺」サンデートーク 於：奈良国立博物館、11月21日 			



火葬骨蔵器

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵の墳墓出土品に関して、館外の研究者とも連携しながら、積極的な調査・研究・発信を行うことができた。コロナ禍にあつて、2年度に始めた「珠城山古墳出土品の再検討」のような、館外の研究者を集めて再実測・再整理を行う事業は休止せざるを得なかったが、その一方、各個で資料と向き合い、それぞれの研究成果を持ち寄るかたちでの報告・発表を進めることができた。調査対象を広げ、規模を拡充させることが今後の課題となろう。また、成果を蓄積するのみならず、展覧会等に反映させて行けたことも評価されよう。

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品の調査を通して研究成果を展覧会や学会発表に発信することを目標とする中、3年度は積極的な活動を行うことができ、目標を着実に実行している。こうした積み重ねにより、中期計画の初年度として十分な成果を上げることができた。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ 南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 展覧会開催に際して借用した作品、館蔵品、寄託作品、近郊の寺社等の作品の中から、南都地域（奈良市及びその周辺地域）伝来もしくは南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品を選び、詳細な調書の作成とデジタル高精細画像の写真撮影やX線CTスキャン調査を通じ、データの収集・蓄積を行う。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長 岩井共二
【主な成果】 (1)館内外において下記の作品の調査・撮影を行った。 [作品名] 法隆寺聖徳太子二歳像（4月7日）／法隆寺地藏菩薩立像、観音菩薩立像（5月7日）／法隆寺聖徳太子及び侍者坐像（5月10日、17日）／法隆寺行道面（5月13日）／釈迦如来立像（館蔵887）（5月18日）／高福寺薬師如来坐像、石川尾添区阿弥陀如来立像（5月19日）／藤田美術館菩薩坐像（5月20日）／法隆寺菩薩立像（5月26日）／藤田美術館伎楽面（5月20日）／法隆寺六観音像（5月24日）／藤田美術館小野小町像、太閤秀吉像、菩薩坐像、菩薩半跏像、菩薩立像（5月27日）／法隆寺金堂薬師如来坐像、法隆寺六観音像（5月31日）／法隆寺伝法堂阿弥陀三尊像（6月7日）／法隆寺伝観勒僧上坐像、法隆寺行信僧都坐像（6月14日）／朱智神社牛頭天王立像（6月18日）／個人蔵不動明王及二童子像（7月1日）／京田辺大徳寺地藏菩薩立像（7月17日）／藤田美術館四天王像、十二神将像（8月3,4日）、藤田美術館四天王像、菩薩立像（興福寺千体仏）（8月11日）／現光寺四天王像（8月12日）／泉屋博古館阿弥陀如来坐像（8月20日）／隔夜寺空也上人立像（9月8日）／慶田寺観音菩薩立像、阿弥陀如来立像（11月4日）／一休寺一休宗純倚像（11月10日）／一休寺釈迦三尊像、大応国師倚像（11月11日）／大安寺十一面観音立像（12月14日） (2)調査を通じて重要な学術的知見を得ることができた。 (3)特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また、論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。一部については、4年度の刊行物において発表する。			
【備考】 法隆寺所蔵の彫刻作品は、3年度開催の特別展「聖徳太子と法隆寺」での借用品であり、調査成果及び撮影写真は、本展覧会で報告した。 新規撮影された写真や調査成果は、4年4月に開催予定の特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」の他、今後開催される展覧会や、写真の借用依頼への対応に寄与するものである。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査の成果は、今後4、5年度中に開催予定の特別展の展示構成や解説に反映させるための貴重な資料の集積となった。調査方法は、実測、撮影、3D計測、X線CTスキャンなど多岐にわたる。大安寺十一面観音立像は、4年度開催の「大安寺展」、京田辺大徳寺や一休寺における調査の成果は、5年度計画の中木津川流域の文化財を中心とした文化財を紹介する特別展開催のための基礎的な資料の集積に寄与した。 また、特別展「聖徳太子と法隆寺」の借用品や、藤田美術館所蔵文化財についても新たに撮影、X線CTスキャンを行い、今後の展覧会や、彫刻史研究に活用できる資料を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度までの中期計画に引き続き、南都に伝来しない南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、X線CT等の光学的修法による調査を行い、データの収集・蓄積に十二分の成果をあげることができた。 特に特別展「聖徳太子と法隆寺」の出陳作品については、法隆寺の国宝・金堂薬師如来坐像や国宝・聖徳太子坐像及び侍者坐像のように、通常調査や撮影ができないものが多く含まれる。この機会に得られた写真等は展覧会終了後も次代の研究資料として大いに活用が期待される。また、藤田美術館所蔵品や関連作品（隔夜寺空也上人立像）の調査成果は、3年度開催の特別展「絵画の殿堂 藤田美術館展」の図録解説や展示パネルにも反映し、研究成果の発表も行うことができた。 調査によって得られた知見についても、積極的に公表しており、中期計画の1年目として、着実に事業を行っている。コロナ禍ではあるものの、例年同様のペースで事業を進められるよう努めていく。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ 東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵及び保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光X線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、併せてデジタルコンテンツの作成を行うものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長 谷口耕生
【主な成果】 (1) 東京文化財研究所の協力により藤田美術館所蔵絵画作品の高精細デジタル画像撮影及び法量・銘文・所見等の基礎情報を収集する調査を合計7日間実施し、その成果を特別展「名画の殿堂藤田美術館展」(12月10日～1月23日開催)の展覧会図録に反映した。 (2) 奈良文化財研究所との共同研究として2年度に実施した藤田美術館所蔵仏像彩画円柱光学調査について、その分析結果を検討、今後の成果公表の方法を協議した(12月3日)。 (3) 東京文化財研究所との共同研究に基づいて、平安絵巻の代表作である国宝辟邪絵及び重要文化財沙門地獄草紙の光学的調査(高精細デジタルカメラによるカラー画像撮影、近赤外線撮影、ポリライトを用いた可視光域内蛍光撮影)を新規に実施した。			
			
		国宝辟邪絵の可視光域内蛍光撮影(12月24日)	
【備考】 調査回数： 藤田美術館絵画作品調査7日間(7月27日～29日、8月3日、9月1日～3日)、館蔵辟邪絵・沙門地獄草紙調査3日間(12月22～24日) 調査作品数 合計56件			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京文化財研究所との共同研究に基づいて、新規に当館蔵辟邪絵及び当館蔵沙門地獄草紙の光学的調査を実施し、文化財の顔料や基底材に関する基礎情報を収集した。また同共同研究の一環として藤田美術館所蔵絵画作品の全件について光学調査を着実に進め、その成果を特別展「名画の殿堂藤田美術館展」の図録等に公表した。さらに奈良文化財研究所との共同研究として2年度に実施した仏像彩画円柱の3D計測・蛍光X線による顔料分析等の調査結果に関する検討会を開催し、4年度以降の成果報告書作成に向けて協議を行うなど、年度計画に沿って、事業を遂行できたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、東京文化財研究所・奈良文化財研究所との共同研究に基づき、精度の高い光学的調査によって高精細デジタル画像及び顔料・基底材等の基礎データを着実に蓄積し、その成果の一部を展覧会に活用することができた。以上の成果は、絵画作品を中心とする文化財の素材研究にも大きく寄与するものであり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集陳列「お水取り」に関する調査研究((4)-①-1)
【事業概要】 東大寺修二会（お水取り）の歴史や伝統について、東大寺と連携を図り、広く一般に知ってもらう方途を模索し、展覧会やイベント等に取り入れて実施することで歴史や伝統文化の理解促進を図る。	
【担当部課】	学芸部
【プロジェクト責任者】	学芸部長 吉澤悟
【主な成果】 (1) 東大寺と綿密な連携を図り、お水取りの行法に関わる江戸時代の記録や実際に使われた法具類、二月堂十一面観音に関する絵画作品などの中から重要なものを選定し、保存状態の確認を行った上で特別陳列「お水取り」の展示構成を整えた。さらに実際の行法で着用された袈裟や紙衣を塔頭より借用して、展示にリアリティをもたせた。 (2) お水取りの伝統について、東大寺長老より解説をしてもらう公開講座を開催した（4年2月19日）。 (3) 修二会の行法が行われた場所、練行衆が参籠した場所、道具類のしつらえなど、お水取りに関わる現場を見学し、長い伝統をもつ行事への理解を深めてもらうためのツアーイベントを、東大寺の協力を得ながら企画し、研究成果や展覧会内容を現地で学習する機会として実施した（4年3月26日実施）。	
【備考】 ・特別陳列「お水取り」（4年2月5日～3月27日、奈良国立博物館西新館） ・公開講座「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」北河原公敬師（東大寺長老） 4年2月19日、奈良国立博物館講堂にて ・お水取り講話と現地解説の会、野尻忠（奈良国立博物館）、佐保山暁祥師（東大寺録事） 4年3月26日、奈良国立博物館講堂及び東大寺山内にて	
	
特別陳列「お水取り」会場	お水取り講話と現地解説の会
	
お水取りチラシ	

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、東大寺において1,260年以上にわたり続けられている修二会（お水取り）について、いかに多くの人々に伝えられるか、その課題に向けて魅力ある展覧会を作り、関連行事を充実させる試みである。作品の選定からイベントの構成、実施にいたるまで、東大寺の長老をはじめ多くの方々に協力を仰ぎ、単に「見せる」展覧会でなく、「体感する」展覧会へと中身を充実させることができた。古寺古社の間に位置する当館の強みを生かし、理想的な活動形態を示すことができ、年度計画を遂行できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	お水取りの展示は、東大寺との連携を図りながら今後も継続実施して行く方針である。特に2月、3月という観光の閑散期において、全国的に有名な二月堂の「お松明」見学と併存する名物企画となり得るものと期待される。展覧事業や教育普及の拡充を目標とする中、その一里塚を築くことができたと言え、中期計画の初年度として十分な成果を上げることができた。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】 本研究では、X線CTスキャナ及び3Dデジタイザ等を使用した調査によって各種有形文化財の構造及び製作技法を明らかにすること、並びに得られた成果を展覧事業及び教育普及活動に活用することを目的とする。			
【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長 木川りか
【主な成果】 (1) 展示関連作品の調査 徳川美術館所蔵の国宝「初音の調度」のX線CT調査では、作品が虫損等のない健全な状態にあることが確認でき、内部構造の詳細が明らかになった。特に「貝桶」については、側板や角の複雑な木地構造が明らかになり、これらを可視化した三次元モデルを作成し、学会発表用のポスターに活用した。また、当館所蔵の青銅三鈴杏葉については、X線CTスキャンによって鈴内部の小球である丸（がん）の形状や数が明らかになった。その他、他館と協力し、借用した考古資料や木彫像など多数の文化財の調査を実施した。 (2) 三次元データの活用 X線CTスキャナ及び3Dデジタイザによって得られた三次元データを使用し、土偶、埴輪馬及び青銅三鈴杏葉のレプリカを3Dプリンタで製作した。青銅三鈴杏葉については、内部の丸も再現し、振ることで実際に音が鳴るものとした。これらのレプリカは、文化交流展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～」におけるハンズ・オンの一環として展示した。			
			
レプリカを用いたハンズ・オン展示風景			
【備考】 ・X線CT調査件数90件、調査回数271回 ・3Dデジタイザ調査件数8件、調査回数12回 <論文等> ・大西智洋、渡辺祐基、當山綾乃「浦添市美術館所蔵黒漆山水人物螺鈿料紙箱のX線CT調査から、修復計画変更までの経緯と結果報告」『文化財保存修復学会第43回大会研究発表集』82-85（7月） ・渡辺祐基、川畑憲子、吉川美穂、田中麻美、木川りか「国宝『初音の調度』のうち貝桶、昆布箱、楊枝箱の構造及び製作技法のX線CT調査」『日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集』130-131（9月） ・川畑憲子、渡辺祐基、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（2）香道具」『東風西声』17号（4年3月） ・大西智洋、渡辺祐基、金城聡子「黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓の修復報告とX線CT調査報告」『浦添市美術館紀要』17号（4年3月） <関連展覧会> ・文化交流展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～」(7月13日～9月5日)			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は98件の文化財等の調査を実施し、保存状態及び製作技法に関する情報を得ることができた。所有者との検討会等においてデータを分析し、得られた知見は学会発表や論文、展覧会における解説パネル及びハンズ・オン資料製作等を通じて広く公開した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、X線CTスキャナ等により各種文化財の三次元データを蓄積し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に還元し、一般に発信することを目標としている。3年度は中期計画の初年度として、多数の文化財の調査を実施し、順調に推進することができた。 4年度以降も調査を継続的に実施するとともに、多様な成果の積極的な公表を推し進める。さらに、レプリカ製作等により、様々な人が楽しむことのできる展示手法の検討も行う予定である。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ 近世キリスト教に関する研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】	日本の近世(安土桃山時代から江戸時代まで)の時代性を特徴付けるキリスト教の日本伝来と禁教に関する作品の展示等を通じて、近世日本におけるキリスト教の歴史や信仰に関する研究成果を発信する。		
【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	研究員 松浦晃佑
【主な成果】	<p>2年度に引き続き、「キリスト教の伝来と禁教」というテーマで、キリスト教の日本伝来から明治時代にキリシタン高札が撤去されるまでの歴史を、来館者がたどれるように作品展示を行った(4月1日～4年3月31日)。</p> <p>江戸時代の禁教のために、キリシタン遺物はほとんど残っておらず、従来の絵画資料や東京国立博物館所蔵の重要文化財「長崎奉行所キリシタン関係資料」等の展示に加え、3年度は、教会であった建物の瓦などの考古資料も追加し、キリシタンの文化をより多角的かつ詳しく来館者に示すことができた。また、作品を展示するだけでなく、補助解説パネルを充実させ、より深い理解を促す展示が達成できた。さらに、2年度に新たに収蔵したカルデム著『日本殉教精華』などの収蔵品も展示公開した。</p>		
			
	新収品と補助解説パネルの展示の様子		補助解説パネル
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、資料調査を十分に行うことができなかったが、文化交流展における展示の充実化(補助解説パネル、収蔵品)を図ることができた。</p> <p>「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界文化遺産に登録され、日本のキリスト教の歴史への関心が高まり、当館においても重要なテーマとなっているが、来館者に近世日本のキリスト教の歴史や文化を、作品展示を通じて紹介することができた。</p> <p>これからも日本におけるキリスト教の展開について研究発信を行っていく。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>当館近隣の所蔵機関の協力も得て、展示内容が充実できただけでなく、各地域の文化財の活用・公開に資することができ、中期計画を順調に遂行できている。</p> <p>日本のキリスト教の歴史や信仰の在り方は、当館の重要なテーマであり、また世界的な関心が高まっており、引き続き、展覧事業や研究成果の公開を行う。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ 特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」に関する調査研究((4)-①-1))		
【事業概要】 27年度から元年度まで5年間実施した「きゅーはく女子考古部」の成果を発信する特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」(4年4月19日～7月24日)に向けて、女子考古部員、考古担当研究員と共同で展覧構成、作品選考、解説執筆など行う。 「きゅーはく女子考古部」は、考古好きの女性が1年間体験を通して考古学を楽しむプログラムである。「考古学の世界は男性ばかりで入りにくい」という女性の声を受けて発足した活動で、博物館での展示を含む考古学に対して女性という新たなファン層の開拓と定着に一定の成果をあげることができた。活動後のアンケートでは、「かわいい」を共感できることが女子考古部のメリットだという声が多くあり、これまでの知識偏重の考古学だけではなく、「かわいい」などの感覚で考古学を楽しみたい、という思いが強く表れている。これを受けて、「かわいい」をテーマにした展覧会やイベントを開催することとなった。			
【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員 西島亜木子
【主な成果】 (1) 展覧事業 ・作品選考 これまで活動に参加した女子考古部員約100人に、企画趣旨の説明後、作品選定の依頼をした。作品選考はオンラインで行った。その後、選ばれた作品について実際に館内で見てもらい、最終選考を行った。 ・タイトル決定 当館が提案した仮タイトルに対して女子考古部員に意見聴取を行った。部員の意見をもとに当館で最終決定した。 ・ポスター、チラシ制作 考古学に興味がない人にも目に付くようなデザインとなるよう、デザイナーと相談しながら制作した。 ・作品解説、パネル執筆 部員が作品を見た後、「かわいい」視点で作品解説の執筆をした。考古担当研究員には通常の解説を書いてもらった。パネルは、プロジェクト責任者、考古担当研究員、女子考古部員それぞれが執筆した。 ・冊子制作 「かわいい」視点で書かれた解説、通常の解説を写真とともに掲載した冊子を制作した。考古学に興味がない人にも手に取ってもらえるよう、堅苦しくないデザインとした。 (2) 関連イベント ・女子考古部員とともに、展示関連イベント「古代の宴」の企画及び準備を行った。			
【備考】			



女子考古部員による作品選考の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	女子考古部員と連絡を密にしながら本展の準備を行っており、順調に進んでいる。作品選考や展示解説執筆などを研究員ではない女子考古部員に担当してもらうなど、これまでに例のない展覧会である。また、「かわいい」という感覚から考古学の世界に入ることを目指した本展は、分かりにくいと思われるがちな考古学の世界への敷居を下げるものであるとともに、新たな考古学へのアプローチの仕方を提案するものである。幅広い層に展示を見てもらえるよう、広報に努めながら準備を進めている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、順調に中期計画を遂行している。きゅーはく女子考古部とのコラボレーション展示は、当館が目指す「市民と共生する博物館」を象徴する展覧会である。展示を通してさらに多くの市民に楽しんでもらえるよう準備を進めている。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ 水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究 ((4)-①-1))		
【事業概要】 本事業は、国内の水中遺跡保護体制の整備とその充実を図ることを目的とし、30年度より奈良文化財研究所と共同で実施している。4年目にあたる3年度は、文化庁が刊行を予定している『水中遺跡ハンドブック』の作成業務を中心に実施した。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長 河野一隆
【主な成果】 (1)『水中遺跡ハンドブック』の作成業務 『水中遺跡ハンドブック』の内容検討のため、文化庁が設置する「水中遺跡調査検討委員会」の下部に協力者による作業部会（協力者会議）を30年度に設置し、3年度は当該会議を4回開催した。（3回奈良文化財研究所開催、1回当館開催）また、原稿作成作業のため、作業部会委員、事務局等による編集会議を、主に奈良文化財研究所が事務局を担当し、4回開催した。いずれの会議も、新型コロナウイルスの状況を鑑み、オンラインを併用し実施した。当館は、読み手にとってわかりやすい『水中遺跡ハンドブック』となるように、使用する資料・写真等の収集や、イラスト制作に係る調整、文章校正補助等を実施した。委員・協力者のご尽力もあって、今後の水中遺跡調査のつぎとなる充実した内容の図書を予定通り刊行できた。 (2)国内の水中遺跡の保存・活用手法及び整備充実のための体制整備に関する調査研究 新型コロナウイルスの感染拡大により、2年度中に実施が困難であった一部事業を3年度に繰越し、『水中遺跡ハンドブック』の内容充実のため、7月に編集会議メンバーによる計4回（和歌山県串本町、神奈川県三浦半島、千葉県館山市、広島県福山市）の現地調査を実施した。各地の水中遺跡に関連する施設や遺跡等を調査し、保存・活用に関する地元自治体等の取り組み等の情報収集や『水中遺跡ハンドブック』に使用する写真の撮影等を行い、『水中遺跡ハンドブック』原稿の編集を継続的に支援した。			
【備考】 ・水中遺跡調査検討委員会協力者会議 4回（6月、8月、12月、4年3月） ・同編集会議 4回（4月※、10月、11月、4年1月）※は2年度繰越し事業			



当館で開催された協力者会議の様子



いろは丸記念館（広島県）の視察風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	3年度は水中遺跡の現地調査を実施し、関連情報の収集を行うことができた。また『水中遺跡ハンドブック』作成を継続的に支援するため、関係者・機関との会議開催や情報共有を行い、原稿素材の調達にも協力した。当該ハンドブックは、水中遺跡の保存及び活用を推進する上で、今後欠くことのできない指針となるものであり、その刊行が果たす学術的意義は非常に大きい。前述したような諸業務を計画的かつ円滑に推進していった結果、当該ハンドブックを3年度中に刊行することができたことは特筆すべき点である。以上からA評価が妥当であると考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『水中遺跡ハンドブック』刊行に向けて、オンライン会議を活用するなどして関係者・機関との調整をはかり、原稿作成への継続的な支援を行った結果、3年度中に学術的意義の非常に高い当該ハンドブックを刊行することができ、その刊行に大きく寄与することができたといえる。それに加えて新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時期での水中遺跡の現地調査なども行うことができ、水中文化遺産に関する調査研究をより大きく進展させることができた点は、所期の計画を大きく上回っている。以上からA評価が妥当であると考えられる。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2) 特別展等の開催に伴う調査研究 ア 聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 聖徳太子 1400 年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」に出展されていた作品のうち、法隆寺金堂の金銅薬師如来坐像、四天王立像（広目天・多聞天）、橘夫人念持仏厨子などの熟覧・調査を、当館客員研究員で中国彫刻史を専門とする石松日奈子氏とともにいった。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理平常展調整室長 皿井舞
【主な成果】 (1) 実施概要 期間及び場所：9月6日～7日 平成館2階4室 (2) 実施内容及び成果 ・ 法隆寺金堂四天王立像について、これまであまり詳細には報告がなされることの少なかった、表面の彩色の調査を行った。とりわけ着衣には鮮やかな色彩が残っており、飛鳥時代の彩色表現についてより深く知るための手がかりを得ることができた。 ・ 橘夫人念持仏厨子の台座腰部に描かれている羅漢像等の詳細について熟覧すると同時に、ほとんど見えなくなってしまっている厨子扉に描かれた尊像についても詳細を確認することができた。 ・ 金銅薬師如来坐像の梱包時に、像内に塗られた赤色顔料について詳細を確認することができた。			
			
調査を行った展覧会場			
【備考】 これらの成果は展示や論文にすぐさまに反映できるものではないが、当館の東洋彫刻の調査・研究を継続するなかで、『MUSEUM』等に論文や研究ノートとして報告をし、成果を公開していく予定である。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内屈指の文化財の宝庫である法隆寺の作品を調査することにより、得られた知見を国民に還元することができた。それだけでなく、当館所蔵作品を継続的に調査する一環として特別展出品作品もあわせて調査をすることによって各作品の理解をより深めることができた。今後、こうした成果を展示等に反映することができるよう、研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として今後の展示、論文等の情報発信につなげることのできる文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究を行うことができた。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア 特別企画「東アジアのうるしの世界」に関連する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 3年度に開催予定であった特別企画「東アジアのうるしの世界」を充実した展示にするための調査研究。東アジアの日本、中国、韓国では、漆という共通の材料を用いながらも、それぞれの国において独自の漆工技法を発達させて、異なる美意識や造形感覚を生み出した。そのような東アジア文化の多様性について調査研究を行い、その成果を特別企画において紹介する。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長 猪熊兼樹
【主な成果】 本調査の担当研究員は、猪熊兼樹（企画課特別展室）と福島修（調査研究課工芸室）である。日本の漆工の調査研究には、当館の館蔵品を中心に行った。中国の漆工については国家博物館、韓国の漆工については国立中央博物館の研究員を通じて各館の館蔵品について、渡航制限のなか、当館の国際交流室の協力を得ながら取材調査を行った。その調査研究を通じて、東アジアでは同じく漆という共通の材料を使いながらも、日本は漆器の表面に金粉を蒔いて文様を表現する蒔絵、中国は漆を何回も塗り重ねた厚い層に文様を彫刻する彫漆、韓国は漆器の表面に貝殻を切って作った貝片を組み合わせながら文様を表わす螺鈿という技法が発達したこと、各国では異なった装飾技法を駆使して、異なる美意識や造形感覚を生み出したことを認識した。そして、東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館が所蔵する漆工作品のなかから、漆工技法が華やかに展開した17世紀から19世紀にかけての優品を各国10件ずつ、合わせて30件を展示して、東アジアの漆工を紹介することとした。			
 <p>柴垣蒔絵硯箱 日本・東京国立博物館</p>		 <p>山水人物堆朱提箱 中国・国家博物館</p>	
		 <p>双鶴花鳥螺鈿櫛箱 韓国・国立中央博物館蔵</p>	
【備考】 展覧会：日中韓国立博物館合同特別企画「東アジアのうるしの世界」 会期・会場：7月13日（火）～9月20日（月・祝）本館特別1室（予定） 主催：東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館 ※本展は、新型コロナウイルス感染予防に伴う海外移動制限のために中止となった。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日本、中国、韓国では共通して高度な漆工文化が発達したが、各国ではそれぞれが異なった装飾技法を駆使して、異なる美意識や造形感覚を生み出した。従来、それぞれの漆工は個別に調査研究されてきたが、本調査ではそれらを相対的に捉えることで、東アジア文化の多様性を認識することができた。 ただし、新型コロナウイルスの感染拡大予防に伴う渡航制限により、研究員が作品を実見することができず、また作品自体の輸送なども行うことができなかつたため、それらを一堂に会して相対的に比較する調査研究や展示をすることができなかつた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本調査研究は、日本、中国、韓国の3か国の国立博物館による合同企画に伴う調査研究である。日中韓国立博物館館長会議に基づく活動の一環として、平成26年から巡回して、各館の文化財を一堂に集めた展覧会を開催してきた。4回目となる今回は当館を会場とし、アジア特有の工芸技法である「漆芸」に焦点を当てた展示を企画し、その調査研究を行う予定であった。 本調査研究は、新型コロナウイルス感染予防に伴う海外移動制限のために不十分な点があったが、当館の国際交流室の協力を得ながら、中国及び韓国の博物館の担当研究員たちに取材調査や意見交換をする工夫をした。その成果として展示作品の選定まで行うことができ、中期計画の初年度として、計画を遂行できている。残念ながら、本特別企画は中止となったが、その成果は当館の平常展や将来の日中韓国立博物館合同特別企画に生かす。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア 特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 3年度に行った特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」を充実した展示にするための調査研究。本展では、現在奈良県桜井市所在の聖林寺所蔵の十一面観音菩薩像（国宝）、法隆寺所蔵の地蔵菩薩像（国宝）など、江戸時代まで近隣の大神神社に伝わった仏像などを展示した。そのための事前調査として、出品作品の写真撮影、十一面観音菩薩像のCT撮影を行った。また、展覧会を紹介する動画を作成し、オンライン配信をした。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長 丸山士郎
【主な成果】 聖林寺十一面観音菩薩像、法隆寺地蔵菩薩像について、今後の研究資料となる詳細な写真を整備することができた。十一面観音菩薩像についてはCT撮影によって、木心や乾漆の形状、技法など多くの知見を得ることができた。聖林寺十一面観音像、自然信仰、技法、三輪山などに関する動画6本を製作してウェブサイト上で公開し、展覧会に関する調査研究の成果を公開した。			
			
展示の様子			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>通常は間近で観察することのできない日本彫刻史上の名品を、足場に乗るなどして詳しく観察することができた。また、来館者にも360度から見るができる展示環境が提供でき、好評を得た。</p> <p>図録には作品解説のほか、自然祭祀、神仏習合、技法、関連する歴史などの小論を6本掲載した。聖林寺十一面観音菩薩像について、CT撮影を実施し、技法上の新知見を得るとともに、今後の研究資料とすることができた。</p> <p>特別展に関連する講演会等の動画を6本製作のうえ、ウェブサイト上で公開し、展覧会の理解を深めることができた。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」を開催し、これまでに調査した成果を会場解説、図録、動画などで広く一般に発信した。</p> <p>中期計画の初年度として、順調に中期計画を遂行できている。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」に関連する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 時代、地域、ジャンルによらず、イスラーム文化全体に関する展覧会は、これまで当館のみならず、日本において開催されてこなかった。そこで、特定の国家や地域に偏ることなく、世界規模の視野でイスラーム美術を相対化させるための展示や教育普及に関する調査研究を行い、イスラーム文化が、時代、地域、ジャンルなどにおいて受容され、展開されていったかを考察した。その成果の一環として、イスラーム文化の多様性がわかるような展示や教育普及活動を行った。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部上席研究員 勝木言一郎
【主な成果】 (1) 調査概要 当館及びマレーシア・イスラーム美術館が所蔵するイスラーム美術の作品を調査した。 (2) 展示事業 7月6日～4年2月20日の期間に、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」(於東洋館12室・13室)を開催した。来場者数は12.5万人に達した。 日英2言語併記の図録を編集し、刊行した。 鑑賞者の理解を促すため、日英2言語併記のイスラーム教に関する映像を投影したほか、日英中韓4言語による章解説や年表を掲示し、作品目録、主な作品解説(いずれも日英中韓4言語)を配布した。 (3) 教育普及 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ワークショップから講演会へとイベントの内容を改め、12月8日、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演会(於平成館大講堂)を開催した。 新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、講師が来日できなかったため、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演の動画(日英2言語)を製作し、発信した。			
			
展覧会場			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	イスラーム文化に対する従来の日本の理解は必ずしも欧米に比べ進んでいると言え難かった。しかし、この展覧会を機に、イスラーム文化に対する理解を促進できた。また展示の内容も、時代や地域、ジャンルにとらわれることなく、イスラーム文化の受容と展開を相対的に見せることができた。 以上の実績を踏まえ、年度計画を遂行できたと判断し、B評価とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの蔓延により、海外からの渡航者の禁止あるいは制限、来場者の制限など、事業を達成するには極めて厳しい状況にありながら、中期計画の初年度として必要な調査研究を遂行できた。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア 特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」に関する調査研究 ((4)-①-2))		
【事業概要】特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから」の実施に向けて調査研究を行い、その成果を展示、図録、会期中の講座、ホームページなどを通して公開する。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室研究員 森道彦
【主な成果】 <p>国宝指定を受けた京都ゆかりの文化財を多数展示しつつ、日本の文化財指定のあゆみと文化財に関する各種事業の意義、文化財と社会との関わりを広く紹介するという展覧会内容をふまえ、日本の文化財史に関する資料や文献調査を実施し、それらの成果を展覧会図録や講座などで発表した。調査先は文化庁、東京国立博物館、奈良国立博物館、公益財団法人美術院や京都府下の社寺などで、所蔵者と連携しながら新資料の搜索や研究を実施した。特に主催者の一員である文化庁と連携し、博物館とは異なる文化財保護行政の視点や知見を出来る限り汲み取り、展示内容に生かすよう努めた。</p> <p>文化財保護のあゆみは、当館を含む我が国の国立博物館の成り立ちや意義に深く関わる極めて重要なテーマであり、館史などをよりよく知る上でもその研究は欠かすことができない。本調査研究を通じて、日本の近代史や博物館史において重要な多くの知見が得られたほか、いわゆる「国宝展」にあつて、ものの鑑賞と表裏一体にある保存、保護の営みを提示するこれまでにない機会ともなり、展示の方法論や手法等についても従来にない多くの知見が得られた。</p>			
			
【備考】 展覧会会期 7月24日～9月12日 展覧会図録の作成 多言語による展覧会鑑賞ガイドの作成 記念講演会6回 文化財修理に関する映像上映 ホームページ「京博ものがたり」の作成			

鹿苑寺内 調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>2年度夏に文化庁主催のもと、別施設（京都市京セラ美術館）で予定されていた同名の展覧会を急遽、当館で大幅に再構成し実施することとなったもの。準備期間は1年未満であったが、従来の国宝展観とは一線を画す、独自色が強く完成度も高い内容に仕上がりに、長年にわたる当館の着実な研究蓄積によって成し得た事業であったと評価できる。会期を通じて新型コロナウイルス第5波と緊急事態宣言発令の影響を受け、来館者数は伸び悩んだが、読売新聞社による紡ぐプロジェクトや、NHKによる8K文化財プロジェクトをはじめ、社会的に文化財やその修理への関心が高まっている時期であり、文化庁と協働して文化財の指定や研究、修理、模造といった文化財保護に必要な様々の事柄を総合的に示すことができたのは時宜にかなうもので、重要な社会貢献をすることができた。文化財指定のあり方をはじめ、古い品々を取り巻く社会情勢が極めて大きく変化している今日、我が国の文化財保護の背景となった様々の歴史事象や変遷をたどり、再確認していくことは文化財保護の将来設計をする上で欠くべからざることである。</p> <p>文化庁と博物館が協働して文化財保護に不可欠な各種事業を幅広く、通史的に考察することで得られた成果や知見は多く、展示を通じて文化財保護史にとって新たな観点を提示することができた。</p> <p>以上を踏まえて、A評価が妥当であると考えられる。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>京都を中心に古社寺の文化財を保護し活用する場とすべく、明治30年に開館した当館は、その成り立ちからして文化財保護に関する調査研究を一大課題と位置付けている。既に2年度も特別企画「文化財修理の最先端」を実施し、日本の文化財修理の基地とすべき修理所を抱える当館の意義を紹介する展示を実施したところであった。改めて中期計画の初年度にあたる3年度に実施した「京の国宝」展は、こうした問題意識に沿いつつ改めて文化財保護制度そのものを取り上げる企画であり、大きな成果を上げることができた。3年度からは科学研究費等を活用しながら館史史料のアーカイブや研究にも努めており、本展を嚆矢とするこれらの継続的な研究を通じて、当館の重要なアイデンティティである文化財保護の意義をよりよく社会に発信できるようにする。4年度以降も引き続き研究を継続し、各所と連携しながら成果公開に努めていきたい。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 イ 特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」に関する調査研究 (4)-①-2))		
【事業概要】 特別展「畠山記念館の名品」実施に向けて調査研究を実施し、その成果を展示、図録、教育普及や会期中の講演会などを通じて広く一般に公開する。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男
【主な成果】 畠山記念館は、茶道具を中心に、書画、陶磁、漆芸、能装束など、日本、中国、朝鮮の古美術品を収集し、国宝6件、重要文化財33件、重要美術品7件を含む約1,300件にも及ぶコレクションを有する美術館である。改修工事に伴い、その期間中に当館においてその所蔵品を保管することとなり、作品の調査研究を進めている。展示作品としては200件を超える各分野の作品を畠山記念館と連携し、調査、写真撮影を実施した。また、畠山記念館の創設者である畠山一清の数寄者としての視点でも検討を行い、一清と関係のあった人物との交流や事象などについても調査、写真撮影などを実施した。それらの成果をもとに展示を構成し、図録や講演会などにも反映した。 畠山一清をはじめとした近代数寄者と呼ばれる人物についての研究は、当館においても元年度に特別展「流転 100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」を開催するなど近年盛んに進めてきており、今回も個々の作品研究とともに、数寄者間の交流や茶の湯や能楽などの深い関係や流行などについても研究を広め、新知見を得ることができた。			
 <p style="text-align: center;">展覧会図録</p>			
【備考】 調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男、企画室長 山川暁、保存修理指導室主任研究員 福士雄也を中心に、各分野研究員と畠山記念館学芸員とも共同で調査研究を行った。 ・出品件数 228件(うち国宝6件、重要文化財31件、重要美術品7件) ・展示会期 10月9日～12月5日 ・展示図録の作成、多言語による解説、学芸生向けのリーフレットの作成、記念講演会4回を行った。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>新型コロナウイルスにより、調査研究を進めることが難しい面もあったが、各分野研究員によって200件をこえる作品の調査研究を進めたことにより、展覧会の準備を円滑に進めることができた。その成果を展覧会や図録、講演会などにおいて広く一般に公開することもできた。</p> <p>また、個人コレクションをもとにした美術館所蔵品の特徴や傾向などについて、研究蓄積を行なったことや近代数寄者の動向などについて研究を深め、新たな知見を見出し、それらを図録、講演会などにおいて提示できたため、Bと評価する。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>事前に作品調査を行い、新知見を含む内容をそれぞれの作品担当研究員によって図録反映できたことは学術的にも意義深く、成果としても大きなものとなった。また、新型コロナウイルスによる影響が大きいなか、感染症対策に努めることで来館者に安全を配慮した形での展覧会を開催することができたことは学術研究だけでなく、社会的還元の観点からも意義があり、中期計画を順調に遂行したといえる。</p> <p>今後も引き続き畠山記念館の所蔵品や個人コレクション、近代数寄者などのいった個別の課題について研究を継続し、その成果を展覧会、講演会などを通じて社会に還元していきたい。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ウ 特別展「伝教大師 1200 年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて」に関する調査研究 ((4)-①-2))		
【事業概要】 標記特別展実施に向けて、巡回 3 国立博物館（東京・九州・京都）が協力して、天台宗に関わる文化財の調査研究を行った。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長 大原嘉豊
【主な成果】			
<p>・延暦寺に所蔵される勅封唐櫃の納入品について、はじめてとなる総合的学術調査を 2 年秋に実施した。同唐櫃は、5 年に一度の法華大会のみに開封されるもので、勅封唐櫃が近代になって新調されるに至る歴史的経緯を明らかにした。この成果は展覧会図録に反映させた。</p> <p>・3 年秋、東京国立博物館において重要文化財「薬師如来立像」（京都・法界寺蔵）、及び 3 年冬に九州国立博物館で「菩薩遊戯坐像」（愛媛・等妙寺蔵）の CT 撮影調査を実施した。いずれも秘仏であり、借用に伴う移動で各館の施設を活用して実現できたもので、「薬師如来立像」の中に納められており、現在は実見することができない胎内納入像の 3D 画像化などに成功した。この成果は京都会場で公開する予定である。</p>			
			
勅封唐櫃 延暦寺所蔵			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	天台宗の歴史全般に及ぶ幅広い分野での調査を行った。とりわけ、開催3館の積極的な協力により、平素は調査が極めて難しい勅封唐櫃や秘仏の調査を実施した。調査成果は各会場で適宜公開され、最終会場である京都では調査成果を集大成する予定である。社会に還元するという点で、今後の巡回展における機構各館の共同調査研究の一つのモデルとなりうるものとする。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展という予定会期の制約がある中で、調査研究の上で一定の成果をあげることができ、特別展という性格を活かして図録や会場解説にその成果を公表できたため、中期計画の初年度を順調に遂行することができたといえる。よって、Bと評価する。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2) 特別展等の開催に伴う調査研究 ア 特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション」に関する調査研究		
【事業概要】 本展覧会は、奈良国立博物館の館蔵品の中から選定した彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門にわたる合計 246 件の文化財を通じて、日本仏教美術 1,400 年の歴史を全 10 章のテーマに沿いながら概観するものである。館蔵品のみで展示を構成することにより、長年にわたって蓄積された当館研究員による調査研究の成果を公開するとともに、教育普及の見地から、ジュニアガイドや親子向け・外国人向けのパネルや題箋を活用し、仏教美術がもつ魅力や学術的価値を平易な日本語や多言語によって紹介するために検討を重ねた。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長 谷口耕生
【主な成果】 (1) 調査の概要 ・ 彫刻、絵画、書跡、工芸、考古の各部門主任を中心に調査成果を踏まえながら出陳作品について協議を重ね、各部門 50 件前後、合計 246 件を選定した。展示レイアウトは部門別に分けるのではなく、10 章のテーマに沿いながら部門を横断する形で仏教美術の歴史をたどる構成とした。とりわけ当館は仏教美術で名高いが、第 10 章においては、横山大観の近代絵画や埴輪などの考古資料のほか、時代やジャンルが広範囲に及ぶ作品を展示し、当館のコレクションの諸相を広く紹介できた。 ・ 過去の図録で未紹介の作品や新収蔵品、構造が未解明の重要作品を中心に最新の光学機器を用いた調査を実施し、そこで得られた銘文、納入品、材質などに関する新知見を展示パネルや図録上で公表した。 ・ 館蔵品収集に関する文書・古写真資料の調査を実施し、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門別にその経緯や特色について分析を行った。その成果は展覧会図録の各論及び会期中に実施した合計 6 回の公開講座で公表した。 (2) 図録・題箋原稿の執筆及び多言語への翻訳 ・ 出陳全作品全点に関する基礎情報及び作品解説の日本語原稿を作成し、記述の正確さと読みやすさを担保するため、各部門の研究員による原稿の読み合わせを行いながら修正を重ねたうえで、図録・題箋・パネルに反映した。このうち題箋原稿全点を英語・中国語・韓国語に翻訳し、図録・題箋パネルに反映した。 (3) ジュニアガイド・親子向けパネルを活用した教育普及 ・ 仏教美術をより幅広い客層に親しんでもらうため、イラストと平易な解説文によるジュニアガイド・親子向け題箋パネルを作成し、展示会場内で配付・設置した。その作成に際し、解説で取り上げるべき内容について展覧会担当者と教育普及担当研究員が何度も協議を重ね、記述の正確性を担保するために各部門研究員が監修を行った。			
			
展示風景		展覧会図録	
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展覧会は、館蔵の優品を通じて日本仏教美術1,400年の歴史並びに仏教美術以外の他分野にわたるコレクションを概観するものである。仏教美術に対する社会一般の関心が高まるなか、日本仏教美術の歴史の流れを平易に紹介するという国立博物館で初の試みであり、部門の垣根を越えて10章のテーマに即しながら作品を展示したことで、作品相互の重要な関係性を立体的に示すことができた。さらに光学調査や文献・古写真調査によって、作品の構造や伝来過程が明らかとなるなど、学会に裨益する重要な成果を公表できたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、館蔵品に関する調査研究の成果を展覧会の展示・図録・講座・動画・教育普及等に反映するという目標を達成することができた。以上の成果は、今後の展示活動、調査研究、作品貸与、ウェブサイトで開催中の館蔵品データベースの更新など、将来における館蔵品の活用・公開に大いに有益であり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2) 特別展等の開催に伴う調査研究 イ 第73回「正倉院展」に関する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 特別展「第73回正倉院展」の開催に当たり、円滑かつ安全に展覧会を遂行し、最新の成果を広く国民に周知するため、当該年度に出陳される宝物を含む宝物全般についての調査・研究、展示環境についての調査・研究、観覧環境についての調査・研究、その他宝物の輸送方法など、多角的に研究を行う。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室研究員 三本周作
【主な成果】 (1) 宝物についての調査・研究 ・宮内庁正倉院事務所の協力を得て、出陳宝物に関する調書を読覧し、一部の宝物については実見調査を実施した。 ・上記で得た知見は、展覧会図録の作品解説や論考（宝物寸描）、会場での解説パネル、公開講座などに反映した。 (2) 展示環境についての調査・研究 ・学芸部保存修理指導室を中心に、これまでの展覧会開催時の展示室・展示ケースの温湿度データを精査し、適切な環境下での宝物の展示を検討した。 ・会期中も展示室や展示ケースの温湿度を常時監視し、必要に応じて設定変更を行うなど対処し、適切な保存環境を維持した。 ・上記については宮内庁正倉院事務所との事前協議や逐次の情報共有を行った。 ・会期終了後には塵埃の検査を実施し、正倉院事務所へ結果報告を行った。 (3) 観覧環境についての調査・研究 ・2年度の入館実績や昨今の感染状況を踏まえて適切な入場制限のあり方を検討し、大きな混乱なく2年度より多くの方に鑑賞いただくことができた。 (4) その他 ・宝物の安全な輸送方法について、正倉院事務所職員と検討した。 ・出陳宝物の魅力的な展示方法について、造作・照明業者と検討した。			
【備考】 ・宝物に関する内部検討会を2回実施した。 ・新たに執筆された解説文について、学芸部職員全員が参加する研究会で検討した。 ・公開講座 3回 片岡 真純 氏（宮内庁正倉院事務所保存課整理室員）「正倉院の染織品にみる文様染め技法」 杉本 一樹 氏（宮内庁正倉院事務所宝物調査員（前所長））「正倉院の筆」 吉澤 悟（当館学芸部長）「正倉院のガラス器についてー白瑠璃高坏を中心としてー」			

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響下で感染予防の対策が強く求められる中、3年度も事前に周到な検討を重ねたことにより開催を実現できた。特に2年度よりも来場者数の制限を緩和し、かつインターネットを通じた展覧内容の動画配信を行うなど、成果の広範な普及が実現できた。 正倉院宝物に対する国民の関心は高く、正倉院展は宝物の魅力を広く発信するほぼ唯一の場として重要な意義がある。3年度も出陳宝物を中心に関連資料の収集や実見調査などを重ね、最新の研究成果も含めた精度の高い情報を、会場の題箋やパネル、図録、公開講座を通じて発信することができた。 正倉院展の開催の前提として、宝物の安全の確保がある。3年度もこれまでの実績を踏まえつつ、会場の温湿度環境などの現状を正確に把握し、また宮内庁正倉院事務所との密な連絡をとりながら、着実に安全性を確保することができた。これまでに前例のない作業を行ったことも含め、今回の取り組みが将来の正倉院展、さらには他の展覧会事業にも大きく貢献するものと確信している。

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画においては宝物に関する調査研究とその成果の発信が重点項目となっている。中期計画の初年度となる3年度は、昨今のコロナ禍の影響で来場者数制限やイベントの縮小などの制約が伴ったが、展覧会を安全な形で開催することができた。</p> <p>宮内庁正倉院事務所の協力を得て、調書を読覧や実見調査を実施し、出陳宝物を中心とした宝物に関する情報を収集・蓄積することができた。また、この調査研究の成果については、会場での解説パネルや図録、公開講座、動画配信などを通じて広く発信することができた。</p> <p>上記のような観点から、当該項目の中期計画を着実に遂行できていると考える。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2) 特別展等の開催に伴う調査研究 ウ 特別展「名画の殿堂 藤田美術館」に関する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 本展覧会は、藤田美術館の所蔵品から選定された絵画作品 74 件を出陳し、全 7 章を通じて平安時代から近代に至る日本絵画史の流れを概観するものである。事前に藤田美術館と共同で実施した同館所蔵絵画作品悉皆調査の成果に基づいて数多くの初公開作品を紹介し、作品の基礎情報を図録や公開講座で公表した。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長 谷口耕生
【主な成果】			
(1) 調査の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 藤田美術館との共同研究として 31 年度春より 2 年半にわたって、藤田美術館所蔵絵画作品の悉皆調査を実施。調査には当初より当館絵画担当研究員、藤田美術館学芸員に加え、当館客員研究員・板倉聖哲氏（東京大学教授）、当館調査員・中野慎之氏（文化庁調査官）が参加し、板倉氏が中国絵画及び日本中世水墨画、中野氏が日本近世及び近代絵画を中心に作品の所見を提示した。 3 年度は 7 日間（7 月 27 日～7 月 29 日、8 月 3 日、9 月 1 日～9 月 3 日）にわたり、合計 54 件の作品調査を実施。作品ごとに法量、品質形状、附属品、所見等の基礎情報を調査に記述するとともに、全作品について東京文化財研究所の協力により最新機器による高精細デジタル画像撮影を行った。 当館絵画担当研究員・藤田美術館学芸員・板倉聖哲氏・中野慎之氏を交えた協議を合計 4 日間（6 月 10 日、6 月 11 日、8 月 4 日、8 月 18 日）実施し、調査及び高精細デジタルカラー画像の検証を重ねて、展覧会に向けた作品選定を行った。 			
			
藤田美術館展展示室内風景			
(2) 調査成果の公表			
<ul style="list-style-type: none"> 上記の調査の成果に基づき、出陳作品全 74 件の 3 分の 1 近くに相当する 23 件の未公開重要作品を本展覧会で初めて紹介し、調査で得られた基礎データ及び所見を図版とともに図録上で公表した。 図録及び題箋の執筆は、調査参加者の専門性に基づき、やまと絵を当館研究員、中国絵画及び日本中世水墨画を板倉氏、近世絵画を藤田美術館学芸員、近代絵画を中野氏が主に担当し、記述の正確性を担保した。 展覧会図録に高解像度の図版を多数掲載することで、初公開となる重要作品の細部を詳細に観察できる学術的価値の高い内容とすることができた。 オンライン生中継動画「ニコニコ美術館」（12 月 10 日放映）及び公開講座「藤田家伝来の唐絵—中国絵画と中世日本水墨画」（講師：板倉聖哲氏、12 月 11 日開催）を通じて、調査成果に基づきながら藤田美術館絵画コレクションの魅力を広く一般に紹介した。 			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	藤田美術館の絵画作品を中心に取り上げ、藤田美術館と当館の共同による悉皆調査で発見された作品を中心に構成された、極めて学術的価値の高い展覧会を開催することができた。また調査に当館客員研究員・調査員の参加を要請し、その所見を展覧会図録及び題箋・パネルに反映することで、学会に裨益する重要な学術的成果を公表できた。さらにその成果に基づきつつ、オンライン生中継動画や公開講座を通じて藤田美術館コレクションの魅力を広く一般紹介するなど、教育普及活動を積極的に推進できたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、文化財の調査研究成果を展覧会の展示・図録・講座・動画・教育普及等に反映するという目標を達成することができた。特にこれまでに当館で展示する機会の少なかった中国絵画、水墨画、近世・近代絵画を広く紹介する過程で、新しい展示の方針や手法を試みることができ、また新しい客層に当館を認知してもらう貴重な機会ともなった。 以上の成果は、今後の展示活動、調査研究、収蔵品の収集や活用・公開に大いに有益であり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2) 特別展等の開催に伴う調査研究 エ 特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」に関する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」の開催にあたり、本展覧会出陳作品のうち、彫刻作品を中心に調査撮影を行う。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長 岩井共二
【主な成果】 写真撮影 これまで十分に調査を行っていなかった国宝の聖林寺・十一面観音菩薩立像、法隆寺・地藏菩薩立像について、正面・側面・背面や、細部の高精細デジタルカメラによる撮影を行った。また、赤外線撮影をあわせて行い、両像に関する詳細な資料を形成した。			
【備考】			
			
調査を進めた聖林寺十一面観音像			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>当館では、展覧会での出陳品の写真撮影を行うことにより、継続的に写真資料の蓄積を行い、専門書など研究資料や一般書・絵はがき等の鑑賞活用可能な写真を提供することを行ってきた。本展覧会に出陳される国宝の聖林寺・十一面観音菩薩立像、法隆寺・地藏菩薩立像については、それぞれ、奈良時代、平安時代初期を代表する名品であるが、普段収蔵庫や宝物館の陳列ケースに置かれ、背面などの細部を調査、撮影する機会に恵まれてはいなかった。本展覧会では、両像が露出展示される千載一遇の機会であるため、これにあわせて高精細デジタルカメラによる撮影を行うことにより、これまで、白黒写真しか存在しなかった像の頭上面の写真など、奈良時代・平安時代の仏教彫刻の貴重な資料写真を取得することができた。</p> <p>聖林寺・十一面観音菩薩立像は、奈良時代後期の仏教彫刻を代表する名品であることは知られているが、この像自体の研究は進んでいるとはいえない。写真が限られたカットしかなかったこともその一因であり、本像写真資料の集積は、今後の奈良時代彫刻史研究の発展に大いに寄与するものである。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>特別展「聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」は2年度に、東京国立博物館と当館の2館で開催の予定であったが、コロナ禍のため、1年延期となった。調査の一部分は元年度中から行われ、聖林寺だけでなく、本展覧会に関連する大神神社、正暦寺、玄賓庵での調査を行っており、その成果はすでに展覧会図録に反映されている。</p> <p>3年度は、展覧会開催時に可能な調査を中心に行い、東京国立博物館においては聖林寺十一面観音のX線CTスキャン調査が行われるなどの成果を出しているが、当館では写真撮影を中心とした調査を行った。休館日など撮影が限られるなか、十分な成果を得ることができた。</p> <p>以上から、中期計画の初年度として着実に計画を遂行しているといえる。</p> <p>こうした借用時における調査撮影及び展覧会出陳品の事前調査研究は、今回の展覧会のみならず、4年度以降の展覧会等の当館の活動に資するものであるから、展覧会開催の前年度から活動を継続して行い、その成果を来館者に還元出来るよう努めていく必要がある。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア 開館15周年記念特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」に関連する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」(会期：10月9日～12月5日)開催に向けて、作品の調査研究を行うとともに、図録に使用するため新規撮影も実施する。 会期について、当初は2年7月21日～9月13日で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大によっておよそ15か月延期となった。			
【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室長 森實久美子
【主な成果】 (1)出陳交渉及び調査 当初2年度夏季に開催予定であったため、基本的には2年度までに出陳交渉及び調査は終えていたが、未調査であった龍谷大学図書館や大阪歴史博物館での調査などを実施した。 (2)新規撮影 京都・東福寺、京都・泉屋博古館、大阪・今宮戎神社(大阪歴史博物館寄託)等の所蔵品について現地での撮影を行ったほか、先行して借用し、当館において撮影をした。 (3)成果の公開 調査の成果は、展覧会図録、会場パネルに反映した。図録では詳細な作品解説のほか、森弘子氏の特別寄稿やコラムや各論も数多く掲載し、展覧会では紹介しきれなかったテーマを深く掘り下げた。			
			
		大阪歴史博物館での撮影風景 (撮影対象は今宮戎神社の男神坐像)	
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大によって調査の実施時期は遅れたものの、当初の計画どおりに進めることができた。出陳作品について調査を行い、研究を深めるとともに、輸送のための状態確認及び計画立案を行い、リスクを事前に排除することができた。 近年の「持続可能な開発目標(SDGs)」の世界的な広がりとともに、自然環境に対する人々の関心が高まっている。本展の日本人と自然という趣旨は時宜を得たものであり、現代社会への問いかけとなる有意義な展覧会となった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、展覧会の準備を進めることができた。作品の調査研究と並行して、展示や図録、イベントについても検討を重ねることができたため、中期計画を順調に遂行することができている。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2) 特別展等の開催に伴う調査研究 イ 特別展「北斎」に関連する調査研究((4)-①-2))		
【事業概要】 特別展「北斎」(4年4月16日～6月12日)の開催に向けて、各所蔵者への出陳交渉を進めるとともに、作品調査・研究を進める。			
【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	主任研究員 畑靖紀
【主な成果】			
(1) 調査研究及び借用交渉 本展監修者の大久保純一氏(国立歴史民俗博物館副館長)の監修をうけ、出陳予定作品の調査研究を行うとともに、借用交渉を行った。 調査に際しては、研究のうえで必要なデータを収集するとともに、安全な輸送と展示のために保存状態の確認を行った。			
(2) 研究資料の収集 数多くの研究成果が公表されている北斎の作品について知見を深めるために、図書や雑誌、報告書などを継続的に収集した。			
(3) 新規撮影 先行借用した一部の所蔵者の出陳作品及び所蔵品の出陳作品について、新規の写真撮影を行った。			
【備考】			



写真撮影風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大により作品調査などを実施できない時期はあったものの、結果的には当初の計画を順調に遂行することができた。出陳予定作品の調査研究を行うとともに、新知見などの有用なデータを収集することができた。 注目度の高い北斎作品を多数出陳する本展は、調査研究の成果を社会に公開する絶好の機会であり、監修者・大久保純一氏の指導助言を得てその成果を充実させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づいて有形文化財の展覧事業などに関連する調査研究を実施することができ、順調に中期計画を遂行できている。 北斎は中国や西洋の絵画を学習し、ジャポニスムにも影響を与えているため、文化交流をテーマとする当館にとって重要な画家である。本展において、全場面を公開する初の機会となる重要文化財「日新除魔図」を含めて、最新の研究成果を紹介するとともに、内容を理解しやすく説明する工夫を重ねるなど展覧会の準備を円滑に推進している。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究((4)-①-3))		
【事業概要】	多くの人に文化財に親しむ機会を提供することを目的として、先端技術による文化財のレプリカやデジタルコンテンツの開発に係る調査研究、文化財の活用事例についての調査・研究を行った。それらの知見をもとにコンテンツの開発と体験型展示等を実施し、それらの実施事業を通して、効果の測定並びに人々のニーズの調査を行った。		
【担当部課】	本部文化財活用センター	【プロジェクト責任者】	副センター長 小林牧
【主な成果】	<p>(1) キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との連携による共同研究プロジェクトを継続して実施し、コンテンツを開発した。また2年度に制作した複数のコンテンツが、国際コンクールで受賞するなど、国内外で高い評価を得た。</p> <p>(2) レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ、企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている国内の博物館・美術館の視察・インタビューを行った。</p> <p>(3) 機構内各施設や地域のミュージアムと連携し、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発と体験型展示、教育プログラムの実施を行い、アンケートによる体験者への調査を行った。</p> <p>(4) 「2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書」を刊行した。 ※3年度は新型コロナウイルスの影響により国外調査ができなかった。</p>		
			 <p>8Kで文化財「みほとけ調査」実施風景</p>  <p>アウトリーチプログラムの様子</p>
【備考】	<p>(1) シャープ株式会社との共同研究により制作した、8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」が「2021Design Intelligence Award」(主催：中国美術学院等)を、KDDIとの共同研究プロジェクトの成果として実施した5Gで文化財「国宝 聖徳太子絵伝」がモバイルシステムの導入によりIoT/AI分野での社会貢献の推進や先進的なモバイル活用等の成果を上げた事例を顕彰する「MCPC Award2021 サービス&ソリューション部門優秀賞」(主催：モバイルコンピューティング推進コンソーシアム)を、NHKとの「8K文化財プロジェクト」による「遮光器土偶」が世界の科学・歴史・ドキュメンタリー放送番組の制作に対する国際コンクール「The Buzzies (第2回)」で「マルチプラットフォーム・ファクチュアルプロジェクト部門最優秀賞」を受賞。</p> <p>(2) 主な調査先/DNP(小林、高橋美、高橋真、西木、松沼、荻堂)、シャープ株式会社(小林、高橋美、西木、松沼)、NHK(小林、高橋美、高橋真、小島、松沼)、NHK放送技術研究所(高橋美、高橋真)</p> <p>(3) アンケート調査実施事業/8Kで文化財「国宝 聖徳太子絵伝」(東京国立博物館7月13日～9月5日)、「春夏秋冬/フォーシーズンズ 乃木坂46」(東京国立博物館9月4日～11月28日)、8Kで文化財「みほとけ調査」(東京国立博物館11月16日～12月5日)、「形をうつす」レプリカを活用したハンズオン体験(十日町市博物館、6月1日～7月4日)、8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」(愛知県陶磁美術館10月9日～12月12日)、「日本美術の源流—雪舟・狩野派から近代美術—」床の間で鑑賞する国宝掛け軸の高精細複製(都城市立美術館10月30日～12月5日)、「大雅と蕪村」高精細複製による鑑賞体験(名古屋市博物館12月4日～1月30日)、ぶんかつアウトリーチプログラム(3年度全12回実施)</p> <p>(4) 第2回「文化+科学技術国際フォーラム」(12月15日 主催：中国・故宫博物院、テンセントテクノロジー有限公司)にて、「デジタル技術による文化財の活用」について発表(小林)</p>		

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>企業等との共同研究プロジェクトにより開発したコンテンツが、デザイン・映像・技術部門で国内の各種賞を受賞するなど、文化財活用の新しい可能性を拓く活動として高い評価を得ることができた。</p> <p>また、文化財に親しむ機会を拡大することを目指して、先進事例の調査、各施設や企業等と連携した調査・研究を行った。そこで得た知見をもとに、コロナ禍でも可能な文化財体験、地域の活性化の核となる文化財体験を開発・提供することによって、研究成果を一般にも発信することができた。</p> <p>地域の博物館との連携をより深め、先進事例の調査、コンテンツ開発、一般への公開・検証を合わせて行うことにより、文化財活用の新たな道を拓くための有意義なPDCAサイクルを構築していく。</p>

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画の初年度として、文化財の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を新たな展覧事業・教育普及活動等に反映、一般にも発信することができ、中期計画を順調に遂行できている。今後は、地域の博物館との連携をより深めて、地域の活性化にも貢献しうる文化財活用について調査・研究を深めることが課題となる。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア 博物館環境デザインに関する調査研究((4)-①-3))		
【事業概要】 当館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	デザイン室長 矢野賀一
【主な成果】 (1)「聖林寺展展示ケース製作設置」「日本美術のとびら」「みほとけ調査」「博物館でアジアの旅」「スポーツ NIPPON」「親と子のギャラリー『動物のうごき』」「まるごと体験！日本の文化リターンズ」「イスラーム王朝とムスリムの世界」「博物館で初もうで」「手わざ」の展示デザインを行った。 (2)「動物めぐり」のポスター、150周年記念「ロゴ」「ポスター」のデザインを行った。 (3)本館14室解説、13室案内サインのサイネージ化をおこなった。			
			
イスラーム王朝とムスリムの世界	みほとけ調査	150周年記念「ロゴ」	150周年記念「ポスター」
			
聖林寺展展示ケース製作設置	スポーツ NIPPON	動物のうごき	
【備考】 ・他館のデザイン調査：国内の博物館・美術館でのデザインを調査し、特に3年度においては総合文化展の展示デザインのための参考とした。 調査先／国立アイヌ民族博物館、長野県立美術館、岡山県立博物館、大阪市美術館、大分県立美術館			

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年度当初の目標を達成している。国内外の美術博物館デザインの最新事例を調査した成果を、総合文化展示及び特別展への展開することが達成されている。4年度は引き続き国内外の美術博物館デザインの調査を行う。また最新の情報技術など、本館の総合文化展示や展示室のスマート化などへ展開できるよう調査研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、本館特別1・2室で特集展示するため、高透過低反射合せガラスや小型LED照明器具を用いた展示ケースをデザインし、観覧環境の向上につながる実施案を策定した。 4年度以降は本館特別1・2室の展示室改修工事、展示室のスマート化、3Dプリンターを使った支具の調査研究及び本館展示改修のデザインを進める予定である。

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 イ 博物館教育に関する調査研究 ((4)-①-3))		
【事業概要】 来館者の鑑賞体験を豊かにすることを目的とした、博物館教育の理論と実践に関する調査研究を、教育普及事業の実践、参加者に対するアンケートを通して行った。			
【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長 伊藤信二
【主な成果】			
<p>(1)各種ワークショップ、スクールプログラム等は対面プログラムを避け、zoomを使用したオンラインワークショップや自由見学と組み合わせる事前視聴動画など、新規プログラムの開発とその運営に関する研究と実践を行った。</p> <p>(2)日本文化体験プログラムを継続して実施した。3年度は、さまざまなタイプの日本文化体験ができる参加型展示として、親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」(7月20日～9月5日)を本館特別4室で実施し、デジタルコンテンツや手でさわるハンズオン展示など、多様な角度から日本文化体験のあり方について検討、研究を行った。この本館特別4室は「トーハク新時代プラン」に基づき、恒常的に日本文化体験が行える参加型展示室として整備し、「日本文化のひろば」として4年1月にオープンした。デジタルコンテンツやハンズオンを駆使した展示など、多様かつ新しい日本文化体験へのアプローチを検討、研究し実践する場として出発した。</p> <p>(3)障がい者に向けたプログラムの開発を目指した調査・研究を継続して行い、アクセシビリティの観点から、オンライン月例講演会、オンラインギャラリートークにおいて字幕やテロップなどの表記を実施した。また「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」では、浮世絵版画の摺り工程を点字で説明した触察ボードを開発し設置した。</p> <p>(4)コロナ禍における上野動物園、国立科学博物館との連携事業の在り方を調査研究し、オンラインでの実施を模索した結果、5月16日に「上野の山で動物めぐり ～動物の「うごき」と「しせい」～」として、オンラインでのツアーを実施した。</p> <p>(5)ボランティア組織のマネジメント及びボランティアによる事業について、特に新型コロナウイルス感染予防の観点から活動の方向性や内容に関する調査・研究を行った。これに基づき、ボランティアスタッフに向けて、オンラインを利用したミーティングやグループ活動を展開した。</p> <p>(6)2021年日韓交際交流事業の一環として、「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」と題するセミナーを、9月9日に韓国国立中央博物館との間でオンライン形式にて実施した。</p>			
			
オンラインワークショップ「なりきり光琳」			
【備考】調査			
(1)ワークショップ等における参加者アンケート調査：3回			
(2)令和3年度ミュージアム・エデュケーション研修(文化庁主催)参加：阿部楓子(3年9月15日～17日、4年2月7日～8日)			

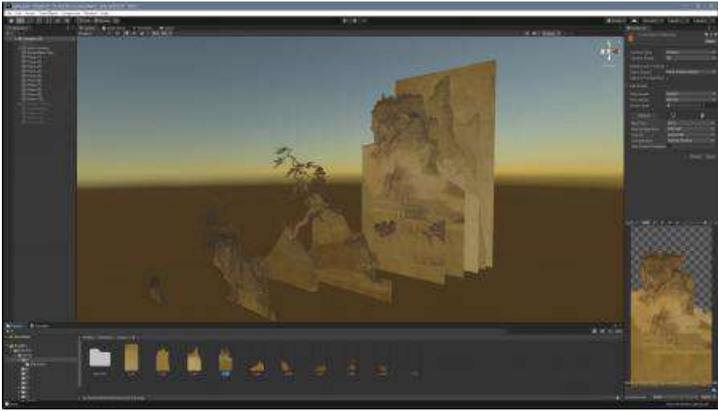
年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>オンラインワークショップでは、今までプログラムを提供することができなかった遠方の参加者にもプログラムを体験してもらえたため、新たな来館者層の開拓につながった。オンラインでの月例講演会、連続講座、ギャラリートークでは、対面式を大きく超える広範囲かつ多数の視聴者に多彩かつ専門的な講義内容を届けることができた。ボランティアの活動においてもオンラインを積極的に活用することで、各種活動やプログラムの研修及び実施はもとより、活動のモチベーションを維持することができた。</p> <p>韓国国立中央博物館とのセミナーでは、両国の国立博物館研究員の自由参加を可能としたこともあり、コロナ禍における博物館教育の実情や可能性について活発な議論を交す有意義な機会となった。</p> <p>以上の実績により、年度計画を達成できたと評価した。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>3年度は新型コロナウイルスの流行により、従来の手法からの変更を余儀なくされたが、そうした中においても、より幅広い来館者に向けた鑑賞支援プログラムや生涯学習ボランティアの活動・運営を持続可能とする調査・研究と実践を目指し、中期計画の初年度として一定の成果を得た。如上の取り組みは、4年の東京国立博物館創立150周年以後の博物館教育活動に継承・発展していくことが期待される。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ウ 凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究((4)-①-3))		
【事業概要】 文化財のデジタルアーカイブを活用した、文化財の新たな公開・鑑賞手法を、凸版印刷株式会社と共同で研究する。			
【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長 今井敦
【主な成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・「洛中洛外図屏風 舟木本」を3年1月20日～4月11日に公開した。 ・土屋貴裕学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長が監修した新作コンテンツ「鳥獣戯画 超入門!」を制作し、同作品が出品された特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」の会期を含む、4月14日～7月11日に公開した。(途中、4月25日～5月30日は緊急事態宣言のため休演した。) ・瀬谷愛学芸研究部保存修復課保存修復室長及び三田覚之調査研究課工芸室主任研究員が監修した新作コンテンツ「法隆寺 国宝 金堂一聖徳太子のころ」を制作し、関連作品が出品された特別展「聖徳太子と法隆寺」の会期を含む7月14日～10月10日に公開した。 ・「空海 祈りの形」を10月13日～12月25日に公開した。 ・「国宝 松林図屏風―乱世を生きた絵師・等伯―」を、同作品の公開期間を含む4年1月2日より公開した。 ・新作コンテンツ「雪舟」のために、「四季山水図」「破墨山水図」の解説動画の制作を進めている(公開は4年度を予定)。 			
【備考】			
		雪舟筆「四季山水図」解説動画制作の様子	

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>既存のコンテンツの再演とともに、特別展と連動した新作コンテンツ2作品を公開することができ、文化財のデジタルアーカイブ蓄積の有用性を再確認できた。</p> <p>「洛中洛外図屏風 舟木本」は、3,905人(定員充足率26.3%、新型コロナウイルス対策のため、上演期間を通じて90席から48席に削減、以下同じ)の来場者があった。「鳥獣戯画 超入門!」は、6,317人(定員充足率62%)の来場者があった。「法隆寺 国宝 金堂一聖徳太子のころ」は、7,246人(定員充足率41%)の来場者があった。「空海 祈りの形」は、6,296人(定員充足率23.5%)の来場者があった(ニコニコチャンネル購入数86件)。「国宝 松林図屏風―乱世を生きた絵師・等伯―」は、4,129人(定員充足率13.1%)の来場者があり、デジタルデータを活用した新たな鑑賞手法の有用性が立証された。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画の初年度として、新たなデータ取得手法の確立を含め、デジタルアーカイブのデータ取得に関する調査研究を行った。</p> <p>新規データの取得による新作コンテンツを開発し、集客力のあるコンテンツの継続的な公開を行い、中期計画を遂行できている。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 エ ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究 ((4)-①-3))		
【事業概要】 来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英中韓4言語による鑑賞支援アプリ「トーハクナビ」を運用し、ユーザー動向解析によりより豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究を行った。また、あわせて児童生徒のための鑑賞支援アプリ「学校版 トーハクナビ」のリニューアル版を運用した。			
【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長 伊藤信二
【主な成果】 (1)2年度より運用を始めた鑑賞ガイドアプリ「トーハクナビ」(日英中韓4言語対応)を継続し運用した。 (2)当館公式ウェブサイト(https://www.tnm.jp/)と国立博物館所蔵品統合検索システムColBase(https://colbase.nich.go.jp/)と連携し最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みについて、システムや表現など細部の調整を行った。 (3)来館者の操作が最小限にかつスムーズに行えるよう展示室内に設置したビーコンの位置の見直しや増設を行い、展示室内で特に注目すべき作品への理解の促進を図った。 (4)毎年春の桜の季節に行っている「博物館にお花見を」に際し、「トーハクナビ」デジタルスタンプラリー機能に対応させるべく、桜に関連した美術工芸作品(5件)の解説テキスト作成、音声データ収録(ともに日英中韓)を行い「トーハクナビ」ガイド提供作品として新規登録、運用した。また、既存の解説についてもネイティブスタッフや担当研究員と議論しながら精査を行い、質の向上に努めた。 (5)27年4月より継続して「トーハクナビ」のユーザーログを集積し、観覧者動向を分析した。 (6)学校団体で来館する児童・生徒を対象としたスクールプログラムの一環として開発したタブレット端末によるアプリ「学校版トーハクナビ」の端末貸出しと運用を行った。また、「トーハクキッズデー」では個人来館者にも貸出しを行い、活用の機会を広げた。 (7)ICTを利用した博物館ガイドについて、他館への情報提供や意見交換を行った。 (8)「トーハクキッズデー」(7月20日～8月1日)に際し、特定の作品にQRコードを設置し、オンラインで提供する「おうちでギャラリートーク」にアクセスする取り組みを行った。			
			
トーハクナビ作品ガイド(韓国語)			
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>新しいシステムの開発により、長年課題であった、言語による解説数やデバイスの不均衡が改善され、頻繁な展示替えに対応しうる作品解説の提供が実現できている。また折に触れてシステムの改善点を検討することにより、ユーザーがより使いやすいアプリとなるようアップデートできた。</p> <p>さらにアプリ「トーハクナビ」ユーザーの動向についてのデータを集積することができ、アプリの特性を活かし、インタラクティブコンテンツや、ビーコンによる作品検索など新たな鑑賞体験を提供することができた。</p> <p>今後は、3年度開発したアプリとシステムをプラットフォームとし、より利便性の高い機能の搭載や、作品解説の充実を検討したい。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画の初年度として、これまでの蓄積してきたデータとノウハウを生かし、主に訪日外国人を対象とした鑑賞支援プログラムの開発を実現することができた。また、これまでのユーザー動向解析の方法に加え、展示室内のビーコンやアプリそのものからログデータを集積する仕組みを整えた。コロナ禍で外国人を含めた来館者が大きく減少している中ではあるが、引き続きアプリの改善点の検討や要求に応じたアップデートを心掛け、快適な観覧機会の提供に資するよう努めたい。</p> <p>また、学校団体での来館者に対する「学校版トーハクナビ」の本格運用を実施したい。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 オ レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究 ((4)-①-3))		
【事業概要】 収蔵品に関して、先端技術を用いた文化財のレプリカや高精細画像、映像を使用したデジタルコンテンツを開発し、その文化財の活用手法についての調査・研究を行った。本調査・研究を通じて得られた成果を、今後の展示活動に活かす。			
【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長 松嶋雅人
【主な成果】 (1)NHK との共同研究「みんなの 8K 文化財」において、8K 技術を用いて、これまでにない文化財の鑑賞方法を開発する調査・研究を行った。 (2)関連する所蔵品の調査研究や作品の選定を通じて、文化財活用センターが実施した以下の事業において、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発への協力をを行った。「日本美術のとびら」、「8K で文化財 国宝「聖徳太子絵伝」」、「春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂 46」、「8K で文化財「みほとけ調査」」、「びじゅチューン！× OPAM なりきり美術館」、「びじゅチューン！×山口ゆめ回廊博覧会 なりきり美術館」			
			
能面 3D スキャンと甲冑撮影風景 みんなの 8K 文化財		高精細画像を用いたレプリカの展示 春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂 46	
【備考】 (1) 共同研究の成果として、以下の番組が放送された。 ・「見たことのない文化財『能面：小面・伝山姥』」(4年2月26日・BS8K放送) ・「見たことのない文化財『檜鳥糸肩赤威胴丸』」(4年3月27日・BS8K放送) ・「東博150年 知られざるモノがたり ～日本の至宝 大公開SP～」(4年3月28日・BS8K放送) (2) 各事業の開催期間と会場は以下の通り。 ・「日本美術のとびら」(6月22日～4年3月31日、本館特別3室) ・「8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」」(7月13日～9月5日、法隆寺宝物館資料館) ・「春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂46」(9月4日～11月28日、表慶館) ・「8Kで文化財「みほとけ調査」(11月16日～12月5日、法隆寺宝物館資料室) ・「びじゅチューン！× OPAM なりきり美術館」(3年2月19日～5月9日、大分県立美術館) ・「びじゅチューン！×山口ゆめ回廊博覧会 なりきり美術館」(7月16日～8月22日、NHK山口放送局・YCAM)			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本調査・研究は文化財の活用の新たな地平を拓き、今後の文化財の展示並びに普及活動を考える上で、ますます重要な意味を持つこととなり、館内外において、さらなる活用が求められるものである。そのような意味において、3年度は放送番組や、新たな手法によるさまざまな展示機会を得たことで、今後の調査研究の多様性ととも、発展性を期待できるものとなった。 3年度の成果をもとに、4年度以降も、新たな文化財の活用方法を考究していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、教育普及活動等に関する調査研究を実施し、文化財の理解促進に資する展示活動や番組の放送等により、広く一般への研究成果の発信に努めた。したがって、中期計画を順調に遂行できていると評価した。今後は、さらに先進技術を用いた展示手法、方法論の検討を深めていきたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 カ 博物館広報・国際交流活動に関する調査研究((4)-①-3))		
【事業概要】 当館の広報活動の充実と効果的な実施及び国際交流活動を推進するため、博物館における広報及び国際交流活動について調査・研究する。特に3年度は、4年度が創立150周年記念事業期間であるため、周年広報の準備、実施のため若年層向けの広報の調査研究を行う。また、外国人向け広報として、海外の博物館・美術館における外国人向け施策についても調査研究を行う。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	上席研究員(兼)広報室長 鬼頭智美 国際交流室長 楊鋭
【主な成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 150周年事業の計画・実施にあたり、国内外の周年を迎えた企業等の広報事業の事例を調査、特に若年層に向けての施策を調査し、効果的な周年事業広報計画を策定、150周年記念動画を制作した。特に記念動画については、若年層は短めでスピード感のある動画を好む傾向が調査から判明したため、それも加味して制作した。 ウェブサイトの多言語化版公開にあたり、海外からのアクセス数を調査分析し、コロナ禍で外国人来館者が減っている中での海外へ向けての広報活動の参考とした。 外国語でのSNS発信の開始に向けて、日本の在留外国人数・訪日外客数や外国人来館者数、海外からのウェブアクセス数やSNSフォロワー数、広報アカウントでの多言語SNSの試験運用の分析と課題の抽出、他アカウントの多言語SNS運用法事例、多言語SNSコンテンツの事例研究を行った。その結果を活用し、日本在住の外国人及び海外の日本美術愛好者向けに、3年9月からSNS(Twitter、Instagram、Facebook)による英語、中国語、韓国語の情報発信を開始した。 ウィズコロナ時代における博物館国際交流活動のあり方について、国立文化財機構各博物館国際交流担当者及び韓国国立中央博物館が統括する各地方の国立博物館とのオンライン研究セミナーを行った。 調査結果に基づき、館内展示作品の題箋デザインや多言語解説の内容を見やすく、分かりやすくするよう、継続的に改良を進めている。 			
			
		創立150周年記念動画	英語版 Twitter
【備考】 オンライン研究セミナー：3年11月25日実施			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>広報活動については、150周年事業開始前という必要性が高い時期に国内外の事例を効率よく集め、150周年事業計画策定・実施に活用できた。</p> <p>ウェブサイトの多言語版公開及びSNSによる外国人向けの情報発信により、2年度に比べ中国からのウェブサイトへのアクセスが30%、台湾からは30%、韓国からは6%増加した。新型コロナウイルスの影響で外国人来館者はほとんどいない状態が続いている中、SNSによる多言語の情報発信は、博物館の展示活動や作品解説の提供など、日本の伝統文化や美術を海外へ広く紹介することに繋がり、これからの発展性が期待される。</p> <p>オンラインセミナーやオンライン会議の開催により、海外渡航が難しい現状において国際交流活動を維持することができた。</p> <p>作品題箋の多言語情報表記のデザインと解説内容の翻訳の改良により来館者の利便性が高まった。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>新型コロナウイルス感染拡大状況が落ち着き次第、訪日外国人も増加すると予想される。その時のために、海外へ向けての発信力を高めるべく、中期計画初年度として外国人向け広報についての調査を充分に行うことができた。引き続き重点的に実施し、中計計画を推進する</p> <p>同時に、現在発信力の弱い若年層へのアプローチについて、150周年事業に合わせて、3年度はキックオフとなる調査研究を実施できたが、引き続き調査研究を進めていきたい。</p> <p>一方、発信するためのプラットフォームも増えており発信内容も多様化しているため、4年度以降は広報・国際交流におけるマルチメディアの応用について調査研究を実施する予定である。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関連する調査研究 ア 博物館教育及びボランティアに関する調査研究 ((4)-①-3))
【事業概要】 本研究は、「京博ナビゲーターの活動再開に向けての調査」、「学校教育との連携に関する実践と研究」、「入門的な特集展示の実施」、「感染症対策と博物館教育の両立に関する実践と研究」の4つをテーマに行った。	
【担当部課】	学芸部
【プロジェクト責任者】	教育室主任研究員 水谷亜希
【主な成果】 1)京博ナビゲーターの活動再開に向けての調査 ・新型コロナウイルスの影響により活動を中止している「京博ナビゲーター」について、他館の動向を調査し、活動を再開する場合の内容や、再開できる状況の目安について検討した。 2)学校教育との連携に関する実践と研究 ・文化財ソムリエ 20 人の育成にかかる調査研究（スクーリング・18 回） ・「文化財に親しむ授業」（7 回・425 人）の実践と研究 ・「記者体験 in 京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1 回・57 人）の実践と研究 ・教員による複製を活用した授業の支援と分析（4 回・321 人） ・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（3 回・53 人）を行った。 3)入門的な特集展示の実施 ・入門的な特集展示「新春特集展示 寅づくし—干支を愛でる—」（4 年 1 月 2 日～2 月 13 日）の企画 ・展示に関連するワークシート「さがしてみよう！こんなトラ」（日英版 5,000 部・中韓版 200 部）の発行 4)感染症対策と博物館教育の両立に関する実践と研究 ・感染症対策に関する他館の活動調査（オンラインや電話による情報収集、近隣館の視察） ・特別展関連鑑賞ガイド「京の国宝はじめてガイド」（日本語 105,500 部・英語 5,000 部・中国語 700 部・韓国語 700 部）、「即翁さんの宝物」（日本語 22,600 部・英語 1,700 部・中国語 500 部・韓国語 300 部）の発行 ・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」（1 回・5,000 部）の増刷 ・「博物館 Dictionary」（6 回・12,000 部）の発行 ・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語 各 38 本）の作成 ・「今日から君も狛犬博士」「おひなさまのヒミツ」（YouTube 京博チャンネル）の動画公開（日英中韓計 8 本）	
【備考】 本研究を踏まえた事業の実績については、処理番号 1311B、1312B も参照。 1) 科学研究費助成事業「対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究」6 年計画（研究代表者の育児休業のため 2 年延長）の最終年度	

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け、京博ナビゲーターの活動が中止したままになるなど、実践については縮小せざるを得ない部分があった。しかし、感染症対策と博物館教育の両立のための実践として、印刷物の充実や、新たにYouTube動画の作成・公開を行うことができた。また、毎年恒例の干支の展示を、ファミリー層に向けた入門的な企画にすることで、子供に向けた館内プログラムを増やすことができた。

中期計画の実施状況の確認

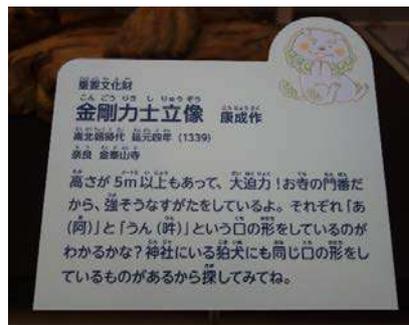
評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画全体の初年度として、感染症対策と博物館教育の両立を念頭に置いた、今後の教育普及の在り方を検討し、実践に移すことができた。館内でのボランティア活動（京博ナビゲーター）の再開については、新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されるため慎重に検討する必要があるが、国内外の他館の情報を収集し、4年度以降に備えることができた。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3) 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究((4)-①-3))		
【事業概要】 奈良を中心とした寺社の歴史や伝統文化に関連する教育普及コンテンツやプログラムをつくり、学習の機会を提供するとともに、オンライン形式でボランティア活動を推進し、新たな形で地域学習の展開を図る。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長 谷口耕生
【主な成果】			
ア 世界遺産学習の実施 通常は当館のボランティアがガイドを行う形で世界遺産学習を実施しているが、3年度は新型コロナウイルスの影響により、ボランティアが対面形式でのガイド活動を実施できない状況であったため、代わりとなるプログラムを考案し、奈良市立小学校5年生を対象に実施した。実施校に対して事前学習キットを提供し、事前学習を各学校で行った上で来館してもらうプログラム内容に変更した。また来館時には、こども向けのワークシート「ならばく仏像クイズ&ミッション」を各児童に1部ずつ配布し、それをもとに地下回廊となら仏像館の展示を各自見学してもらう内容に変更し、世界遺産学習を実施した。来館形式による世界遺産学習の受け入れ校数は計17校840人であった。			
イ 学校団体を対象としたオンラインプログラムの実施 大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、学校オンライン中継授業を実施した。大分県内の小中学校に対する授業は、大分県と連携し、遠隔操作ロボットを活用する形で計13回実施し、参加した児童・生徒数は計446人となった。奈良市立小学校に対する授業は、奈良市教育委員会と連携し、ウェブ会議アプリを利用する形で計3回実施し、参加した児童数は計82人であった。有志のボランティアと教育室職員が展示案内を担当した。			
ウ こどもを対象とした展示パネルや題箋等の設置 3年7月17日～9月12日に開催した特別展「奈良博三昧-至高の仏教美術コレクション-」において、主に小学校高学年を対象としたこども向けの解説パネル10点とこども向け題箋28点を設置した。加えて、地下回廊の仏像模型コーナーや、名品展を通年開催しているなら仏像館にも、こども向け題箋計12点を設置し、奈良市世界遺産学習等で来館する児童たちの展示理解の促進を図った。			
エ こどもの展示理解を促進するジュニアガイド等のツールの開発 特別展「奈良博三昧-至高の仏教美術コレクション-」において、こどもの展示理解を促進するために、ジュニアガイド「なぞとき!ざんまいずの探検!-おおじしの主を探して-」を20,000部作成し、会場内で配布した。			
【備考】 イ 学習効果を高めるために、学校オンライン中継授業の実施対象である大分県内の小中学校や奈良市立小学校に対して事前学習キットを提供し、各学校とも事前学習を行った上で、オンライン中継授業に参加する形式とした。			



世界遺産学習の実施の様子



なら仏像館のこども向け題箋

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	17校を対象に、世界遺産学習を新たな形式で実施したことで、こどもたちの自主的な学びを促す方法を見出すことができた。4年度以降、プログラムの実施方法を見直し、学習効果をより高めることができるようにしたい。またオンラインプログラムを定期的にも実施できる体制を整備し、学習機会の提供を拡充することができた。今後、更なる拡充を図り、教育普及事業の質を向上させる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展や名品展の会場にこども向けの展示パネルや題箋を設置するという試みを実践したことにより、新たな教育普及の形を展開することができた。またボランティアとともにオンラインプログラムを実施するという新たな形をつくりあげたことで、今後様々なプログラムを展開できる基盤を築けたことにより、中期計画初年度として着実に遂行できている。ジュニアガイドやワークシートなどのツールも含めて、4年度以降も、教育普及コンテンツやプログラムの充実化を図り、地域学習を発展させていく予定である。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア 特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究((4)-①-3))		
【事業概要】 特別展をよりわかりやすくするための教育普及プログラムを実施する。3年度は「最澄と天台宗のすべて」展において実施する。			
【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員 西島亜木子
【主な成果】 天台宗特有の修業「千日回峰行」に焦点を当て、その全貌を明らかにする教育普及コーナーを設置した。千日回峰行の動画とともに、千日回峰行の解説や、満行までのスケジュール、比叡山中を廻る時のルートを示す地図及び京都市内を巡礼する京都大廻りのルートを示す地図をイラストを交えながらわかりやすく紹介した。 解説執筆にあたり、事前に回峰行者が廻る比叡山のルート 30 キロ、及び京都市内の 25 キロのルートを実際に歩き、その体験記を展示室内や当館のブログ「九博界限」にて公開した。また、回峰行者が着る装束一式を借用し、展示した。 さらに、最澄が遣唐使船に乗る前に実際に登ったとされる宝満山(当館近くに位置する山)や、最澄が構想した宝塔があったとされる場所など、最澄ゆかりの場所を紹介するパネルを掲示した。パネル制作にあたり、実際に宝満山に登ったり、六所宝塔跡に向いたりするなど現地調査を行った。			
【備考】			



千日回峰行の巡礼路を調査

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示の理解を深めるための教育普及プログラムは来館者から毎回高い評価を受けており、3年度も実施した。「最澄と天台宗のすべて」展は巡回展であるが、千日回峰行や宝満山のわかりやすい解説は当館のみの企画である。また、これまでの展覧会ではあまり焦点が当たらなかったテーマを取り上げ、実際に回峰行者の巡礼ルートを歩いたレポートを掲示したのは、当館ならではの独創的な着眼点である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展での教育普及プログラムは、来館者アンケートでも高い評価を得ており、来館者のニーズに合ったプログラムを実施できた。新型コロナウイルスの影響で体験コーナーやワークショップなど実施できなかったものの、担当者が体験したことを展示室や当館ブログなどで公開することで、来館者も体験できるような仕組みとした。以上のことから、中期計画における「教育普及に関する調査研究」のうち、特別展の教育普及について、中期計画を順調に達成できている。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究		
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や教育活動等に関する調査研究 イ 文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究 ((4)-①-3))		
【事業概要】 当館では、多様な方が博物館の楽しさを享受できるよう、元年度から特別展の視覚障がい者向け観覧ツアーや手話通訳付きリモートバックヤードツアー、レプリカ等を活用した体験型の特別対応など多岐にわたる取組みを行っている。3年度は文化交流展示室でのユニバーサルミュージアムに向けた企画や、点字・触知図付きの展示室案内の配布・建物や館内の模型の製作を通して、博物館での合理的配慮をどのように行うべきか、当事者のヒアリングを重視した研究を行った。			
【担当部課】	展示課 学芸部企画課 交流課	【プロジェクト責任者】	主任研究員 加藤小夜子 主任研究員 西島亜木子 主任研究員 今井涼子
【主な成果】			
<p>(1) 文化交流展示室第7室企画展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～」 ・2年度と同企画での要望から、作品配置の触知図を作製して、設置した。点字図書館職員、視力障害センター職員、福岡市視覚障害者福祉協会会長、同常務理事(センター職員以外は視覚障がい者)にヒアリングを行い、インクルーシブデザインの手法を取り入れた。 ・当館ボランティアによる手話動画での作品解説を行った。事前に時代の表し方、専門用語の共通理解や互いに練習を行う場を設けた。 ・実物の仏像とともに展示した玉眼模型の組み立てを通して、仏像の目の仕組みが知ることができたと好評を得た。</p> <p>(2) 手話通訳付きオンラインバックヤードツアー ・静岡県聴覚障害者協会青年部と共同で、手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを実施した(9月5日)。参加者15人中8人が聴覚に障がいがある方であった。アンケートによれば概ね好評だったが、手話が見えにくかった、分かりにくかったという意見があり、更なる工夫及び改善が必要である。 ・3年度手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを2回に分け実施し、計21組の参加を得た(4年3月5日)。</p> <p>(3) ユニバーサルミュージアムに向けて先進的な取組みを行っている博物館への視察 ・三重県立美術館：小さな子どもがいる家族向けのプログラムや自閉症の来館者向け館内案内等(11月10日) ・国立民族学博物館：視覚や聴覚に頼らずに楽しめる「ユニバーサルミュージアム」企画展(11月11日) など各館に聞き取り調査を行い、当館での来館者案内作成や4年度のハンズ・オン企画案に活かすことができた。</p> <p>(4) 音声だけで楽しめるウェブコンテンツ「ラジオ de きゅーはく」 視覚に頼らず、声や音だけで博物館の魅力を発信するラジオ番組をウェブサイト内YouTubeで公開した。また、動画には字幕をつけ、聴覚障がい者や、音が聞き取りにくい人にも楽しめるようにした。</p> <p>(5) 当館の建築模型 視覚障がい者も触ってわかる当館の建築模型を製作した。制作の段階で何度も視覚障がい者にヒアリングを行うなど、当事者も製作に関わることで、インクルーシブミュージアムとしての取組みができた。</p>			
【備考】 取材：(1) 読売新聞(8月10日掲載) 毎日新聞(8月19日掲載) ケーブルステーション福岡(9月17日放送)			



作品配置の触知図



建築模型ヒアリングの様子

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>新型コロナウイルスの影響による様々な制限の中でヒアリングが難しい状況ではあったが、可能な範囲で当事者の意見等を聞くことができた。(1)について、触知図は作品を記号化し、シンプルにすることや、手話動画を流す際は、始めに動画の再生時間を入れるとわかりやすいなどの貴重な意見をいただいた。</p> <p>オリンピック・パラリンピックの開催やSDGsへの取組みの中で多様性が尊重されている。多様性を大切にし、様々な意見を取り入れていくことで、誰もが楽しめる博物館を今後も目指していく。</p>

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>元年度からの取組みによりヒアリングの協力団体も少しずつ増え、多様な方へ歴史・伝統文化に資する展覧事業を行うことができ、中期計画を順調に遂行しているといえる。</p> <p>4年度も文化交流展示室の5つのテーマエリアの触知図の設置、視覚障がい者にも使いやすい新ガイドシステム導入が計画されており、引き続き様々な意見を取り入れていくとともに、視覚・聴覚以外の障がいについてもヒアリングを計画的に進め、ユニバーサルミュージアムを目指していく。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア 博物館の環境保存に関する調査研究((4)-②-1))		
【事業概要】 当館による文化財の活用に伴い保全の必要性が生じる、収蔵環境、展示環境、輸送環境について調査研究し、今後の環境の向上を目的として実施する事業。			
【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課長 富坂賢
【主な成果】			
<p>(1)館内修理施設の換気環境に関する調査研究 2年6月から10月にかけて実施した当館内の修理室施設内の換気状況調査について、運用中のデータを詳細に解析し、検証を行った。</p> <p>(2)脆弱な文化財の輸送環境に関する調査研究 法隆寺金堂壁画を奈良国立博物館から輸送するにあたり、経路選定、振動計測、作業工程の最適化について総合的に検証した。</p> <p>(3)文化財の振動応答特性に関する調査研究 屏風構造を持つ文化財に着目し、木製骨組み下地が加振された際に示す応答特性についての実験結果を検証した。</p> <p>(4)展示中の文化財の耐震対策に関する調査研究 文化財の形状の3次元データを活用して、展示中に生じた地震による挙動のシミュレーションを実施した。また、支持具による耐震効果を数値的に評価する手法について検証した。</p>			
<p>法隆寺金堂壁画の館内輸送前に実施した輸送実験で計測した加速度変化(左)と、設計した実験用梱包箱(右)</p>			
【備考】研究成果の学会発表・論文			
<ul style="list-style-type: none"> 相川悠、和田浩「新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告」『文化財保存修復学会第43回大会発表集』、7月3日 和田浩「地震動を受けた屏風の挙動に関するシミュレーション」日本文化財科学会第38回大会、6月14日 和田浩「屏風下地を想定した木組み構造の振動応答解析シミュレーションに関する基礎的研究」日本包装学会第30回年次大会研究発表会、7月1日 和田浩「3Dモデルを用いた文化財の地震対策シミュレーションに関する研究」文化財保存修復学会第43回大会、7月3日 相川悠、和田浩「新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告」文化財保存修復学会第43回大会、7月3日 和田浩「屏風に用いられる木製骨組み下地の振動応答特性に関する研究」日本機械学会2021年度年次大会、9月7日 和田浩「屏風用木製骨組みの振動応答特性に関する研究」第59回全日本包装技術研究大会、12月2日 和田浩「3次元データを利用した文化財の地震対策」『教職課程センター紀要』第6号、12月1日 			

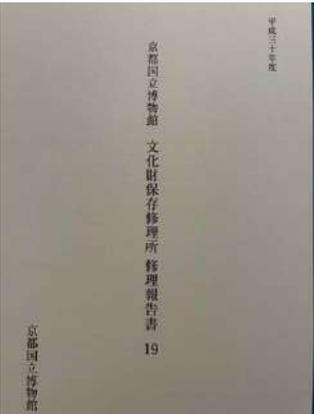
年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>収蔵環境に関する調査研究では、換気と環境維持の両立という困難な課題に対して、館内で蓄積したデータを精緻に解析し、一定の解を得た。輸送環境に関する調査研究では、脆弱な文化財を輸送する際の走行経路選定手法及び振動の評価手法について新たな観点からの調査研究を進めた。また、文化財の加振実験とモデル化によるシミュレーションとのコリレーションについての検証をした。その結果、振動応答特性が未知の文化財に対する梱包設計手法を確立する可能性を見出した。展示環境に関する調査研究では、防災に関する研究を実施し、3次元データとシミュレーションを駆使した新たな技術開発に着手した。その結果、展示物の耐震対策について、現状と改善後の予測を簡易に比較するための手法を構築するための基礎ができた。以上の各研究成果については各種学会等で研究発表した。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>収蔵環境、展示環境、輸送環境の3つの環境に対する調査研究をバランス良くかつ効果的に実施することができた。毎年度の研究成果は学会等の適切な場で発表公開し、様々な分野の研究者と協議しながら、研究内容をより高次元へ発展させることができた。特に、輸送環境に関する研究は従来から継続していた研究の成果を実際の文化財輸送に応用することができたという点で、理想的に中期計画を遂行できていると評価できる。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 ((4)-②-1))
【事業概要】文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行う。	
【担当部課】	学芸部
【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長 大原嘉豊
【主な成果】	
<p>(1)修復文化財情報の収集と調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年度、文化財保存修理所の工房に搬入した新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、124件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。 ・当館研究員により4回行った修理工房の巡回のほか、修理技術者とともに実施した科学調査を含む調査を適宜実施し、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。 <p>(2)修復文化財情報の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書(報告書)」に基づき、1,073件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。 <p>(3)模写作成のための文化財の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館と模写修理事業者(六法美術)による当館蔵「若狭国鎮守神人絵系図」の復元模写(5か年計画)の5か年目として、上げ写しによる模写(下絵)に基づき、調整した本紙料紙に骨描き及び彩色を施した。なお、彩色に先立ち、顔料の化学分析を行い、その結果を参考に絵具の選定を行っている。その後、裏打ちを行い、表紙・見返し・軸付等をつけて成巻して、復元模写事業を完了した。 <p>(4)情報の公開と共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年度に修理が完成した文化財170件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第19号(4年3月31日発行)に掲載した。 ・修理時の調査により発見された銘文24件を「銘文集成」として同書に報告した。 	
 <p>『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第19号</p>	
【備考】	
<p>(1)データ収集件数 124件、巡回回数 4回</p> <p>(2)データベースの追加更新件数 1,073件</p> <p>(4)報告書 1冊(修理報告170件、銘文報告24件を含む)</p>	

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>文化財保存修理所で行われる文化財修理に係る情報については、紙ベースでの収集・整理を行うとともに、過去の情報から順次遡及的にデジタル化を進めており、3年度も継続して事業を行った。文化財保存修理所で行っている修理・模写文化財の写真など大量のデジタルデータを、2年度に増設したサーバにより、安全に保管するように努めている。また、紙ベースでの報告書をデジタル化したものを写真などのデジタルデータと統合していく作業を進めている。4年度は報告書自体も紙ベースでの収集からデジタルデータでの収集へ変更を進めて行く予定である。</p> <p>「若狭国鎮守神人絵系図」(当館蔵)の復元模写事業は、2年度からの検討課題であった欠失箇所的位置について、本来存在していたと考えられる1紙分白紙を入れることとした。さらに、科学分析に基づいた顔料選定により彩色を行い、5か年計画の5年目に予定通り復元模写事業を完了することができた。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>中期計画に沿って、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究活動の一環として、文化財保存修理所で行っている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行った。新型コロナウイルスの影響がある中、文化財保存修理所に搬入する修復文化財の多寡は、2年度同様に安定した件数で推移しており、科学調査を含む調査に関しても修復・模写文化財の情報の収集が順調に進んでいる。サーバを活用し、デジタル化を進めていくことができ、中期計画の初年度として計画を遂行できているといえる。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ 文化財の製作技法・材料等に関わる調査・研究 ((4)-②-1))		
【事業概要】 博物館の展示・教育普及活動に関連する調査研究として、有形文化財の製作技術に関わる調査や、使用材料等に関する調査を実施し、データの蓄積を図る。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室長 降幡順子
【主な成果】 (1)作品の調査研究 3年度の構造調査としては、X線CT撮像4件14点、SfMによる3次元形状調査1件3点、透過X線撮影による内部構造調査3件36点を実施した。作品の材質調査としては、蛍光X線分析調査16件298点、分光分析調査3件151点、オルソ撮影2件2点を実施した。 (2)展示に関連する調査研究の一例 展示のために借用した文化財資料に対して、X線CT及び透過X線を用いた内部構造調査、蛍光X線分析調査による材質調査を実施し、製作・技法等を確認した。特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」では「天球儀(久修園院蔵)」のX線CT調査を実施し、地球儀内部の芯部構造を視覚化した。特別展「京の国宝」では「金銀鍍宝相華唐草文透彫華籠(神照寺)」の透過X線画像と材質調査を実施し、特別展「畠山記念館の名品」では「薄鹿蒔絵螺鈿硯箱」を調査し、其々に用いられた材料の多様性、類似作品との共通性等を示すことができた。 (3)館蔵品等の作品を対象にした鎌倉時代の密教法具について、技術の解明にも有用なデータを得ることができ、その成果は学会等にて情報発信を行った。また絵画資料の染料・顔料材料調査を継続的に実施しており、さらに3年度から、新たに平面的な非破壊的調査として、絵巻や板絵のオルソ画像を赤外線でも取得できるようになり、彩色材料データの蓄積を図った。 (4)地方公共団体や美術館からの依頼を受入れた展示・修理事業に関わる調査を実施し、使用材料や復元材料に関するデータ提供を行った(京都府、京都市、長浜市、敦賀市、京都市美、林原美術館)。			
【備考】 (1)学会発表等 ・降幡順子・末兼俊彦・古川史隆・田澤梓・久保智康「密教法具の科学的調査-金勝寺所蔵品および京博所蔵品を中心に-」『日本文化財科学会』、9月 (2)論文等 ・降幡順子・森川稔・柳成焜・神野恵・辻成希「放射光高エネルギー蛍光X線分析法を用いた平安時代前期の緑釉陶器の胎土分析」『SPring-8/SACLA 利用研究成果集9巻第3号』、5月 ・降幡順子・石田由紀子・岩戸晶子・神野恵・清野陽一・丹羽崇史・伊奈稔哲・宇留賀朋也「埋蔵環境中の鉄イオンによる奈良三彩胎土への影響に関する研究」『SPring-8/SACLA 利用研究成果集9巻第4号』、6月			



分光分析調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は、29件504点の有形文化財について分析調査を実施し、製作技法等に関わる情報を得ることができた。新型コロナウイルスの影響はあったものの、外部組織からの調査依頼は積極的に受け入れ、調査成果の活用、社会への貢献に努めた。分析事例の集積とともに、得られた調査成果の一部は学会で発表するなど情報発信を行った。4年度以降も継続して実施する予定となっている調査は、データの蓄積を図るとともに、成果は図録、学会発表等による情報公開に努める予定である。 継続的に実施している彩色材料調査では、3年度は京都市美術館の協力を得て、顔料・染料のデータ蓄積を図った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、博物館の展示・教育普及活動に関連する科学調査を、広く有形文化財を対象に行うとともに、分析手法の多様化を図り、研究成果は随時、図録や学会等を通じて公開し、データ蓄積を図ることを計画している。3年度は、X線・赤外線等による材質・構造調査、光学調査を多様な材質の美術工芸品を対象に実施し、使用材料の傾向や特徴を明らかにし、データの蓄積を図ることができた。このことから、中期計画の初年度として順調に計画を遂行できているといえる。また、3年度より赤外線のオルソ画像取得が新たに可能となり調査運用を開始したことから、4年度以降の今中期計画期間を通して新たな分析手法の幅広い活用に尽力したい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ 社寺等における保存環境に関する調査研究 ((4)-②-1))		
【事業概要】 文化財を有する社寺においては、例えば彫刻は須弥壇等に置かれ、障壁画等は建物内に配置されている。このように建造物内に常設されている有形文化財に対して、温度・湿度、照度等を博物館環境と同等に調整することは難しい。また歴史的な建造物の大がかりな改修工事なども困難である。文化財の劣化に大きく影響する要因として、温湿度の変動や、照度・紫外線の強度、空気質に着目し、まず現状の環境調査を実施し、その結果を生かして簡便な手法で保管環境の改善に関する協力を行い、文化財のより適切な保管環境を目指す。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室長 降幡順子
【主な成果】 社寺等を対象とする文化財の保管環境に関して基礎データの収集に努め、改善に関する協力を行った。 (1)知恩院・京都府・京都市との打合せ3回、月次報告12回実施 (2)知恩院境内の12箇所で温湿度モニタリングの実施、宝物庫の空気室調査（アンモニア、有機酸類、ホルムアルデヒド類）4回実施（春季、夏季、秋季、冬季）、照度・紫外線モニタリング2箇所で実施。 (3)鳥取県・三仏寺収蔵庫内外2箇所で温湿度モニタリングの実施 (4)文化財資料の適切な保管環境に関する検討			
【備考】			
			
データロガー設置状況例		紫外線・照度測定センサー設置状況例	

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度の社寺等における有形文化財の保管環境に関する調査は、主に知恩院境内にて実施した。温湿度及び照度・紫外線強度のモニタリングを実施し、府・市とも情報共有を図った。調査結果から、照度に関しては、簡便な手法での改善が期待できたことから、秋季から対策を実施し、保管環境の改善に繋げることができた。4年度以降は、室内の温度分布変化を捉えて、湿度上昇の原因解明に努める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間に環境調査を実施する社寺を順次変更しながら、広く公開・保管環境と改善に関する取り組みを実施する。初年度である3年度では、知恩院境内についてモニタリングを行い、簡便な手法での改善策を実施し、照度についてはその効果が確認できた。日常的に行われている法会や参拝者へも配慮をした効果的な改善策については、社寺の協力が必須であるため、4年度以降も社寺との連携を十分に取つつ、継続してモニタリングを実施していく予定である。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究 (4)-②-1)		
【事業概要】 館内施設や設備（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的としている。次の4点の調査を継続的に実施し、得たデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を行う。 (1)温湿度データロガーを用いた館内施設の温湿度調査。 (2)展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察）。 (3)文化財害虫トラップの設置及び回収と解析。 (4)ガス検知管を用いた展示室内、ケース内の空気環境の調査。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長 荒木臣紀
【主な成果】 (1)展示室と展示ケースに設置した無線式温湿度データロガーで15分間隔の温湿度計測を実施した。取得蓄積した温湿度データから、ケースの特性、展示室別の特性を捉え、空調機器運転方法を展覧会ごとに情報を整理し展示室内の環境管理に役立てた。収蔵庫についても温湿度データロガーとデジタル温湿度計を用いてのモニタリングを毎月行い、館内環境ワーキンググループでデータ共有して空調の調整に役立てた。 (2)正倉院展終了後に、展示ケース内の敷板、卦算などから塵埃を採取、電子顕微鏡にて観察し、塵埃の状況からケースの気密性に対する評価を行った。調査結果を踏まえ、適切な気密性を整えるために修理や部材交換などのメンテナンスを実施予定。 (3)2年度に引き続き、文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し、2か月に1回交換を行った。調査結果を蓄積し分析することでIPM(総合的有害生物管理)を推進し、文化財害虫の生息が確認された箇所を重点的に清掃し被害の低減に努めた。また、清掃と防塵マット交換を定期的実施し、展示室・収蔵庫の周辺の衛生環境保持に努めた。 (4)展示室内、ケース内の有機酸、アルデヒド類の濃度は文化庁の定める公開承認施設の基準を満たす濃度であった。			
【備考】 ・学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される、「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を実施した。月に1回程度開催し、展示保存環境に関する問題点や改善案について協議を重ねている。 (1)展示室内温湿度調査：97か所 (2)展示ケース内ほか粉塵調査：25か所 (3)文化財虫害生息状況調査：100か所 (4)空気環境調査：展示ケース、展示室内1各か所 ・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：8回開催			
			
		空気環境調査の様子	ガス検知管と吸引ポンプ

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続した調査の実施やデータの蓄積を着実にやっている。また、調査で得られた結果を踏まえ、ワーキンググループでの情報共有だけでなく、議論や検証が行い易い解析方法を模索し、館全体での展示保存環境の保持と改善を図った。分かり易いデータ解析を進め円滑な監視体制を整え保存環境の維持や向上を進めた。なら仏像館についても温湿度無線データロガーを新たに設置し、館内環境維持のため継続して調査を行うことができた。4年度以降もデータの蓄積を進めていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東新館、西新館の展示室や収蔵庫では温湿度並びに文化財害虫に関するモニタリングや空気環境の調査を年間通じて行っている。なら仏像館においても同様の調査とデータの蓄積を着実に実施しており中期計画の初年度として十分な成果を上げることができた。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ 文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究((4)-②-1))		
【事業概要】 本事業では、以下の2点の内容について実施した。 (1) 館蔵品や寄託品の修理前や修理中等に併せ、X線CT撮影、X線透過撮影・蛍光X線分析を実施し、所得した画像やデータを修理方針の策定に反映させた。 (2) 文化財保存修理所での修理中の文化財については、当館の研究者と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、得られた結果を修理へ反映した。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長 荒木臣紀
【主な成果】 (1) 館蔵・寄託の文化財（彫刻や漆工品など）の修理や展示作業に併せ、X線CTスキャナやX線透過撮影を実施し内部構造や納入品の把握を行った。これらの光学調査は研究や修理に活用すると共に、データの蓄積も進めた。 (2) 当館研究者と工房の技術者が共同でX線CTスキャナ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの光学調査を行った。館蔵品や寄託品の修理前や修理中にこれらの調査を実施することで、修理へ成果を随時反映させることが可能となり、彫刻作品・漆工作品や絵画作品のより安全な修理に役立てることができた。一例として、絹本着色十二天像の修理においては、白色部分の材質を蛍光X線分析で特定して表現技法と汚れの区別を行うための情報を整えた。			
			
写真 1. 修理に伴う蛍光 X 線分析調査			
【備考】 ・調査件数 X線CTスキャナ調査：34件 蛍光X線分析調査：3件			

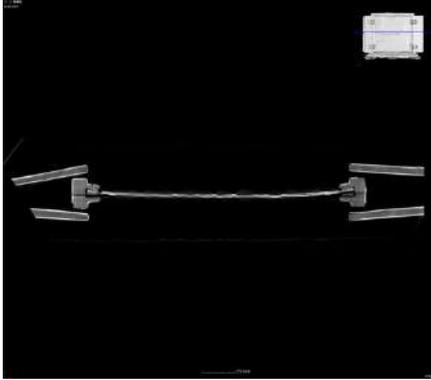
年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	修理等の際に内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を得るため光学調査を実施した。X線CTスキャナやX線透過撮影は適切な修理に欠かすことのできないものとなっており、装置の未更新により活動は制限されるが計画を遂行している。また蛍光X線分析は彩色材料の同定に重要な役割を果たしており、より成果を出すための装置の支持具の改良が待たれる。光学調査の結果は、修理調書に反映させるとともに修理方針の策定にも役立っている。今後も継続した調査並びにデータの蓄積を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	X線CTスキャナは順調に稼働し、彫刻や漆工品などの修理に大いに役立っているため、4年度以降も安定して稼働させるために装置の更新を行う予定である。文化財保存修理所での修理内容をふまえ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの調査も行うことで、広い分野の修理方針の策定等に伴う調査を随時実施できた。4年度には装置の支持具の改良を進め活用範囲を進めたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1) 有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ 保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究((4)-②-1))		
【事業概要】 美術史的な観点からの作品情報を裏付けるための科学的な調査を行うことで、作品評価の適正化を試みる。また、個別での調査に加え、博物館の特性を活かした横断的な作品調査を行うことで得られる情報を調査研究、展示、教育の分野で活用する。さらに、科学技術の進歩に伴って博物館資料への応用が可能になった新たな調査方法や従来からある調査方法の中から精度の向上した調査方法を博物館活動の中に取り入れる。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長 荒木臣紀
【主な成果】 ・「聖徳太子と法隆寺」展における木彫作品のX線CT調査を横断的に行い、木取りや構造の調査を行った。 ・寄贈予定の彫刻作品のX線CT調査を順次行い、作品評価の適正化に寄与した。 ・「奈良博三昧」展で展示され、これまで技法が解らなかった「両界曼荼羅(厨子入り)」のX線CT調査を行ったことで麻布が木枠に固定されている事が判明した。同展覧会出品作品では、その他にも「釈迦如来立像」頭部に納入されている舍利容器の取り付け位置、形状が判明した。それらの成果は展覧会図録、講演会等で公開された。			
【備考】			
			
写真1. 調査を行った両界曼荼羅		写真2. 両界曼荼羅のCT画像(上から)	

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今回、X線CT調査により、調査研究分野における進展に寄与でき、立体分野で重点的に成果を得られた。4年度以降は調査の有効性を広くアナウンスし、幅広い分野での調査研究を行う。また、今後は得られた成果を講演会以外での教育分野での活用を検討することで、データの活用方法をアウトリーチする方法を模索する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度はX線CTによる文化財の立体構造の解明等において調査を行い、中期計画の初年度として計画を遂行している。また、今後は色を測定する調査、可視光線以外の波長を用いた調査を行える体制を整えることで、幅広い文化財の調査が進むことが予想される。引き続き、立体文化財3Dデータと3次元プリンターを用いた教育効果を得られるように体制作りを進める。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア 文化財の材質・構造等に関する共同研究 ((4)-② -1))		
【事業概要】 本研究では、X線CTスキャナ及び3Dデジタイザ等の非破壊的な調査手法を使用し、各種文化財の材質・構造等に関する知見を得ることを目的とする。また、本研究は、館内及び外部の多様な専門分野の研究者との学際的協力によって遂行することを目指す。			
【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員 渡辺祐基
【主な成果】 (1) 漆工品の構造調査 修復技術者と協力し、琉球漆器(料紙箱及び中央卓)のX線CT調査を実施し、木地構造や布着せについての知見が得られた。また、料紙箱の調査では、後補下地の下に当初の螺鈿が残っていることが判明し、これに基づいて修復の際には後補下地が除去された。中央卓の調査では、過去に調査された別作品との比較を行い、両作品間で造形だけでなく木地構造も極めて類似していることが明らかになった。 また、文化庁所有の「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」のうち、香道具類一式のX線CT調査を実施した。箱型の作品については、角における部材の接合方法が作品によって異なることが明らかになった。 (2) 複製品製作のための基礎調査 当館所蔵の蘆屋楓流水鶏図真形釜の複製品を製作するため、X線CTスキャン及び3Dデジタイザによる調査を実施した。得られたデータを鋳物師とともに解析することで、作品の正確な寸法が把握できただけでなく、目視では確認が困難であった表面の図様や制作時の痕跡を抽出することができた。これらのデータに基づいて作られた鋳型によって複製品の鋳造が行われた。本調査によって、制作当初の姿に可能な限り近い複製品を製作することができた。			
【備考】 ・X線CT調査件数90件、調査回数271回 ・3Dデジタイザ調査件数8件、調査回数12回 <論文等> ・大西智洋、渡辺祐基、當山綾乃「浦添市美術館所蔵黒漆山水人物螺鈿料紙箱のX線CT調査から、修復計画変更までの経緯と結果報告」『文化財保存修復学会第43回大会研究発表集』82-85(7月) ・渡辺祐基、川畑憲子、吉川美穂、田中麻美、木川りか「国宝『初音の調度』のうち貝桶、昆布箱、楊枝箱の構造及び製作技法のX線CT調査」『日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集』130-131(9月) ・川畑憲子、渡辺祐基、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について(2)香道具」紀要『東風西声』17号(4年3月) ・大西智洋、渡辺祐基、金城聡子「黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓の修復報告とX線CT調査報告」『浦添市美術館紀要』17号(4年3月)			



婚礼調度のX線CT調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は98件の文化財等の調査を実施し、漆工品や金工品について、高精細な三次元データを収集できた。これらのデータを所蔵者やその他専門家と共同で解析することで、文化財の内部構造や製作技法に関する新たな知見を得ることができた。さらに、本研究の成果を論文として公表したり、複製品の製作に活用することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、外部研究者とも協力し、各種文化財の材質・構造等に関する調査に取り組むことを目標とする。3年度は、中期計画の初年度として、漆工品や金工品をはじめとする各種文化財の調査を実施できた。特に、「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」に関しては、中期計画完了までに全作品のX線CTスキャンを行う予定である。4年度以降も調査を継続するとともに、データの分析、並びに結果の公表及び展示等への活用を推し進める計画である。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ 博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究 ((4)-②-1))		
【事業概要】 ベトナム国立歴史博物館が所蔵する作品の保存修理事業を行い、ベトナムでの修理理念の検討と人材育成を目指す。また、文化財修理に係る様々な事柄を、作品の展示を通して公開し、博物館における文化財の保護と継承への取り組みとその意義について理解を深める機会を提供する。			
【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長 志賀智史
【主な成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール国立ヘリテージコンサーベーションセンター（HCC）との意見交換会 科研費「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」の事業も兼ねて行った。コロナ禍によりリモートで開催した。それぞれの立場で意見交換を行ったが、国の歴史や博物館の性格により、保存修理の理念や方法が異なることが認識できた。例えば日本では、日本文化の中から生み出された様々な美術工芸品が伝統技術と伝統材料を用いた修理により今日まで伝えられてきているが、シンガポールは比較的新しい国で、多民族国家であり、生産地ではなく交易地である性格が強い。このため、美術工芸品の製作技術だけでなく、それを修理する伝統技術や伝統材料などもほとんど認められないことは大変興味深かった。 ・文化交流展示「賛助会費による修理成果展」 実施予定日：4年3月23日～5月8日の7週間 展示場所：文化交流展示室 第7室 元年度～2年度の賛助会費で修理した作品4件について、作品に加えて修理工程パネルや修理道具も展示した。会員へ感謝の気持ちを伝えるとともに、一般の方々に「文化財をまもり伝える」という博物館の役割について知って頂く機会となった。 ・ベトナム国立歴史博物館所蔵品の修理事業（中止） 当館との協定館であるベトナム国立歴史博物館が所蔵する神勅について、修理工房 幸匠（株）の協力を得て、現地で修理を行う予定であった。しかし、コロナ禍により現地へ渡航することができず、2年度に続きやむなく実施を中止した（住友財団助成事業）。 			
			
HCC とのオンライン会議		賛助会費による修理成果展	
【備考】			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>保存修理事業を広く周知するため、例年バックヤードツアーを行っていたが、3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。しかし、修理した作品等を展示したことにより、それに代わる普及事業としての役割も担うことができた。</p> <p>3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限措置により、ベトナムへの渡航が叶わなかったため、現地での修理を諦めざるを得なかった。今後も感染の世界的動向を注視しながら、事業再開に向けた準備を継続したい。</p>

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	<p>3年度は中期計画初年度として、修理に関連する作品及び修理工程パネルを展示室にて展示することで、保存修理事業を周知することができた。</p> <p>元年度に開始したベトナムでの紙を素材とする文化財の修理事業は、日本の修理技術を用いたベトナム初の修理であり、今後の展開が期待されるものである。引き続き、事業再開を目指す。</p>

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ 博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究 ((4)-②-1))		
【事業概要】 本研究の目的は、我が国の博物館における IPM (総合的有害生物管理) 普及のための持続的なシステムづくりである。館内のさまざまな部署との連携はもちろんのこと、地元 NPO 法人やボランティア等とも協力し、持続的に IPM を実践するためのシステムづくりを行う。また、研修会の開催等を通じて IPM の社会的理解度を深めつつ、博物館等における IPM を軸にした地域共働システムづくりを目指すものである。			
【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長 木川りか
【主な成果】			
(1) 「IPM オンライン相談会」の開催 新型コロナウイルスの状況に鑑み、オンラインによる 1 施設あたり 1 時間の IPM 相談会を 10 施設を対象に実施した (10 月 20 日～22 日の 3 日間)。また、9 月にも 1 施設に向けて実施したため、年度の合計としては 11 施設を対象とした。アンケート結果では「施設の状況に合わせて、知りたい部分についての相談ができたので、大変参考になった」、「なかなか研修までは出られないが、オンライン開催であれば相談ができて有難かった」などの意見があり、高い満足度がうかがえた。			
(2) 館内環境ワーキング会議・館内職員向け IPM 研修の開催 IPM などの館内環境に関わる情報の共有のため、館内の各部署から 1 人以上出席して、月 1 回 環境ワーキング会議を実施している。議事録は学芸会議、運営会議で共有されるため、館内での情報共有や問題解決の方法として大切な役割を担っている。 また、3 年度も主に新任職員を対象として、館内関係者 24 人に IPM 研修を実施した (6 月 23 日、7 月 13 日)。館内の各部署の関係者と館の IPM ポリシーを共有、IPM 活動に対する理解を深める点で、館内研修も大きな役割を果たしている。			
(3) 海外のオンラインコンファレンスでの取り組みの発表 ICON (The Institute of Conservation) の主催する Pest Odyssey 2021- The Next Generation (9 月 20 日～22 日) にて、当館における IPM の取り組みや文化財害虫の生態に関する研究成果を口頭及びポスターで発表した。			
【備考】 ・ IPM オンライン相談会 (3 日間) 1 回 参加施設数 : 10 施設、9 月 1 施設 合計 11 施設 ・ 館内職員向け IPM 研修 (1 日間) 2 回 参加人数 : 24 人 ・ 学会研究会等発表 : オンラインコンファレンス Pest Odyssey 2021- The Next Generation 口頭発表、ポスター発表 1 件ずつ (9 月 20 日～22 日)			



環境ワーキング会議の様子



オンラインコンファレンス

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館の危機管理として館内の IPM 活動を進めるとともに、その経験をもとに IPM オンライン相談会を開催し、全国各地の文化財関連施設への普及に資することができた。また、取り組みの成果や研究内容を国際学会で報告し、当館の取り組みを発信するとともに、世界的な状況についても調査することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館内の事業や活動を通して IPM の活動についてのノウハウが蓄積されてきている。その成果を生かして、博物館等の IPM 活動に関連し、全国の博物館等から総務系と学芸系など職種の異なる担当者に向けて継続的に普及事業を実施し、中期計画を遂行できている。また、全国の博物館等施設からの個別の相談なども寄せられ、助言等により協力している。オンラインによる相談会ならではのメリットも生かし、今後もよりよい普及に努めたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 エ 展示収蔵環境の空気質に関する調査研究 ((4)-②-1))		
【事業概要】 展示収蔵環境における空気質を調査し、揮発性有機化合物濃度を低減させる実用的な対策の確立に向けた調査研究を行う。			
【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長 木川りか
【主な成果】			
(1) 展示ケースの換気システムに関する検証 展示ケース内の空気環境を清浄に保つため、換気ファンを取りつけた展示ケースを試作し、その効果を検証した。通常の展示スケジュールの中で効率的に換気するため、条件を変えて経時的に酢酸やホルムアルデヒドの濃度等を調査し、実用的な換気システムの運用方法を検討した。			
(2) 展示空間で発生する揮発性化学物質 (VOC) の調査 展示空間における汚染物質の発生源を制御するため、揮発性化学物質が発生しにくい材料や製作法を検討した。展示ケースや展示台等に使用され得る材料について調査を進めた。			
(3) 桐箱から放散する有機酸放散量低減に関する研究 文化財の保存箱である桐箱からは有機酸が放散されることが指摘されている。新しく製作された桐箱をより効果的に枯らすため、加熱処理実験を実施し、有機酸放散量の低減効果がみられるかどうかを検証した。実験の結果、桐箱内の酢酸濃度は低下する傾向が見られており、今後は加熱処理の有効性について検証を進める。			
(4) 文化交流展示展示ケースの環境改善 ケース内の空気環境が改善されにくい状況であった壁付ケースに、試験的にタイマー付きの換気装置を導入して運用した結果、良好な空気環境へ改善できた。			
			
展示材料から発生する VOC の調査		展示ケースの空気質測定の様子	
【備考】			
<ul style="list-style-type: none"> 学会発表：和泉田絢子、渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、木川りか「湿度制御した加熱処理による桐箱からの有機酸放散量低減化に関する検討」文化財保存修復学会第43回大会（7月15日、紙上開催） 解説：木川りか「文化財の保存・活用と木質系材質にかかわる諸問題」『木材保存』48巻1号（4年1月） 			

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示収蔵環境における空気質について詳細な調査を行い、データを蓄積することができた。得られたデータを、展示空間に用いる適切な材料及び製作法の検討や選定に生かしている。また、館内で情報共有を行い、揮発性有機化合物濃度を低減させるための方策を協議し、より良い保存環境の維持に努めた。

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は中期計画の初年度として、空気質について各種条件で調査を実施し、詳細なデータの収集に努めた。4年度以降も継続的に調査を進め、博物館等で運用可能な空気環境改善の実用的な方策について検討を進めていく。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 ア 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究		
【事業概要】 当館における収蔵品管理システムの調査研究を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究を行い、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。			
【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課 村田良二
【主な成果】 1)収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、作品管理、修理予定・履歴管理、文献情報管理の各能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。 2)従来の「分類」とは別に、作品をより適切に表現する「作品種別」を追加できる機能を新たに設計、実装した。「作品種別」は「絵画」「彫刻」などの分野ごとに、主題や地域を表す用語を階層的に構成し、容易に検索できるようにするもので、ColBaseにも公開データとして反映する。 3)セキュリティ対策を強化するため、すべての機能について利用前にログインを必須とするようにした。 4)検索機能を強化し、フリーワードによる検索、作品種別による検索、現在の所在による検索を可能とした。			
			 検索条件入力画面
【備考】 収集データ件数 239,698件 (内訳) 作品データ件数 225,550件 平常展データ件数 6,205件 鑑査会議データ件数 106件 貸与データ件数 2,213件 修理データ件数 2,737件 文献データ件数 2,887件			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムを継続的に開発し、館内からの要望に応えながら着実に発展させることができた。「ColBase」での公開にあたって、収蔵品の「分類」データが必ずしも個々の作品の実態を反映していないという課題に対し、新たに「作品種別」として階層的でわかりやすいデータを利用できる環境を整えることができた。またフリーワード検索や所在による検索を実装し、より効率的に学芸業務を行えるようにした。さらに、情報セキュリティ対策の向上のため、すべての機能についてログインを必須とし、ログに残される操作を行ったユーザを特定できるようにした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間では、より業務の実態に即した継続的な改善と、収蔵品に関する様々なデータ資源を集約的に扱える統合環境の構築を目指す。初年度となる3年度は、要望の多かったフリーワードによる検索をはじめ検索機能を強化するとともに、セキュリティ対策の強化、作品種別の実装を行った。4年度以降は、全体的なユーザインターフェースの統合や、不要な機能の整理、さらなるデータ統合を検討する。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究		
プロジェクト名称	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 イ 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究		
【事業概要】 4年度の当館創立150年へ向けて『東京国立博物館150年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料を作成する。また、原稿の整理や入稿など編集作業を行う。3年度は関係文書類の整理とデータ化、保存措置を続けた。また、寄稿された原稿の整理と入稿、校正を推進した。			
【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長・ 恵美千鶴子
【主な成果】 (1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置(4月1日～4年3月25日:週に1日程度) 資料保管室(資料館3階)に収集した約8,500件の館史関係文書類について、27年度に完成した目録(仮)と対応させながら、資料の保存や出納のために、中性紙箱への入れ替えを行った。また、館内外より新たに収集した資料について目録を作り、活用できるように整理をした。以上は、東京国立博物館百五十年史編纂室アソシエイトフェロー1名、有期雇用職員1名がともに作業を行った。 (2)『150年史』原稿についての整理と入稿、校正作業(適宜) 提出された原稿について、内容を確認し文体の統一を行いながら、編集出版業者に入稿した。まだ原稿を提出していない執筆者に対して連絡を入れながら、原稿提出を促した。編集出版業者より出来てきた校正用紙を執筆者に校正してもらい、編纂室でさらに確認をして業者へ戻した。 (3)館史の内容に即した文書類の整理・デジタル化 a)『百年史』資料のデジタル化(4月2日～4年3月25日の間、週に1日) 『150年史』編纂の基礎資料とするために、『百年史』編纂時の資料のデジタル化を行った。アソシエイトフェロー1名、有期雇用職員1名がこれを進めた。 b)『百五十年史』資料編のための年表作成(適宜) 「出版物年表」「教育普及年表」など、150年史資料の中から関係するデータを抜き出して年表を作成した。 (4)『百五十年史 普及版』制作の資料収集(10月13日～4年3月25日の間、適宜) 『百五十年史 普及版』に掲載する館の歴史に関わる古写真を収集しデジタル化した。 (5)問い合わせへの対応と関係資料の提供(4月21日ほか) 『150年史』執筆者などへの資料提供と、館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。			
【備考】 (1)収集した文書類の整理:41日間実施 (3)a)『百年史』資料のデジタル化:32日間実施(725点) (4)『百五十年史 普及版』の古写真デジタル化:1,050点 (5)資料提供・問い合わせ対応:14件			

年度計画に対する総合的評価

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度より継続的に行ってきた文書類の整理・保存措置について3年度も進めた。また収集・整理した文書類のデータを活用し、『150年史』執筆者や問い合わせに対して資料提供を行うことができた。そして、寄稿された原稿と資料編用データを整理・入稿し、校正作業も行い、編集出版業務を進めることができた。引き続き、館内各所に所在する文書類を『150年史』編纂に有効に活用できるようにするとともに、4年度の『150年史』刊行に向けて編集出版作業を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評価	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	『150年史』執筆者への資料提供や館史に関わる問い合わせ、調査研究などの要望に2年度に引き続き迅速に対応できた。また、原稿の整理や入稿、校正を進められたことから、中期計画に対する進捗状況は順調である。4年度も引き続き文書類のデータ化を行い、利用しやすい文書整理を心掛け、さらなる活用を図るとともに、『150年史』刊行のために編集出版作業を進めていきたい。

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
プロジェクト名称	ア データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究 ((4)-②-2))																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
【事業概要】 当館で運用している収蔵品管理システムや図書管理システムなどの業務用システムをはじめ、公式ウェブサイトや館蔵品データベースなどの外部公開システムなど、各種システムの課題を整理するとともに、博物館情報に関する調査研究を進める。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
【担当部課】	学芸部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
【プロジェクト責任者】	美術室長兼列品管理室長 羽田聡																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
【主な成果】 (1) 収蔵品管理システムや図書管理システムなど、当館が持つ情報を蓄積、管理するためのシステムや公式ウェブサイト・館蔵品データベースなど、情報発信の方法等について検討する「情報システム検討委員会」を開催し、博物館情報に関する研究を推進した。 (2) 画像利用申請や貸与許可書等、帳票類の押印廃止に対応するため、収蔵品管理システムの改修を行った。 (3) 収蔵品管理システム及び公式ウェブサイトのリニューアルに向け、現システムの課題と新システムに必要な機能について検討を重ねた。システム開発の委託先を決定し、リニューアルに伴う作業を進めた。 (4) 蔵書管理システムのリニューアルに向け、館内で検討を進め、仕様書を策定した。 (5) 館内で運用中のシステムについて、リプレースすべきタイミングを整理した。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
【備考】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名/複製ライフサイクル ※字=購入時、別予算</th> <th>2010</th> <th>2011</th> <th>2012</th> <th>2013</th> <th>2014</th> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>hosvubk (保存管理検索専用機)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>hosvuv (保存管理検索専用機)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>johokanr1bk (情報担当用ストレージBK)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>johokanr1sv (情報担当用ストレージ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>K15-RGSR01 (糸島料紙27)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>K15-RGSV01 (糸島料紙27)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>K17-ANSV02 (infoサービスとして臨時使用 濃紙料紙28)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>NA01-BK (RFES01バックアップ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>NA05-SC (28科学館室ONAP1号)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>NA07 (ONS)バックアップ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>NA08 (データメンテナンス用)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>RAVSV01-BK (RAV画像集積バックアップ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>renke1bk (調査・国際連携専用機)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>renke1sv (調査・国際連携専用機)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>TORKANBK (特別観覧用画像集積)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>WWW-NAS (WEB)バックアップ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>WWW-WWW (外部公開系)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>web1 (宗博公式Webサイト)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>navi (ナビゲータ交流サイト)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>cms2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>館内で運用中のシステムについて、リプレースサイクルをまとめた表 (黄色⇒4年度、要リプレース時期。赤⇒リプレース時期)</p>		機器名/複製ライフサイクル ※字=購入時、別予算	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	hosvubk (保存管理検索専用機)																	hosvuv (保存管理検索専用機)																	johokanr1bk (情報担当用ストレージBK)																	johokanr1sv (情報担当用ストレージ)																	K15-RGSR01 (糸島料紙27)																	K15-RGSV01 (糸島料紙27)																	K17-ANSV02 (infoサービスとして臨時使用 濃紙料紙28)																	NA01-BK (RFES01バックアップ)																	NA05-SC (28科学館室ONAP1号)																	NA07 (ONS)バックアップ)																	NA08 (データメンテナンス用)																	RAVSV01-BK (RAV画像集積バックアップ)																	renke1bk (調査・国際連携専用機)																	renke1sv (調査・国際連携専用機)																	TORKANBK (特別観覧用画像集積)																	WWW-NAS (WEB)バックアップ)																	WWW-WWW (外部公開系)																	web1 (宗博公式Webサイト)																	navi (ナビゲータ交流サイト)																	cms2																
機器名/複製ライフサイクル ※字=購入時、別予算	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
hosvubk (保存管理検索専用機)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
hosvuv (保存管理検索専用機)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
johokanr1bk (情報担当用ストレージBK)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
johokanr1sv (情報担当用ストレージ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
K15-RGSR01 (糸島料紙27)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
K15-RGSV01 (糸島料紙27)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
K17-ANSV02 (infoサービスとして臨時使用 濃紙料紙28)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
NA01-BK (RFES01バックアップ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
NA05-SC (28科学館室ONAP1号)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
NA07 (ONS)バックアップ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
NA08 (データメンテナンス用)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
RAVSV01-BK (RAV画像集積バックアップ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
renke1bk (調査・国際連携専用機)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
renke1sv (調査・国際連携専用機)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
TORKANBK (特別観覧用画像集積)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
WWW-NAS (WEB)バックアップ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
WWW-WWW (外部公開系)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
web1 (宗博公式Webサイト)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
navi (ナビゲータ交流サイト)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
cms2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館内で運用しているシステムについて、稼働年数や運用状況、保守の状況を確認及び整理した。整理した内容を基に、各システムの運用計画を見直し、急ぎ対応が必要なシステムのリニューアルに取り掛かることができた。4年度以降も、収蔵品情報の整理・活用に資する情報収集を引き続き行い、必要とされるシステムのリプレースに向けて努める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として収蔵品管理システム、公式ウェブサイト、館蔵品データベースのリニューアルを開始するとともに、図書システムのリプレースに向けた仕様書の策定を行った。4年度以降、3年度に取り掛かることのできなかったデータベースのリニューアルに取り掛かるとともに、リニューアル後のシステムを運用しながら課題を抽出し、関係施設と情報交換を行いながら、システムの改善を図る。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等		
【年度計画】	<ul style="list-style-type: none"> ・(4館共通) I-1-(4)-③-1)、2)、3)、4) ・(東京国立博物館) I-1-(4)-③-2)、3) 		
担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長 楊鋭
【実績・成果】	<p>(4館共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館と韓国国立中央博物館共同主催の「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」をテーマとしたオンラインセミナーを開催した(9月9日) ・韓国国立中央博物館と共同で日韓博物館の国際交流事業の現状共有、協力事業のアイデア交換、担当者同士のネットワーキングを目的とした「ウィズコロナ時代、日韓の博物館における国際交流の挑戦」オンラインセミナーを主催した(11月25日)。 ・日中韓国立博物館長の合意事項に基づき、博物館の文化マーケティング戦略について情報共有のオンラインフォーラムを主催した(12月8日)。 ・館内展示作品の題箋デザインや多言語解説の内容を継続的に改良している。 ・日本在住の外国人及び海外の日本美術愛好者向けに、3年9月からSNS(ツイッター、インスタグラム、フェイスブック)による英語、中国語、韓国語の博物館情報発信を開始した。 <p>(東京国立博物館)</p> <p>2) 当館主催の日中韓国立博物館長会議はオンラインにて開催し、ウィズ/ポスト・コロナ時代における3館の協力と情報共有について確認した(7月14日)。</p> <p>3) 26年から継続して実施しているミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン実践と展望」及び日本美術専門家会議は、新型コロナウイルスの影響により開催方法を変更し、それぞれ4年1月29日と2月10日に、オンラインにより開催した。</p>		
【補足事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで行った国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン実践と展望」の国内外参加・視聴者数は613人。 ・2年度に開催予定であった日中韓国立博物館長会議は、新型コロナウイルスの影響により3年度に延期し、オンラインにて開催した。 ・韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館等と定期的に行ってきた学術交流は、新型コロナウイルスの影響により中止となったが、オンラインにて両館と緊密な連携を取り、交流を継続している。 		
			
	日中韓国立博物館長会議		中国語版インスタグラム
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
<p>評価：B</p>	<p>2年度と同様、新型コロナウイルスの影響が続いているため、海外の博物館の定期的に行ってきた学術交流や、研究者の招聘及び当館研究員の海外派遣はすべて中止した。代替となる取組みとして、オンラインにて様々な交流を積極的に推進し、博物館同士のネットワークを維持した。</p> <p>3年度で8度目となるミュージアム日本美術専門家連携・交流事業もオンラインにて開催し、12ヵ国47人の参加があった。</p> <p>また、外国人来館者はほとんどいない状態が続いている中、SNSによる多言語の情報発信は、博物館の展示活動や作品解説の提供など、日本の伝統文化や美術を海外へ広く紹介することに繋がり、これからの発展性が期待される。</p> <p>4年度は、ウィズコロナ時代における海外の博物館・美術館との交流・連携のあり方について研究を進めるとともに、デジタルメディアを活用して、持続的に発展可能な博物館国際交流及び効果的な情報発信に努めたい。</p> <p>以上の実績より、年度計画を遂行できたと判断し、B評価とした。</p>		
【中期計画記載事項】	<p>2019年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。</p>		
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
<p>評価：B</p>	<p>新型コロナウイルスの影響が続いている中、海外の博物館との学術交流や人的交流はオンラインにて積極的に行った。同時に、日本の伝統文化・美術を海外向けに広く紹介するために、SNSによる英語、中国語、韓国語の情報発信を開始した。</p> <p>また、新型コロナウイルスの収束後、訪日外国人も増加すると予測されるため、館内における多言語対応は継続的に改良するなど、中期計画の初年度として、国際交流活動を積極的に取り込んだ。引き続き重点的に国際交流活動を実施し、中期計画を推進する。</p>		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学术交流等		
【年度計画】・I-1-(4)-③ (4館共通) 1)2)3)4)			
担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男
<p>【実績・成果】 新型コロナウイルスの感染拡大により、国際的な人的往来が厳しく制限される状況が継続するなか、多くの事業をオンラインで行い、ウェブ会議などを活用することで以下の成果をあげることができた。</p> <p>1)2)3)2年度に学术交流基本協定を締結したアメリカのサンフランシスコ・アジア美術館と、当館蔵品を活用し、海外展を企画している。新型コロナウイルスの影響により、9月開催の予定が5年秋以降に延期されたが、協議を継続して着実に準備を進めている。</p> <p>1)2)3)サンフランシスコ・アジア美術館において、上記の展覧会と同時期に開催が計画されている、当館寄託の京都の禅宗寺院の名宝を紹介する展覧会について協議し、開催に向け準備を継続した。</p> <p>2)4)国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」をセインズベリー日本藝術研究所と協力して4年3月19日にオンラインにて開催し、欧州・北米・中国・日本の研究者が事例報告及び研究発表を行った。日英中の同時通訳を通して、1,013名の参加を得た(事後の視聴も含む)。</p> <p>2)3)3年度海外ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業において、複数の職員がオンラインで国際シンポジウム及び専門家会議に参加して国内外の日本美術専門学芸員と意見交換を行った。</p> <p>3)4)日韓の国際交流オンラインセミナー「ウィズコロナ時代、日韓の博物館における国際交流の挑戦」(東京国立博物館国際交流室・国立中央博物館文化交流広報課主催)に4名の当館職員が参加し、2名が発表した。また日韓学术交流事業「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」9月9日(国立中央博物館(韓国)・東京国立博物館主催)に2名が参加した。</p> <p>2)4)ICOM-DRMC(国際博物館会議博物館防災国際委員会)年次会議「文化財防災ネットワークの構築:連携に関する事例研究」11月4日～7日(東京及び岩手 ハイブリッド開催)を主催した。会議に5名の当館職員が参加し、1名が発表した。11月4日(東京開催)では145人、11月6日(岩手開催)では180人の参加があった。</p>			
<p>【補足事項】</p> <p>4)ICOM-ICMS(国際博物館会議セキュリティ国際委員会) Webinar「Creating a Crisis Plan」(6月28日オンライン) 当館職員1名が参加し、講演した。</p> <p>4)16回ヨーロッパ日本研究協会「Power, Praxis, and People」(8月26日オンライン)で当館職員1名がパネリストを務めた。</p> <p>4)ICOM-ICDAD(国際博物館会議工芸とデザイン博物館・コレクション国際委員会)の年次会議「Revivals」(10月21日～23日オンライン)で当館職員1名が座長を務めた。</p> <p>4)立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修(9月13日)に当館職員1名が講師参加し、パネリストを務めた。</p> <p>4)ジョージ・ワシントン大学(アメリカ)テキスタイルミュージアムの国際シンポジウム「Cotsen Textile Traces Global Roundtable: From India to the World」(11月17日～18日)で当館職員1名が英語通訳を担当するなど研究発表に協力した。</p> <p>4)公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産に関わる国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題—災害時応急対応事例と課題—」(12月14日～15日オンライン)に当館職員1名が参加した。</p> <p>4)上智大学アジア人材養成研究センター主催「ASEAN Cultural Properties and Museum International Workshop」(4年1月9日オンライン)に当館職員1名が参加し、講演した。</p>			
<p>【年度計画に対する総合評価】 評価: A</p>		<p>【判定根拠、課題と対応】 2年度と同様に新型コロナウイルスの流行による制約が大きく、国を越えての研究員の招聘・派遣が困難な状況ではあったものの、ウェブ会議などオンラインツールの効果的な活用により、活発な意見交換の場を設けることができた。特に国際シンポジウム開催に向けたセインズベリー日本藝術研究所との連携は、今後の両館の持続的かつ発展的な交流を見据えた有意義な取り組みであった。また国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」は、コロナ禍が理由でのオンラインによる国際シンポジウムの開催であったが、当初の計画を大きく上回る1,000人を超える参加者があり、敦煌写本研究の現状を広く国内外に示すことができた。このことは敦煌写本研究の今後の進展に大きく寄与するものである。以上から、A評価が妥当であると考えられる。</p>	
<p>【中期計画記載事項】 2019年ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。</p>			
<p>【中期計画に対する評価】 評価: A</p>		<p>【判定根拠、課題と対応】 3年度は国際シンポジウムの企画開催を行い、海外の研究機関との連携が深めることができたため、国際交流の着実な一歩を進めることができています。特に今回の国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」は当館としても初めての試みであるオンラインのみによる開催であったが、1,000人を超える参加者があった。また参加者の半数以上がアジア、欧米を中心とした海外からの参加であり、活発な討議があるなど、予想以上の研究成果と効果的な取り組みの周知ができたことは当初の予想以上の成果を得られたといえ、今後の当館開催の国際シンポジウムの在り方を考える上でも非常に重要な成果であったといえる。以上から中期計画の初年度として所期の計画を大きく上回ることができていると考えられ、A評価とした。4年度以降も、3年度の成果を踏まえたさらなる取り組みを継続していきたい。</p>	

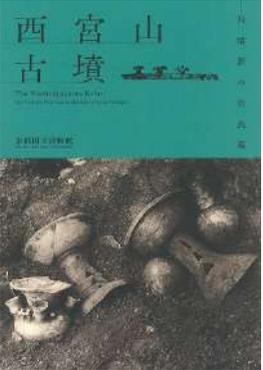


5月サンフランシスコ・アジア美術館及び京都の寺院と海外展に関するオンライン会議

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等		
【年度計画】	・ I-1-(4)-③ (4館共通) 1)、2)、3)、4)		
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 吉澤悟
【実績・成果】 (4館共通)	<p>1) 新型コロナウイルスの影響により、研究者の招へい・派遣は実施できなかった。</p> <p>2) イギリス・セインズベリー日本藝術研究所が6年に開催する予定の展覧会「Nara to Norwich」展への助言をはじめ、国際的な展示協力、ネットワーク構築を図った。</p> <p>3) 東京国立博物館・国立中央博物館（韓国）主催の博物館教育オンラインセミナーに当館3名が参加し、事例報告と情報交換を行った。</p> <p>4) 東京国立博物館主催の「北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」による国際シンポジウムに、当館職員2名が参加した。東京国立博物館・国立中央博物館（韓国）主催2021年日韓学術交流事業による国際シンポジウムに、当館1名が参加した。</p> <p>5) 駐日ドイツ連邦共和国大使、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事、ヨルダン・ハシェミット王国大使館大使をはじめ、各国大使との意見交換を行った。</p> <p>6) 渋谷区立松濤美術館の展覧会「SHIBUYAで仏教美術—奈良国立博物館コレクションより」（学術協力：奈良国立博物館）の英文図録につき、翻訳、編集を行った。</p>		
【補足事項】	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>東京国立博物館・国立中央博物館（韓国） 主催博物館教育オンラインセミナー 発表スライドより</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事との意見交換</p> </div> </div>		
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により海外との往来が制限されており、招へい・派遣事業の実施は困難であった。その中でも、海外の機関に対して可能な限りの助言・支援を行い、オンラインの国際シンポジウム等にも可能な限り参加し、情報収集や意見交換を行った。オンラインを活用するなど時宜に合った学術交流を実施できたため、B評価と判断した。		
【中期計画記載事項】 2019年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。	【中期計画に対する評価】 評定：B		
	【判定根拠、課題と対応】 海外の優れた研究者の招へい、職員の海外への派遣は実施できていないものの、新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中、海外の機関の要請に支援を行い、オンラインの国際シンポジウム等へ参加をするなど、現状において可能な限りの活動を実施した。これらはアフターコロナにおける活発な学術交流に向けての素地の構築であり、中期計画は遂行できていると評価できる。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等		
【年度計画】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ I-1-(4)-③ (4館共通) 1)、2)、3)、4) ・ I-1-(4)-③ (九州国立博物館) 2) 			
担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長 木川りか 課長 田中篤 課長 執行正一
【実績・成果】 (4館共通)			
<p>1) 2年度に学術文化交流に関する協定を締結した上海博物館で、旧正月に開催される企画展示にコロナ禍でありながら2件の文化財を貸与し、交流を強化した。</p> <p>2)、3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アジアの文化財の製作技法・修理技法に関わる調査」の一環として、大英博物館の修復施設(平山スタジオ)で実施されているアジアの絵画の修理についてオンラインによる聴き取り調査を実施した(6月4日)。 ・同様に、シンガポール国立ヘリテージコンサーベーションセンター(HCC)で行われているアジアの文化財の保存修復に関する取り組みについて、オンラインセミナーを実施した(7月2日)。また当館で実施している文化財の管理、保存、修復事業について、先方に紹介するオンラインセミナーを行った(11月1日)。 <p>4) 9月20日～22日にロンドンで開催されたオンラインの国際会議(Pest Odyssey 2021 Next Generation)にて、当館でのIPMの取り組み及び文化財害虫の生態に関する発表を口頭、ポスター発表にて行った。 (九州国立博物館)</p> <p>2) 新型コロナウイルスの影響により、海外の研究者及び修理技術者の招へいはできなかったが、オンラインを活用して上記の活動のほか、アメリカのNational Museum of Asian Artの主催する“Virtual Symposium- East Asian Painting Conservation: Perspectives on Education, Research, and Practice”(6月29～30日)、ICOM-CCのオンラインセッションである”Global Climate Network: challenges and experiences in managing the museum environment”(2月25日)に当館研究員が参加し、海外における日本美術品の修復の状況や最近の研究成果、博物館や文書館等のサステナブルな環境保全に関する状況について情報収集を行った。</p>			
			
大英博物館とのオンラインセミナー		HCC とのオンラインセミナー	
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 2年度に学術文化交流を締結した上海博物館に、コロナ禍でありながら文化財を貸与し海外交流を強化した。また、海外の修理事業に関わる方々とオンラインによる意見交換や、セミナーを実施した。海外の研究者や修理事業者の方の招へいは新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、今後も検討していく。	
【中期計画記載事項】 2019年ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 3年度における海外の研究者及び修理技術者の招へい並びに当館職員の海外への派遣は新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。しかしながら、オンラインを活用し、国際会議(Pest Odyssey 2021 Next Generation)にて、当館でのIPMの取り組みを積極的に発表するなど、中期計画を順調に遂行している。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表							
【年度計画】								
・ I-1-(4)-④ (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) ・ I-1-(4)-④ (東京国立博物館) 1)、2)、3)、4)								
担当部課	学芸企画部企画課 学芸企画部博物館情報課 学芸研究部調査研究課	事業責任者	課長 丸山士郎 課長 今井敦 課長 松嶋雅人					
【実績・成果】								
1) 『東京国立博物館文化財修理報告 22』を刊行した。 (東京国立博物館)								
1) ・「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。 ・特集印刷物リーフレット等6件のPDFファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。								
2) 『東京国立博物館紀要 57号』を刊行した。 『博物館でアジアの旅 空想動物園』を刊行した。 特別展図録8件、特集印刷物9件(リーフレット6件、冊子3件)を編集した。								
3) 研究誌『MUSEUM』691号～696号(6冊)を刊行した。								
4) 刊行物リポジトリの準備作業を行った。								
【補足事項】								
【評価指標】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	27件	-	-		32	31	36	25
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 刊行物については、定期刊行物、報告書、図録とも予定していたものを全て刊行することができた。 「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開し、特集印刷物リーフレットのPDFファイル版をウェブサイトに掲載することでさらなる情報公開に努めた。 刊行物リポジトリを導入するためには、必要な経費を予算化する必要がある。							
【中期計画記載事項】 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	(判定根拠、課題と対応) 刊行物については、計画していた出版物を順調に刊行し中期計画を遂行できている。ウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信を増やし、中期計画を遂行できている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表								
【年度計画】									
・ I-1-(4)-④ (東京国立博物館、京都国立博物館) 1)、(京都国立博物館) 1)、2)									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 山川暁 調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男						
【実績・成果】									
(東京国立博物館、京都国立博物館)									
1) 『文化財修理報告書』19を刊行した。									
(京都国立博物館)									
1) 『学叢』43を刊行した。									
2) 『社寺調査報告』30 (金剛寺)、『社寺調査報告』31 (観心寺) を刊行した。									
									
								『社寺調査報告』30 (金剛寺)	
【補足事項】									
(京都国立博物館)									
・ 定期刊行物の実績値には含まないが、特別展にて3件、特別企画にて1件の図録を刊行。特集展示にて1件の小冊子を刊行した。									
・ 特別企画「オリンピック×ニッポン・ビジュツ」図録は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に合わせた企画で、日英2言語併記とし、諸外国からの来館者にもオリンピック競技会に通じる日本の文化を伝えようとする意欲的な図書である。古代オリンピックと日本の風習の対比という同展のテーマに沿って当館収蔵品で構成されており、日本美術の初心者から上級者まで、幅広く楽しめる内容になっている。									
・ 『社寺調査報告』31 (観心寺) は、檜尾山観心寺 (大阪府河内長野市) の文化財悉皆調査の報告書である。元年度に刊行した科学研究費補助金 [基盤研究 (A)] 報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<観心寺編>』に収録した合計437件のうち彫刻15件を除き増補・校正を行い、併せて追加調査を行った考古資料や歴史資料を中心に新規に掲載した。彫刻については4年度に補足調査を行い、観心寺・彫刻編として刊行予定である。また、2年度末、新型コロナウイルスの影響により刊行ができなかった『社寺調査報告』30も合わせて刊行を行った。									
									
								特集展示小冊子「後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳—」	
【定量的評価】項目									
		3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数		13件	-	-		11	17	11	12
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：A		社寺調査報告、図録等を当初の計画以上に刊行することができた。特に特別企画「オリンピック×ニッポン・ビジュツ」図録は作品解説や用語を多言語化し、国外の利用にも供する内容とした。学叢についても最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。また、2年度末に新型コロナウイルスの蔓延を受け、刊行できなかった金剛寺の社寺調査報告と、追加調査を行い刊行した観心寺の社寺調査報告は非常に充実した内容を掲載することができた。以上の理由からA評価が妥当であると考えられる。							
【中期計画記載事項】									
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：A		中期計画の初年度にあたり、学叢、社寺調査報告、展覧会関係刊行物を中心に、調査・研究結果を当初の計画以上に発信することができた。特に3年度中に、金剛寺の社寺調査報告と観心寺の社寺調査報告を刊行できたことは学術的に大きく貢献できたといえる。以上からA評価が妥当であると考えられる。 学叢については、刊行後10年以内は論文要旨を、刊行後10年を経過した時点で全文をウェブサイトにて公開する作業を継続し、インターネットを活用した調査研究成果を発信していく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表							
【年度計画】								
・ I-1-(4)-④ (奈良国立博物館) 1)、2)								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 吉澤悟					
【実績・成果】								
1) 奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』第24号を刊行した。掲載内容は、論文2本、作品研究1本、研究ノート2本、調査報告2本、修理報告1本、事業報告2本の計10本であった。奈良国立博物館リポジトリに掲載した。								
2) 『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第4号を刊行した。								
【補足事項】								
奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』掲載の論文等が10本となり、例年と比較してもより活発な研究状況を反映させることができた。								
								
研究紀要『鹿園雑集』第24号		『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第4号						
【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評価	経年 変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	15件	-	-		16	17	18	15
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要については、想定より掲載希望が多く、一部掲載できないものがあったが、当館研究員のみならず外部研究者の寄稿も掲載され、年度計画の通り刊行できたといえる。 また、修理報告書も修理を担当した各修理工房、京都大学生存圏による樹種同定調査の協力を得て、例年通りに刊行することができ、年度計画を遂行できている。							
【中期計画記載事項】 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要及び修理報告書の他、展覧会の開催にあたり実施した調査の成果を展覧会図録に掲載し、また、公開講座やサンデートーク等において講演を行った。 名品展(平常展)に出陳する作品についても、調査成果を定期刊行物の「奈良博だより」に掲載した。ウェブ上も含め、調査研究の成果を広く発信しており、中期計画を着実に遂行している。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④ 調査研究成果の公表								
【年度計画】 ・ I-1-(4)-④ (九州国立博物館) 1)、2)									
担当部課	学芸部企画課 学芸部博物館科学課 学芸部展示課	事業責任者	課長 白井克也 課長 木川りか 課長 楠井隆志						
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』第17号を刊行した(部数900部)。 2) 『23-24年度 九州国立博物館 文化財修理報告』(発行部数750部)を編集、刊行した。23年度から24年度までの当館文化財保存修復施設で行った修理と、当館経費による修理の報告書をまとめた。									
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) 『東風西声』第17号では11本の論文を掲載した。(うち当館職員執筆8本、外部研究者からの寄稿3本) 2) 『23-24年度 九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館文化財保存修復施設で行った修理、及び当館経費による館外での修理の記録をまとめたものである。第4号では、23年度から24年度までを対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。報告書は、現状では紙媒体での公開にとどまっているが、将来的にはインターネット上での公開も検討している。4年度以降も、順次刊行する計画である。									
									
		東風西声第17号表紙				23-24年度 文化財修理報告表紙			
【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2	
有形文化財の収集・保管・展示等に 係る調査研究件数	12件	-	-		21	16	18	18	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要や図録等を刊行し、調査研究の成果を報告できた。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第4号も予定通り刊行し、当館での文化財修理に関する記録を公開することができた。								
【中期計画記載事項】 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。									
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、予定どおりに印刷物を刊行することができた。また、調査研究の結果を広く公表することができた。 引き続き、当館の調査研究等の取り組みを広く公開するために、印刷物を刊行できるよう努めていく。さらに、研究成果のウェブサイトでの公表について、館内での検討を継続する。								